

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015

PARASOPHIA

開催報告書

目次

1	「京都国際現代芸術祭オープングレセプション」おことば	
2	主催者あいさつ	
4	開催概要	
6	事業経過	
10	京都経済同友会パラソフィア特別委員会の活動報告	
11	内覧会・オープングレセプション	
12	河本信治「プロジェクト PARASOPHIA 2013-2015」	
14	展覧会概要	14 ARTISTS（作家リスト、京都滞在実績、活動ベース分布図）
		16 会場地図
		17 京都市美術館
		36 ブックストア、カフェ
		37 チケットブース、インフォメーションカウンター、サポートスタッフデスク、PARASOPHIA ルーム
		38 京都府京都文化博物館
		41 PARASOPHIA シネマプログラム
		42 鴨川デルタ
		43 京都芸術センター
		44 堀川団地
		46 河原町塩小路周辺
		47 大垣書店烏丸三条店、京都 BAL
		48 セクーラを読む人
		49 PARASOPHIA 参加作家 関連イベント
		51 公式カタログ
		52 公式ガイドブック、PARASOPHIA Chronicle
		53 会場運営
		53 入場券販売、チケット製作
		55 オリジナルグッズ
56	オープンリサーチプログラム	
58	プレイベント（[作品展示] ウィリアム・ケントリッジ《時間の抵抗》）	
62	パブリックプログラム	62 Parasophia Conversations
		63 アクセスプログラム
		64 コミュニティープログラム
		65 蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト
		66 スクールプログラム、ファミリープログラム
		68 主催イベント
		70 共催イベント
		71 PARASOPHIA ルームでの開催イベント
72	パラ人	
73	テクニカルサポート	
74	広報	74 全体方針、全体計画
		75 PPP（Parasophia Poster Project）、ウェブサイト
		76 SNS、メディアとの連携
		77 掲載実績
		83 広告、京都府・市との連携、教育機関への働きかけ 他アートイベントとの連携、イベント
84	PARASOPHIA サポートスタッフセンター運営事業	
86	来場者の状況等	86 会場別来場者数、主催・共催イベント来場者数、経済波及効果
		87 アンケート調査結果
90	関連事業	90 琳派 400 年記念祭プレフォーラム in 京都
		90 琳派 400 年記念新鋭選抜展
		91 ART GRID KYOTO
92	連携事業	92 特別連携事業
		93 その他の連携事業
94	収支報告	
95	運営組織	

「京都国際現代芸術祭オープングレセプション」おことば

本日ここに、PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 が無事オープニングのよき日を迎え、皆様とこうしてお目にかかれますことを大変うれしく思います。この日のために、長い時間をかけ、大きな力を尽くしていただいた関係各位の皆様方に、心よりのお祝いと御礼を申し上げます。

PARASOPHIA は、年間を通して世界各国から多くの人々が訪れる、歴史と文化の都であるこの京都に、世界の第一線で活躍される現代作家が多数集まり、街全体にアート作品を展開するという初めての試みです。参加される作家のほとんどが、芸術祭の始まる前に京都を訪れ、京都の街に息づく歴史と文化に触れ、京都に住まいされる人たちと話をされるなかで、新しい作品を作り上げていかれたとうかがっております。

私は文化というものは、生活の中に息づいてこそ文化といえると思います。掛け軸も、絵巻も、やきものも根付も、今は美術館・博物館のガラスケースの中で見るものになっていますが、かつては日本人が生活の中で日常的に使っていたものです。ガラスケースに入ってしまったことで、文字通り、われわれとの間にガラスが一枚入ってしまい、生活から切り離されてしまったように感じるのです。

しかし、この京都という街には今もまだ文化が息づいているように感じます。お店や友人のお宅に伺うと、当り前のようにお抹茶を出して下さるところが多くあります。町屋に住む方たちは、「大変やねん」と口ではおっしゃいつつも、夏になると自然に襖を外し、簀戸をはめ込んで、夏の建具に換えておられます。子どものころから、祇園祭の時期になると血が騒ぎ、落ち着かなくなるという町衆の方も少なくありません。

この古からの文化が息づく街京都で、現代芸術祭が開かれるというのはとても意義のあることだと感じております。ただ美術館に展示するだけではなく、京都古来の文化景観、そして人々が日常的に訪れる書店や鴨川といった生活空間の中に現代の芸術文化が融合し、新たな景観と思いをそこに生み出していくというのは、京都の街ならではの素晴らしい文化活動であると思います。

文化を保存するだけではなく、生かしていくことが、われわれが未来の日本のためにしていくべきことではないかと思えます。祇園祭の懸装品も、当時の最先端の技術を使って作られたものです。現代の最先端の技術を使って、21世紀を代表する最高の懸装品を未来に残すということがあってもいいでしょう。この PARASOPHIA が、50年後、100年後の京都の街を彩る文化財を作っていくきっかけとなることを祈りつつ、私よりのご挨拶といたします。

平成 27 年 3 月 6 日

彬子女王

*京都国際現代芸術祭組織委員会名誉総裁 三笠宮彬子女王のオープングレセプションにおけるごあいさつをここに掲載させていただきます。

主催者あいさつ

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 は、去る5月10日に58日間の会期の幕を下ろしました。会期中、市内・府下及び国内各地、海外からたくさんの方にご来場いただきました。皆様のご来場に厚く御礼申し上げます。

京都では初めてとなります、大規模な現代美術の国際展の開催にあたり、一般社団法人京都経済同友会が提唱し、京都府・京都市が賛同し緊密に連携をとりながらオール京都で実現に向けて準備を進めてまいりました。河本信治アーティストックディレクターは、永年のご見識を踏まえて招請された世界の第一線で活躍される40組45名のアーティストにできる限り京都に来ていただき、異文化と「京都」との触れ合いから生まれるアーティストの視座を、近代史、地域史、芸術文化史などを参照しながら複層的に構成し縦断的に関連付けて、まさにPARASOPHIAの世界観を諦観する間口の広いかつ奥行の深い展覧会を実現していただきました。何度も会場に足をお運びいただき、足を運ぶたびに見方が変わり深まるとおっしゃっている方が多いのもその表れの一つかと思えます。特に、若い年齢層の方々や、京都市美術館ではお子様連れのご家族の姿が目立ったことは、国際現代芸術祭への関心の高さと創造性に対する憧憬が、豊かな伝統とそれを超えようとする革新の精神に満ちた都市京都の未来に繋がることとして心強く嬉しく思った次第です。

会場も、アーティストの希望に応える形で、京都市美術館と京都府文化博物館 別館の主会場を含めて市内8か所で展開し、作品を通じて、いずれも個性的な歴史と空間を持つ会場と最先端の作品が呼応する空間に、感動を覚えた方も少なくないと伺っています。

主会場となりました、帝冠様式の京都市美術館はじめ、番組小学校を前身とする京都芸術センター、旧日銀京都支店の京都文化博物館別館など、京都の近代建築の素晴らしさと共に、アーティストによって見出された、鴨川デルタや河原町塩小路周辺、堀川団地上長者町棟などの会場は、会場と作品が一体となってオルタナティブな京都の新たな魅力の発見につながったとの評価をいただいています。

京都は現代芸術においても先進的取り組みを行ってきた都市であり、多数の芸術系大学を擁する大学のまちでもあります。多くの現代芸術作家や研究者を生み育ててきたまちでもあります。今回の開催を機に、これらの芸術文化にかかわる人々のネットワークが更に緊密に結び合い、京都での国際展のあり方について多方面からご意見を賜り、様々な議論の中からこれからのことを、時間をかけて探っていければとの思いであります。

本芸術祭の開催にあたり、ご出品いただきましたアーティストの皆様、趣旨にご賛同いただきご助成いただきました文化庁、ご後援いただきました国際交流基金、ご協力ならびにご支援いただきました関係機関、企業、団体、個人のすべての皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

京都国際現代芸術祭組織委員会
会長 長谷 幹雄

名誉総裁 三笠宮彬子女王殿下御臨席のもと、盛大に開催されましたオープニングレセプションで幕を開けた PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 は、開催期間中 26 万人の方々が鑑賞され、京都初の本格的な現代芸術の国際展となりました。開催に御支援・御尽力をいただきました関係の皆様へ厚く御礼申し上げます。

国内外で活躍する世界的アーティストが多数京都に集結し、京都の歴史、文化、街並み等からインスピレーションを受け、様々な方々との出会いと交流を通じて、これまでにない創造性の融合による斬新な作品が生み出されました。また、展覧会と連動して、来日作家によるセミナーや交流会など多くのプログラムも展開されました。

子どもや学生を含む幅広い世代の来場者があったこの国際現代芸術祭を通じて、多くの府民の皆様が、世界の最先端を走るアーティストの感性とエネルギーに触れ、普段見慣れたはずの京都の街並みに、アート力で新しい顔を発見するというように、世代や国境を越えて文化の交流が生まれ、新たな輝きを放つ京都の街をご堪能いただけたのではないかと考えております。さらには、芸術祭と京都が海外メディアで紹介されるなど、京都の文化・芸術の海外発信にもつながったことは、大きな成果と考えております。

こうした成果を京都の文化・芸術の新たな創造や一層大きな交流につなげていくため、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、日本文化の真髄と日本人の深い精神性を、文化首都であるここ京都から世界に発信する取組をオール京都で進めてまいりますので、今後とも格別の御理解・御協力をお願い申し上げます。

京都国際現代芸術祭組織委員会副会長
京都府知事 山田 啓二

伝統を守りながらも、従来にないものを常に生み出し続けてきた京都のまち。そんな京都ならではの現代芸術への新たな挑戦、PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 は、おかげさまで 26 万人余りの方々に御来場いただき大成功に終わりました。

国内外で活躍する新進気鋭の作家の皆様が京都に滞在され、まさしく“京都発”の新作が数多く誕生。京都市美術館では、通常の展覧会では使われない空間にも作品が展示され、同館の持つ可能性が大いに広がったことを実感しました。

そして特に印象的だったのが、たくさん子どもたちの姿です。彼らが創造的な作品に間近に触れた会場は、笑顔や歓声で満ち溢れていました。未来の主人公である子どもたちにとって、PARASOPHIA が芸術に親しむ大きなきっかけとなったなら大変嬉しい限りです。

オール京都で一丸となって取り組んだ、京都初の現代芸術の大規模な国際展。その数多くの成果によって、これから京都の新しい文化芸術の潮流が創り出されることを願っています。

結びに、本芸術祭の開催に多大な御尽力をされました、長谷幹雄組織委員会会長をはじめとする関係者の皆様、一般社団法人京都経済同友会、文化庁など関係機関の皆様へ心から感謝申し上げます。

京都国際現代芸術祭組織委員会副会長
京都市長 門川 大作

開催概要

- 名称 PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015
- 会期 2015年3月7日(土)–5月10日(日)
- 会場 京都市美術館、京都府京都文化博物館、京都芸術センター、
堀川団地(上長者町棟)、鴨川デルタ(出町柳)、河原町塩小路周辺、
大垣書店烏丸三条店、京都 BAL
- 主催 京都国際現代芸術祭組織委員会
一般社団法人京都経済同友会、京都府、京都市
- アーティスティックディレクター 河本信治(元・京都国立近代美術館学芸課長)

■参加作家数 40組 45人

- Lisa Anne Auerbach | リサ・アン・アワーバック
- Nairy Baghramian | ナイリー・バグラミアン
- Cai Guo-Qiang | 蔡國強(ツァイ・グオチャン)
- Joost Conijn | ヨースト・コナイン
- Stan Douglas | スタン・ダグラス
- Harun Farocki | ハルーン・ファロッキ
- Simon Fujiwara | サイモン・フジワラ
- Dominique Gonzalez-Foerster | ドミニク・ゴンザレス = フォルステル
- Hoefner/Sachs | ヘフナー / ザックス
- Hedwig Houben | ヘトヴィヒ・フーベン
- Yoshimasa Ishibashi | 石橋義正
- Brandt Junceau | ブラント・ジュンソー
- Emiko Kasahara | 笠原恵美子
- William Kentridge | ウィリアム・ケントリッジ
- Ragnar Kjartansson | ラグナル・キヤルタンソン
- Keiko Kurachi & Satoru Takahashi | 倉智敬子+高橋悟
- Louise Lawler | ルイーズ・ローラー
- Ann Lislegaard | アン・リスレゴール
- Tatsuo Majima | 眞島竜男
- Ahmed Mater | アフメド・マータル
- Aernout Mik | アーノウト・ミック
- Yasumasa Morimura | 森村泰昌
- Susan Philipsz | スーザン・フィリップス
- Florian Pumhösl | フロリアン・プムヘスル
- Pipilotti Rist | ビピロッティ・リスト
- Arin Rungjang | アリン・ルンジャー
- Aki Sasamoto | 笹本晃
- Allan Sekula | アラン・セクーラ
- The Sekula Reader in Japan | セクーラを読む人
- Gustavo Speridião | グシュタヴォ・シュペリジョン
- Tadasu Takamine | 高嶺格
- Koki Tanaka | 田中功起
- Ana Torfs | アナ・トーフ
- Rosemarie Trockel | ローズマリー・トロッケル
- Jean-Luc Vilmouth | ジャン＝リュック・ヴィルムート
- Danh Vo | ヤン・ヴォー
- Hong-Kai Wang | 王虹凱(ワン・ホンカイ)
- Xu Tan | 徐坦(シュー・タン)
- Miwa Yanagi | やなぎみわ
- Alexander Zahltén | アレクサンダー・ザルテン

協賛

一般財団法人池坊華道会
株式会社イシダ
裏千家 一般財団法人今日庵
SG ホールディングス株式会社
オムロン株式会社
株式会社学生情報センター
京セラ株式会社
京都監査法人
株式会社京都銀行
京都新聞
京都信用金庫
株式会社京都製作所
京都中央信用金庫
株式会社クラウディア
月桂冠株式会社
株式会社鴻池組
サムコ株式会社
サンコール株式会社
サントリーホールディングス株式会社
三洋化成工業株式会社
資生堂
株式会社島津製作所
親友会ホールディングス株式会社
株式会社 SCREEN ホールディングス
宝酒造株式会社
タキイ種苗株式会社
株式会社淡交社
株式会社トーセ
株式会社ナベル
日東薬品工業株式会社
日本新薬株式会社
日本写真印刷株式会社
日本電産株式会社
株式会社長谷本社
パナソニック株式会社
株式会社フクナガ
FLANDERS CENTER
株式会社堀場製作所
株式会社増田医科器械
株式会社三井住友銀行
株式会社村田製作所
森トラスト株式会社
株式会社ユーシン精機
吉忠株式会社
ローム株式会社
株式会社ワコールホールディングス
ワタキューセイモア株式会社
JR 西日本京都グループ
西日本旅客鉄道株式会社
京都駅ビル開発株式会社
株式会社京都駅観光デパート
京都ステーションセンター株式会社
株式会社ジェイアール西日本ホテル開発
株式会社ジェイアール西日本伊勢丹
嵯峨野観光鉄道株式会社

エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社
大阪ガス株式会社
株式会社キャリアパワー
京都青果合同株式会社
株式会社京都ホテル
株式会社 JTB 西日本京都支店
医療法人社団石鎚会
株式会社ドコモ CS 関西 京都支店
株式会社トロンマネージメント
西日本電信電話株式会社京都支店
株式会社ファルコホールディングス
株式会社フラットエージェンシー
株式会社細尾
ワタベウエディング株式会社

寄付

イワモトエンジニアリング株式会社
株式会社ウエダ本社
株式会社響映
株式会社共栄薬研
学校法人京都産業大学
株式会社京都センチュリーホテル
株式会社キング
有限会社クエイ・アソシエイツ
株式会社三洋商事
学校法人大和学園
土山印刷株式会社
西村証券株式会社
日新電機株式会社
株式会社福寿園
ホテルアンテルーム京都
学校法人龍谷大学
立木貞昭
八木茂

協力

京都国立近代美術館
京都工芸繊維大学
京都嵯峨芸術大学
京都市立芸術大学
京都精華大学
京都造形芸術大学
成安造形大学
ヴィラ九条山(アンスティチュ・フランセ関西)
ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川
アランヴェールホテル京都
Imagineering 実行委員会
公益財団法人 石川文化振興財団
ウェスティン都ホテル京都
株式会社大垣書店
京都東急ホテル
京都みなみ会館
株式会社クロスカンパニー
ジャパンマテリアル株式会社
大丸京都店
高島屋 京都店

株式会社ティーンアンドテラーカジャパン
ハイアット リージェンシー 京都
BAL
ヤサカ自動車株式会社

助成

平成 26 年度 文化庁地域発・文化芸術創造発信
イニシアチブ
公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団
アンスティチュ・フランセ / フランス大使館
オーストリア大使館
オランダ王国大使館
公益財団法人花王 芸術・科学財団
一般社団法人ニッシャ印刷文化振興財団
公益財団法人野村財団
Pro Helvetia
公益財団法人ポーラ美術振興財団
モンドリアン財団
公益財団法人朝日新聞文化財団
*公益財団法人京都地域創造基金助成事業に採択

後援

国際交流基金
アイスランド大使館
カナダ大使館
スイス大使館
タイ王国大阪総領事館
デンマーク王国大使館
大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館
ノルウェー王国大使館
ブラジル大使館
ブリティッシュ・カウンシル

認定

公益社団法人企業メセナ協議会

事業経過

開催日	内容	
2012年	4月27日 平成24年度京都経済同友会通常総会 京都経済同友会「京都ビエンナーレ計画」発表	
	5月22日 第1回京都ビエンナーレ研究会(京都経済同友会、京都府、京都市)	
	6月4日 第1回ワーキンググループ(京都経済同友会、京都府、京都市)	
	12日 ヒアリング 高橋信也(森美術館ゼネラルマネージャー)	
	7月3日 第2回ワーキンググループ(京都経済同友会、京都府、京都市)	
	5日 ヒアリング 伊東正伸(国際交流基金文化事業部企画役)	
	19日 第3回ワーキンググループ(京都経済同友会、京都府、京都市)	
	25日 第2回京都ビエンナーレ研究会(京都経済同友会、京都府、京都市)	
	29日 ヒアリング、講演会聴講 ロジャー M. ビュルゲル(釜山ビエンナーレ 2012 ディレクター)	
	31日 釜山ビエンナーレ事務局訪問(京都経済同友会)	
	8月1日 京都ビエンナーレ準備室開設(長谷代表幹事)	
	6日 第4回ワーキンググループ(京都経済同友会、京都府、京都市)	
	9月4日 第5回ワーキンググループ(京都経済同友会、京都府、京都市)	
	6日 長谷幹雄、門川大作(京都市長)会談	
	7日 長谷幹雄、山田啓二(京都府知事)会談	
	21日 第3回京都ビエンナーレ研究会(京都経済同友会、京都府、京都市)	
	10月26-28日 第1回世界ビエンナーレ大会出席、ビエンナーレ視察(釜山、光州、ソウル)	
	2013年	1月23日 アーティストディレクター選考委員会
		4月1日 京都国際現代芸術祭組織委員会発足
		18日 第1回ファン্ডレイジングミーティング
		18-25日 河本 AD 出張(サンパウロ、シャルジャ)
		20日 プロフェッショナルアドバイザーボードミーティング(リゼット・ラニヤード)
		26日 平成25年度京都経済同友会通常総会
		5月7日 第2回ファン্ডレイジングミーティング
		10-16日 河本 AD 出張(ロンドン、パリ、アムステルダム)
		13日 プロフェッショナルアドバイザーボードミーティング(ウテ・メタ・パウアー)
		20日 第3回ファン্ডレイジングミーティング
		27日 第1回記者会見(長谷幹雄、門川大作、山田啓二、河本信治) 京都国際現代芸術祭組織委員会設立総会 懇親会
		6月5日 プロフェッショナルアドバイザーボードミーティング(越前俊也/佐藤守弘/梶昇/平芳幸浩/吉岡洋)
		12日 第4回ファン্ডレイジングミーティング
		21日 オープンリサーチプログラム01[レクチャー]リビット水田典「猫と犬のように——映画とカガストロフ」
25日 プロフェッショナルアドバイザーボードミーティング(神谷幸江)		
28日 [説明会] 京都精華大学 PARASOPHIA 説明会 河本信治		
7月1日 京都文化芸術コア・ネットワーク設立総会 [レクチャー] 河本信治		
4日 第5回ファン্ডレイジングミーティング		
8日 プロフェッショナルアドバイザーボードミーティング(平芳幸浩/山本麻友美)		
12日 プロフェッショナルアドバイザーボードミーティング(松尾恵)		
19日 京都経済同友会第1回パラソフィア特別委員会 [レクチャー]「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 について」河本信治		
27日 オープンリサーチプログラム02[報告会] 田中功起+蔵屋美香「抽象的に話すこと——ヴェネツィア・ビエンナーレに参加して」		
30日 プロフェッショナルアドバイザーボードミーティング(高橋信也) パラ人ミーティング		
8月1日 長谷会長がクリス・テルコンに面会		
4日 [レクチャー] HAPS「HONESTY AND MODESTY」京都岡崎地区をめぐる文化地政学トーク・シリーズ「Globalization and art—the Okazaki case」[G1]「国際芸術祭と都市」河本信治 x 小崎哲哉		
7日 第6回ファン্ডレイジングミーティング		
7-8日 アーノウト・ミック 事前調査		
9日 あいちトリエンナーレ 2013 視察(京都経済同友会、京都府、京都市、事務局)		
12日 パラ人全体ミーティング		
22日 プロフェッショナルアドバイザーボードミーティング(杉浦幸子)		
23日 パラ人全体ミーティング		
27日 第7回ファン্ডレイジングミーティング		
9月5-11日 ドミニク・ゴンザレス = フォルステル 事前調査		

開催日	内容
2013年	9月6日 オープンリサーチプログラム03[レクチャー / パフォーマンス]ドミニク・ゴンザレス = フォルステル「M.2062 [Scarlett]」
	7日 アナ・トーフ 事前調査
	17-30日 河本 AD 出張(リヨン、パリ、ベルリン、ケルン、チューリヒ、ウィーン)
	20日 パラ人学生ミーティング 第1回京都国際現代芸術祭組織委員会幹事会
	24日 国際交流基金 中国・韓国・インド キュレーター招へいプログラム [レクチャー] 中谷至宏
	25日 パラ人全体ミーティング
	27日 プロフェッショナルアドバイザーボードミーティング(ロジャー M. ビュルゲル) 第8回ファン্ডレイジングミーティング
	28日 プロフェッショナルアドバイザーボードミーティング(杉浦幸子)
	10月5日 [レクチャー] 超京都 2013「現代美術@平成の京町屋」アートマーケットと国際芸術祭 中谷至宏
	6日 [シンポジウム] 琳派400年記念祭プレフォーラム in 京都 河野元昭 + 河本信治 + コシノジュンコ + 佐々木丞平 + 高階秀爾 + 辻惟雄 + 芳賀徹 + 細見良行 + 森田邦彦 + 山本容子
	13-15日 蔡國強 事前調査
	14日 オープンリサーチプログラム04 [対談] ダイアローグ——蔡國強 x 浅田彰 京都経済同友会特別交流会「京都経済同友会と作家との出会い①蔡國強氏」
	16日 パラ人学生ミーティング
	19日 パラ人全体ミーティング
	22-11月3日 中谷キュレーター 出張(ヴェネツィア、リヨン、メンヒェングラートバッハ、パリ)
	24日 パラ人学生ミーティング
	25日 オープンリサーチプログラム05 [レクチャー] 妹島和世
	26日 プロフェッショナルアドバイザーボードミーティング(杉浦幸子)
	29日 パラ人学生ミーティング パラ人全体ミーティング
	30日 パラ人学生ミーティング
	31日 電子書籍「Parasophia Chronicle」創刊 プロフェッショナルアドバイザーボードにメンバー追加(石原友明)
	11月1日 第9回ファン্ডレイジングミーティング
	3日 パラ人学生ミーティング パラ人全体ミーティング
	6日 パラ人学生ミーティング
	7日 プロフェッショナルアドバイザーボードミーティング(高橋信也)
	8-11日 尾崎事務局長 出張(シンガポール)
	8-13日 河本 AD 出張(シンガポール、バンコク)
	13日 パラ人学生ミーティング パラ人全体ミーティング
	14日 京都経済同友会第2回パラソフィア特別委員会 [レクチャー]「現代アートの楽しさとは?—京都国際現代芸術祭の可能性」梶昇 京都経済同友会特別交流会「京都経済同友会と作家との出会い②梶昇氏」
	20日 パラ人学生ミーティング
	22日 プロフェッショナルアドバイザーボードミーティング(石原友明/越前俊也/佐藤守弘/島本流/平芳幸浩/吉岡洋)
26日 パラ人全体ミーティング	
29日 プレイベント サポートスタッフ募集説明会	
30日 プレイベント サポートスタッフ募集説明会	
12月10日 プロフェッショナルアドバイザーボードミーティング(佐藤守弘/島本流)	
11日 プロフェッショナルアドバイザーボードミーティング(松尾恵) パラ人全体ミーティング	
12日 プレイベント サポートスタッフ臨時募集説明会	
13日 プロフェッショナルアドバイザーボードミーティング(大野木啓人/梶昇)	
22日 プレイベント サポートスタッフ事前研修 [第1講座] 美術館を知る 杉浦幸子、河本信治、中谷至宏	
23日 プレイベント サポートスタッフ事前研修 [第1講座] 美術館を知る 杉浦幸子、河本信治、牧口千夏	
26日 第2回京都国際現代芸術祭組織委員会幹事会	
2014年	1月11日 パラ人全体ミーティング
	19日 プレイベント サポートスタッフ事前研修 [第2講座] 現代芸術を考える①山本麻友美
	26日 プレイベント サポートスタッフ事前研修 [第3講座] 現代芸術を考える②河本信治

開催日	内容	
2014年 2月7日	イベント サポートスタッフ事前研修[第4講座]会場交流心得、運営実習	
	イベント プレス内覧会[レクチャー]河本信治	
	8-3月16日 イベント [作品展示]ウィリアム・ケントリッジ《時間の抵抗》	
8-9日	イベント ティーチャーズプログラム 河本信治	
11日	プロフェッショナルアドバイザリーボードミーティング(ウテ・メタ・パウアー / 神谷幸江)	
15日	イベント アクセスプログラム[映画技術史]森脇清隆「京都の映画——アートとエンターテインメントが交錯した時代」	
16日	オープンリサーチプログラム06 / イベント アクセスプログラム[物語生成]円城塔「『時間の抵抗』へ寄せて」	
21-23日	ウィリアム・ケントリッジ 事前調査	
21日	ウィリアム・ケントリッジ表敬訪問(京都府、京都市、稲盛財団)	
22日	イベント 関連イベント[レクチャー]ウィリアム・ケントリッジ「宿命からの逃走——『時間の抵抗』について」	
	イベント ウェルカムパーティー	
3月1日	イベント スクールプログラム(京都市立安祥寺中学校美術部)	
	イベント アクセスプログラム[社会哲学]仲正昌樹「(芸術の時間)をめぐる哲学的考察——ハイデガー、ベンヤミン等の時間論の視点から、芸術における(時間経験)の意味について考える」	
	6日	京都経済同友会第3回パラソフィア特別委員会「京都におけるアートの可能性」石坂泰章
	8日	イベント スクールプログラム(奈良女子大学附属中等教育学校ほか)
	イベント アクセスプログラム[科学・物理学]佐藤文隆「時間をつくる」	
	9日	イベント アクセスプログラム[美学・芸術学]吉岡洋「タイムマシン解体—空間化された時間・機械としての時間—」
	11日	パラ人全体ミーティング
	14日	イベント スクールプログラム(京都府立亀岡高等学校)
	スクールプログラム(京都府立洛西高等学校)	
	15日	イベント ファミリープログラム
	プロフェッショナルアドバイザリーボードミーティング(杉浦幸子)	
	パラ人全体ミーティング	
	スクールプログラム(京都市四ノ宮児童館)	
	スクールプログラム(京都府立網野高等学校ほか)	
	19日	第3回京都国際現代芸術祭組織委員会幹事会
22日	パラ人全体ミーティング	
24日	パラ人学生ミーティング	
28日	第1回京都国際現代芸術祭組織委員会評議会	
29日	京都芸術センター【展覧会ドラフト2015】キュレーター講座「展覧会の作り方」河本信治	
31日	サイモン・フジワラ 事前調査	
4月1日	プロフェッショナルアドバイザリーボードにメンバー追加(芳野明)	
	3-4日	笹本晃 事前調査
	4日	第2回記者会見(河本信治、クリス・デルコン、吉岡洋ほか)
	オープンリサーチプログラム07[レクチャー]クリス・デルコン「21世紀のための美術+建築 テート・モダン」	
	パラ人 no. 001 発行	
	7日	パラ人ミーティング
	11-5月14日	第2回京都国際現代芸術祭組織委員会評議会(書面決議)
	17日	パラ人ミーティング
	17-22日	スーザン・フィリップス 事前調査
	18日	アクセスプログラム[勉強会]石橋義正
	20日	オープンリサーチプログラム08[レクチャー]スーザン・フィリップス「You Are Not Alone」
	23日	京都経済同友会第4回パラソフィア特別委員会[対談]梶原、松山大耕
	27-29日	ピロロッチェ・リスト 事前調査
	28日	パラ人ミーティング
	29日	アクセスプログラム[ギャラリートーク]私的防災計画:ピロロッチェ・リストの作品を中心に 牧口千夏
オープンリサーチプログラム09[レクチャー]ピロロッチェ・リスト		
5月1-6日	河本 AD 出張(ニューヨーク)	
	4-14日	フロリアン・ブムヘルス 事前調査
	6日	[講義]同志社大学 現代芸術論I 2015年の現代美術:パラソフィアの意義と可能性「パラソフィアのオーガニゼーション」上田将之、原智治

開催日	内容		
2014年 5月15日	パラ人ミーティング		
	20日	[講義]同志社大学 現代芸術論I 2015年の現代美術:パラソフィアの意義と可能性「パラソフィアのサイト」中谷至宏	
	21日	平成26年度京都経済同友会通常総会 [レクチャー]河本信治	
	23-6月2日	河本 AD 出張(パリ、ブリュッセル、アムステルダム、ベルリン)	
	27日	パラ人ミーティング	
	31日	プロフェッショナルアドバイザリーボードにメンバー追加(北野圭介)	
	6月3-10日	アリン・ルンジャー 事前調査	
		11日	第4回京都国際現代芸術祭組織委員会幹事会
		12日	プロフェッショナルアドバイザリーボードミーティング(越前俊也 / 吉岡洋 / 大野木啓人 / 梶原 / 平芳幸浩 / 北野圭介)
		14日	京都芸術センター【展覧会ドラフト2015】2次審査 河本信治、平芳幸浩
		17日	[講義]同志社大学 現代芸術論I 2015年の現代美術:パラソフィアの意義と可能性「パラソフィアのオープンリサーチプログラム」池澤茉莉、永田絵里
		19-7月2日	河本 AD 出張(アイトホーフェン、コペンハーゲン、ミュンヘン、ベルリン、サンクトペテルブルク、ロンドン)
		19-7月3日	第3回京都国際現代芸術祭組織委員会評議会(書面決議)
		24日	[講義]同志社大学 現代芸術論I 2015年の現代美術:パラソフィアの意義と可能性「パラソフィアのパブリックプログラム」多胡真佐子、川角礼子
		26日	パラ人ミーティング
30-7月9日		笹本晃 事前調査	
7月2-9日	京都経済同友会 アイランド・ロンドン視察		
	3日	パラ人ミーティング	
	5日	コミュニティープログラム[トークセッション]笹本晃 x ミヤギフシ+小山田徹 / 徳山拓一	
		笹本晃 [パフォーマンス] Skewed Lies	
	12日	パラ人ミーティング	
	14-17日	スーザン・フィリップス 事前調査	
	14日	京都経済同友会第5回パラソフィア特別委員会[レクチャー]名和晃平	
	15日	電子書籍「Parasophia Chronicle」第1巻第2号:田中功起+蔵谷美香「抽象的に話すこと—ヴェネツィア・ビエンナーレに参加して」発行	
	15-20日	田中功起 事前調査	
	19日	オープンリサーチプログラム10[連続レクチャー]眞島竜男「全体タイトルは思案中」第1回「開いて閉じる、閉じて開く、開いて折られたら、折られたんで開く:日本の近現代美術について(の2時間レクチャー)」	
	20日	パラ人ミーティング	
	30日	パラ人ミーティング	
	31日	電子書籍「Parasophia Chronicle」第1巻第3号:ドミニク・ゴンザレス=フォレスト「M.2062 (Scarlett)」発行	
		ヨコハマトリエンナーレ視察(事務局)	
	8月1-5日	王虹凱 事前調査	
1日		[レクチャー]京都造形芸術大学 graduates under 30 selected 展 スペシャル・トーク 中谷至宏	
2日		パラ人ミーティング	
		KUAD graduates under 30 selected 展にパラ人賞授与	
5日		パラ人全体ミーティング	
8日		パラ人学生ミーティング	
		パラ人 no. 002 発行	
21日		パラ人ミーティング	
24日		蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」制作助手のためのワークショップ 辰巳昌利、河本信治	
29-9月3日		河本 AD 出張(バンクーバー、ロサンゼルス)	
9月1日		パラ人ミーティング	
		10-16日	河本 AD 出張(ブリュッセル、パリ)
		10日	パラ人ミーティング
		18日	第5回京都国際現代芸術祭組織委員会幹事会
		19日	パラ人ミーティング
	20日	蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ	
21日	PARASOPHIA サポートスタッフ募集説明会		
	オープンリサーチプログラム10[連続レクチャー]眞島竜男「全体タイトルは思案中」第2回「その公共性は誰のものなのか?美術館、国際展、現代美術、アートについて(の2時間レクチャー)」		

開催日	内容
2014年	9月 24-10月 2日 アン・リスレゴール 事前調査
	24日 パラ人ミーティング
	25-28日 アフメド・マータル 事前調査
	29日 PARASOPHIA サポートスタッフ募集説明会
	30日 パラ人 no. 003 発行
	第3回記者会見(河本信治、長谷幹雄)
	オープンリサーチプログラム 11[レクチャー] アン・リスレゴール
	10月 4日 PARASOPHIA オープンオフィス(ニュー・ブランシュ KYOTO 2014)
	5日 アクセスプログラム in 横浜[横浜トライアル CASE-3] 森村泰昌 × 河本信治「Still Moving: 漂流」
	7日 パラ人ミーティング
	11日 蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ
	PARASOPHIA サポートスタッフ募集説明会
	15日 京都経済同友会 10月度幹事会 [レクチャー] 河本信治
	20-26日 リサ・アン・アワーバック 事前調査
	21-11月 13日 ヘフナー / ザックス 事前調査
	21日 PARASOPHIA サポートスタッフ募集説明会
	25日 蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ
	28-11月 3日 プラント・ジュンソー 事前調査
	11月 3-9日 ヨースト・コナイン 事前調査
	7-13日 田中功起 事前調査
	8日 田中功起「美術館で戦後史について考えるためのワークショップ」事前オリエンテーション
	表象文化論学会 第9回研究発表集会 企画パネル「アラン・セクーラ、写真とテキスト、イメージと地政学のあいだ」
	9日 表象文化論学会 第9回研究発表集会 関連企画「アラン・セクーラ、写真とテキスト、イメージと地政学のあいだII」
	PARASOPHIA サポートスタッフ募集説明会
	12日 PARASOPHIA サポートスタッフ 第1回勉強会「Our Parsophia 私たちのパラソフィアへ」河本信治
	16日 Parasophia Conversation 01 アレクサンダー・ザルテン × 北野圭介「21世紀のイメージ・トラフィックを考える」
	16-21日 ルイズ・ローラー 事前調査
	17日 プロフェッショナルアドバイザーボードにメンバー追加(牧口千夏)
	18日 蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ
	18-27日 グシュタヴ・シュベリジョン 事前調査
	19日 オープンリサーチプログラム 12[レクチャー] ルイズ・ローラー
	オープンリサーチプログラム 10[連続レクチャー] 眞島竜男「全体タイトルは思案中」第3回「ふんてんてんかいてんかいてんしんぶんてんてんてん(仮)」、『北京日記』、『鶴沼相撲・京都ボクシング』、『日本近代美術/楽しき国土』: 眞島竜男の作品について(2時間のプレゼンテーション)」
	19-23日 ナイリー・バグラミアン 事前調査
	ヤン・ヴォー 事前調査
	20日 PARASOPHIA サポートスタッフ募集説明会
	23日 蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ
	PARASOPHIA サポートスタッフ 第2回勉強会
	27日 京都市平成 27年度 ようこそアーティスト 文化芸術とくべつ授業『現代美術』 樫昇
	12月 3日 パラ人ミーティング
	4-7日 徐坦 事前調査
4-9日 アーノウト・ミック 事前調査	
4-10日 田中功起 事前調査	
5日 PARASOPHIA サポートスタッフ 第3回勉強会「アーティスト・リサーチ1」 田中功起、山本麻友美、中谷至宏	
7-8日 田中功起「美術館で戦後史について考えるためのワークショップ」撮影	
10日 京都市 平成 27年度 ようこそアーティスト 文化芸術とくべつ授業『現代美術』 樫昇	
12日 PARASOPHIA サポートスタッフ募集説明会	
パラ人ミーティング	
17日 蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ	
19-24日 王虹凱 事前調査	
22日 PARASOPHIA サポートスタッフ 第4回勉強会	

開催日	内容
2014年	12月 23日 オープンリサーチプログラム 13[ワークショップ] 王虹凱「(Dancers of the Millions) (仮称)」
2015年	1月 4日 パラ人ミーティング
	12日 パラ人 会期前! PARASOPHIA ツアー 2015
	14日 蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ
	17日 蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ
	オープンリサーチプログラム 10[連続レクチャー] 眞島竜男「全体タイトルは思案中」第4回「重なった土/飛び出した土: 京都、PARASOPHIA、岸田劉生、満洲についての2時間のダイアグラム」
	20日 パラ人ミーティング
	21日 PARASOPHIA サポートスタッフ募集説明会
	26-31日 ビビロッティ・リスト 作品展示
	26日 パラ人ミーティング
	27日 第6回京都国際現代芸術祭組織委員会幹事会
	29日 PARASOPHIA サポートスタッフ 第5回勉強会
	30日 第4回記者会見(河本信治、ビビロッティ・リスト、ロジャー M. ビュルゲル)
	アクセスプログラム [レクチャー] ロジャー M. ビュルゲル「いま」が始まる時
	2月 1日 PARASOPHIA サポートスタッフ募集説明会
	5日 アクセスプログラム [レクチャー] クリスチャン・メルリオ
	10日 パラ人 no.004 発行
	11日 パラ人 山極総長を交えて座談会
	17-3月 11日 ヘフナー / ザックス 作品展示
	17日 蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ
	20日 蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ
	パラ人ミーティング
	24-27日 蔡國強 作品展示
	24-3月 7日 徐坦 作品展示
	24-3月 10日 ジャン＝リュック・ヴィルムート 作品展示
	25-3月 8日 アン・リスレゴール 作品展示
	26-3月 7日 田中功起 作品展示
	26日 PARASOPHIA サポートスタッフ募集説明会
	27-28日 PARASOPHIA サポートスタッフセンター&コングレ 合同事前研修 [レクチャー] 河本信治
	28日 PARASOPHIA カウントダウン Parasophia Conversations 02 森村泰昌 × ドミニク・ゴンザレス = フォルステル「合わせ鏡の対話」(ドミニク・ゴンザレス = フォルステル氏の体調不良により森村泰昌氏によるトークとして開催)
	28-3月 6日 PARASOPHIA カウントダウン [上映企画] 会期直前カウントダウンイベント in 京都みなみ会館
	28-3月 7日 アリン・ルンジャー 作品展示
	3月 1日 プロフェッショナルアドバイザーボードにメンバー追加(森口邦彦)
	1-7日 ヨースト・コナイン 作品展示
1-10日 アナ・トーフ 作品展示	
2-7日 サイモン・フジワラ 作品展示	
ナイリー・バグラミアン 作品展示	
2-9日 スーザン・フィリップス 作品展示	
2-11日 フロリアン・フムヘル 作品展示	
2-12日 プラント・ジュンソー 作品展示	
3-4日 PARASOPHIA カウントダウン [ワークショップ] ジャン＝リュック・ヴィルムート「カフェ・リトル・ボーイ」	
3-7日 蔡國強 作品展示	
グシュタヴ・シュベリジョン 作品展示	
3-10日 王虹凱 作品展示	
4-8日 アーノウト・ミック 作品展示	
5日 京都経済同友会 第6回パラソフィア特別委員会 若手アーティスト 4名のトーク	
PARASOPHIA サポートスタッフ 現地説明会	
6日 三笠宮彬子女王殿下が名誉総裁に就任	
PARASOPHIA 公式カタログ・ガイドブック発行	
プレス内覧会	
特別内覧会	
PARASOPHIA カウントダウン 蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」	
PARASOPHIA カウントダウン やなぎみわステージトレーラープロジェクト「オープニング・ボールダンスショー」	

開催日	内容
2015年 3月 6日	オープニングレセプション
7日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 開幕 (3月7日-5月10日) [レクチャー] サイモン・フジワラ [ツアー] ヘフナー / ザックスによる崇仁ガイドツアー [レクチャー] 下條信輔「イリュージョン：認知と身体のリアリティ」 京都芸術センター【展覧会ドラフト 2015】対談①川村麻純 × 王虹凱 [ワークショップ] 蔡國強「花火風を上げる」
8日	京都国立近代美術館 キュレトリアル・スタディズ 08 フロリアン・ブムヘル × MOMAK [シンポジウム] Parasophia Conversations 03 「美術館を超える展覧会は可能か」 アンドレアス・バイティン、ロジャー・M. ビュルゲル、高橋悟、河本信治、神谷幸江
9日	[ワークショップ] Parasophia Conversations 04 王虹凱「百万人の踊り手」 [鼎談+野外上映会] やなぎみわ ステージトレーラープロジェクト 王虹凱、沈昭良、やなぎみわ (王虹凱氏の参加および上映会は中止) [トークイベント] Parasophia Conversations 05 眞島竜男 × 国際交流基金招聘キュレーター
13日	[レクチャー&ギャラリートーク] プラント・ジュンソー
14日	蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ [シネマプログラム] トーク：笠原恵実子 × 森脇清隆 京都芸術センター【展覧会ドラフト 2015】対談②川村麻純 × やなぎみわ
15日	蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ
18日	笹本晃 [パフォーマンス] 「ラストコール、誤りハッピーアワー」(関係者向け)
19-22日	笹本晃 [パフォーマンス] 「ラストコール、誤りハッピーアワー」
21日	蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ [レクチャー] 笹本晃
22日	蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ
23日	第7回京都国際現代芸術祭組織委員会幹事会
24日	第73回京都・神戸経済同友会合同懇談会 [レクチャー] 河本信治 第4回京都国際現代芸術祭組織委員会評議会(書面決議)
28日	蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ スクールプログラム 京都府立桃山高等学校 ボンビドゥー・ロイヤルアカデミー [レクチャー] 河本信治
29日	蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ PARASOPHIA サポートスタッフ募集説明会 [レクチャー] 眞島竜男「一つのコンテンツポラリー / 一つのコンプリシティー (共犯) : 2015.03.29.13:00-13:15」
4月 4日	蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ [レクチャー] 眞島竜男「一つのコンテンツポラリー / 一つのコンプリシティー (共犯) : 2015.04.04.13:00-13:15」 スクールプログラム 京都府立宮津高等学校 美術部
5日	蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ [レクチャー] 眞島竜男「一つのコンテンツポラリー / 一つのコンプリシティー (共犯) : 2015.04.05.13:00-13:15」 [シネマプログラム] トーク 1: 韓燕麗 × アレクサンダー・ザルテン
10日	[ギャラリートーク] アクセスプログラム [植物分類学] 萩原樹徳
11日	蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ 森美術館 ベストフレンズ [レクチャー] 河本信治 [レクチャー] 笠原恵実子「制度の中の美学 / 美学の中の制度——近代京都からの考察」
12日	蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ [シネマプログラム] トーク 2: 松江哲明 × アレクサンダー・ザルテン [レクチャー] 上野千鶴子「おまかせ民主主義からの脱却」 やなぎみわステージトレーラープロジェクト タデウシュ・カントル生誕 100 周年記念 レクチャー & シンポジウムおよび野外上映
13日	関西経済同友会・京都経済同友会懇談会 [レクチャー] 河本信治
14日	スクールプログラム 同志社大学 佐々木雅之ゼミ スクールプログラム 同志社大学 越前俊也ゼミ [ツアー] 近代京都のフィールドワーク 木立雅朗
15日	スクールプログラム 京都市立銅駝美術工芸高等学校 日本画専攻 スクールプログラム 京都府立城南製菓高等学校 美術部 [トークイベント] アクセスプログラム：ラディカル・ダイアログ [現代美術と公案] 古川周賢 パラ人 no. 005 発行

開催日	内容
2015年 4月 16日	[トークイベント] アクセスプログラム：ラディカル・ダイアログ [7 回目のマリア] 小川さやか
17日	京都市立芸術大学 still moving 展 Trans-it プログラム part-1 久門剛史 スクールプログラム 京都市立銅駝美術工芸高等学校
18日	蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ 原美術館友の会 [レクチャー] 河本信治 スクールプログラム 四ノ宮児童館 スクールプログラム 京都府立鳥羽高等学校 美術部 スクールプログラム 愛知県立芸術大学
19日	蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ [シネマプログラム] トーク 3: ヤン ヨンヒ × アレクサンダー・ザルテン
20日	PARASOPHIA サポートスタッフ第6回勉強会
22日	スクールプログラム 京都文教高等学校美術部 スクールプログラム 甲南高等学校 京都市立芸術大学 still moving 展 Trans-it プログラム part-2 杉山雅之 スクールプログラム 京都市立銅駝美術工芸高等学校 漆芸専攻
23日	ヴィラ九条山 [セミナー] 「継承と伝達：生成的未來知にむけて」
24日	スクールプログラム 京都造形芸術大学美術工芸学科 スクールプログラム 大阪市立工芸高校 京都市立芸術大学 still moving 展 Trans-it プログラム part-3 笠原恵実子
25日	FANTASTIC MARKET in PARASOPHIA 蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ [座談会] 四ヶ月後、《一時的なスタディ：ワークショップ #1》への参加をめぐって
26日	蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ
28日	[トークイベント] アクセスプログラム：ラディカル・ダイアログ [人類進化の謎] 遠藤秀紀
29日	[パフォーマンス] やなぎみわ ステージトレーラープロジェクト「舞台上・キャバレーナイト 2015」 京都市立芸術大学 still moving 展 Trans-it プログラム part-4 田中和人 + 増本泰斗 スクールプログラム 京都市立西京高等学校 スクールプログラム 京都府立城南製菓高等学校 美術部 スクールプログラム 京都府立嵯峨野高等学校 美術部
30日	京都市立芸術大学 still moving 展 Trans-it プログラム part-5 眞島竜男 スクールプログラム 京都造形芸術大学博物館学履修者 スクールプログラム 京都造形芸術大学環境デザイン学科
5月 2日	蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ [ウォーキングツアー] 岡崎公園と京都市美術館 中谷至宏 [レクチャー] 西沢立衛「近作について」
3日	蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ [コンサート] Shing02 × KURANAKA「休日の憲法」 [パフォーマンス] やなぎみわ ステージトレーラープロジェクト「舞台上・中上健次ナイト 2015」
5日	蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト ワークショップ スクールプログラム 京都造形芸術大学アートプロデュース学科
6日	スクールプログラム 奈良大学附属高等学校ほか [レクチャー] 村松秀「テレビ番組を作る 〜ツイエンスから論文捏造まで〜」 [トークイベント] Parasophia Conversations 06 セクララを読む人 III——イメージの唯物論(について)考える
7日	スクールプログラム 大阪成蹊大学芸術学部 スクールプログラム 京都文教短期大学附属小学校
7-12日	リサ・アン・アワーバック 作品確認
8日	[レクチャー] リサ・アン・アワーバック
9日	スクールプログラム 奈良芸術短期大学 [キュレーターズトーク] パラ・サイトについて 中谷至宏
10日	京都市立芸術大学 still moving 展 Trans-it プログラム part-6 石橋義正 PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 開幕 (3月7日-5月10日)
15日	平成 27 年度京都経済同友会通常総会
6月 7日	オープンリサーチプログラム 14 「ディレクターズトーク」 河本信治
11日	京都経済同友会 6 月度例会 [レクチャー] 河本信治
26日	Parasophia Conversations 07 森川邦彦 + 樂吉左衛門「継承と伝達 II」

● 肩書きは開催当時のもので記載。

京都経済同友会パラソフィア特別委員会の活動報告

京都経済同友会（以下、本会）は、世界に誇るべき文化、芸術が集積する京都こそが、「日本の文化的首都」として機能するべきであると長きに亘り提唱してきた。今日の国際的な都市間競争時代において、京都がその存在感を世界に示している背景には、千年の都としての歴史と培われた美意識を今に受け継ぐだけでなく、時代を牽引する創造的思考、それを認め受け入れる寛容なる環境、風土があったからにはほかならない。

今回、「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」（以下、パラソフィア）では、現代芸術というわれわれと同時代を生きるアーティストの表現を通じ、京都の街全体が思考と創造性を生み出すプロジェクトとして捉え、工芸職人、学生、起業家を巻き込み、新たな文化、産業を創出し、地域経済の発展に繋げることを目指してきた。

そこで、世界第一線の現代芸術を通じ、京都経済の振興に及ぶ可能性を探り、学術、伝統産業の活性化、若手アーティストの育成に向けて、パラソフィア開催までに展開した京都経済同友会パラソフィア特別委員会の活動を報告する。

1 特別交流会「京都経済同友会と作家との出会い」

- (1) 蔡國強氏（現代美術家）
2013年10月14日 18:00 - 20:00
- (2) 椿昇氏（現代美術家・京都造形芸術大学教授）
2013年11月14日 18:00 - 20:00
- (3) ウィリアム・ケントリッジ氏（現代美術家）
2014年2月22日 18:00 - 19:30

2 講演会

- (1) 第1回パラソフィア特別委員会 2013年7月19日 10:30 - 12:00
[レクチャー]「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 について」
河本信治（京都国際現代芸術祭組織委員会 アーティストティックディレクター）
- (2) 第2回パラソフィア特別委員会 2013年11月14日 16:00 - 18:00
[レクチャー]「現代アートの楽しさとは？——京都国際現代芸術祭の可能性」
椿昇氏（京都造形芸術大学芸術学部美術工芸学科 教授）
- (3) 第3回パラソフィア特別委員会 2014年3月6日 16:00 - 18:00
[レクチャー]「京都におけるアートの可能性」
石坂泰章氏（株式会社サザビーズジャパン 代表取締役社長）

現代芸術界の世界的なアーティスト、並びにアート関係者と対話することを通じ、その作品に秘められた思慮深さやまだまだ未成熟な現代芸術の国内マーケットへの課題等を浮き彫りにすることで、本会会員が、新しい創造の芽を育む知の創出拠点を京都から世界へと発信し、未来により豊かな伝統として継承していくことを確認する機会となった。

3 対談・パネルディスカッション

- (1) 第4回パラソフィア特別委員会 2014年4月23日 18:45 - 20:30
[対談]「伝統文化の創造的継承 - 京都国際現代芸術祭に期待するもの」
・ 椿昇氏（京都造形芸術大学芸術学部美術工芸学科教授）
・ 松山大耕氏（臨済宗大本山 妙心寺退蔵院 副住職）

パネルディスカッションでは、「芸術支援の先端を京都から」と題して、椿、松山両氏が取り組まれる「妙心寺退蔵院襷絵プロジェクト」についてご講演いただいた。この取り組みは、400年前に妙心寺退蔵院に専属絵師が修行に励みながら本殿襷絵を描いた文化を、今を生きる若手芸術作家がその歴史を甦らせ、後世400年後にその文化を創造的に継承していくものである。この古い襷絵を保護する目的と併せ、今だから出来る新しく最高の芸術を、今を生きる若手芸術家と残すことこそが重要と考えたことが起点にある。今の時代だからこそ生み出せる新たな襷絵の誕生を江戸時代の手法に習って日本のひとつの寺院が試そうとしている。松山氏からは、グローバルな時代に合わせて変質することを考えるより、物事の本質をとことんまで深く理解し、その本質を固持することこそが、将来に繋がる最高峰の伝統となること。またパラソフィアでは、世界第一線の現代芸術

家により、京都が目留めていない本質を、今までにない交流で表現して頂きたいと大きな期待を寄せられた。

- (2) 第6回パラソフィア特別委員会 2015年3月5日
[パネルディスカッション] 若手アーティスト4名のトーク
パネリスト
・ 村上慧氏（現代美術家）
・ 村林由貴氏（妙心寺退蔵院方丈襷絵プロジェクト絵師）
・ ヤマシタリョウ氏（京都堀川山下眼鏡工房・眼鏡作家・現代美術家）
・ 柳生顕代氏（アルトテックマネージャー）
モデレーター
・ 椿昇氏（京都造形芸術大学芸術学部美術工芸学科教授）

パラソフィアの展示会場である堀川団地に着眼し、現代芸術が地域課題の解決の糸口になるのかをテーマにパネルディスカッションを開催。堀川団地（上長者町棟）は、老朽化が進み、人口減や高齢化、空き店舗などの課題に悩むなか、「アートと交流」をテーマに、リノベーション計画によって生まれ変わろうとしている。

椿氏は、パラソフィア開催を契機に、アートを介した地域の再生、工芸職人におけるアートへの感性、アクティブな若手アーティストからの情報発信を通じて、「堀川団地再生に向けて、志高きアーティストの躍動が必要不可欠であり、その若き叡智が地域コミュニティと新たに融合した時こそ、既存概念を越えた文化の流れを創り出していく。パラソフィアを通じ若きアーティストの活動の本質を知り、その秘められた可能性を次世代へと繋げ、それを支援するスキームを組み立てる必要がある」とパネルディスカッションを締められた。

4 視察

- (1) アイスランド・ロンドン視察 2014年7月2日～9日
本会よりアイスランド・ロンドン視察団を派遣し、ロンドン視察では、2012年のロンドンオリンピック時に実施された文化フェスティバルの成果を調査。ロンドンでは、英国内900か所で現代芸術祭を開催し、全土における文化的事業で五輪への機運を高めた。オリンピック憲章では、「スポーツを文化と教育と融合させる」と謳われており、2020年東京五輪期間中には、複数の文化イベントの開催を求めている。2020年に向け、パラソフィアの成果が、東京一極集中の是正を唱える意味でも、極めて重要な意義があることを確認した。

- (2) 第5回パラソフィア特別委員会 2014年7月14日 14:00 - 16:00

[レクチャー] 名和晃平 [アトリエ見学] SANDWICH
世界第一線で活躍される現代芸術家 名和晃平氏（SANDWICH Inc.、京都造形芸術大学大学院・特任准教授）のアトリエを視察。「SANDWICH」はパラソフィアでテクニカルサポートを担われている。旧サンドイッチ工場跡地をリノベーションし、建築家、デザイナー、学生、アーティスト等が絶えず集い、ジャンルや世代を超えてこの場しか起こり得ないクリエイティブ・プラットフォームとしての構想についてお話を頂いた。視察を通じ、国内を問わず海外より多くのアーティスト・イン・レジデンスを行うなど芸術的化学反应が創発される「SANDWICH」の活動は、京都というローカルな場所でありながらも、世界とつながる創作の場となりうることを感じるとともに、京都でアーティストが活動をし続けたいと思わせるプラットフォームであった。

内覧会・オープングレセプション

開幕前日となる3月6日(金)に、関係者を招待して各会場で内覧会を実施した。当日は、京都市美術館においてプレス内覧会、全会場で特別内覧会を行ったのち、二条城駐車場において、参加作家やなぎみわ氏の移動舞台車でのオープングパフォーマンスを行った。

終了後には、当組織委員会の名誉総裁三笠宮彬子女王や協賛・協力企業などの来賓も迎えて、オープングレセプションを行った。

I プレス内覧会

時間：11:00 - 17:30

会場：京都市美術館

・河本信治ディレクターによる全体の説明(登壇作家：スーザン・フィリップス)

11:00 - 11:30

・参加作家による作品前でのトーク 11:30 - 13:30

蔡國強、ジャン＝リュック・ヴィルムート、フロリアン・ブムヘル、アリン・ルンジャー、笠原恵実子、田中功起

II 特別内覧会

時間：13:00 - 17:30

会場：全会場

来場者数：851名

*内覧会に際して、会場間移動に便宜を図るべくシャトルバスを運行した。

III オープングパフォーマンス

時間：17:30 - 18:00

会場：二条城駐車場

・[パフォーマンス]やなぎみわ ステージトレーラープロジェクト
「オープング・ポールドダンスショー」

IV オープングレセプション

時間：19:00 - 21:00

会場：ANA クラウンプラザホテル京都

来場者数：810名



プロジェクト PARASOPHIA 2013-2015[※]

河本信治

京都は、その時々生まれる先駆的な芸術家や思想家たちの活動を寛容に支援し続けてきた都市です。京都の人々が同時代の革新的な文化活動を恐れ排除するのではなく、それを穏やかに許容し支えてきた態度もまた、歴史都市京都が世界に誇る伝統の一つなのです。社会構造が激変した第二次世界大戦後も、京都の各種施設や社寺、そして篤志家たちは、国内外の多様な芸術家たちを京都という場で支えてきました。現代芸術の分野においても京都は、1960-80年代に大規模現代美術展の会場として積極的にクレスト・ハレの機能を担った京都市美術館、新人作家の登竜門として機能した京都府ギャラリーの活動、美術家たちと共に「新しきもの」に挑戦した京都のギャラリストたち、1960年代下半期に日本の国・公立美術館の中で最も積極かつ過激に現代美術のアンニアル展を開催し若い作家たちを支援し続けた京都国立近代美術館の活動、小規模ながら直接的に世界の今に繋がろうとした京都ビエンナーレ 2003 の挑戦など、現代芸術に関して京都は豊かな経験を蓄積してきました。現代美術の大規模国際展を京都で実施する環境は、先人たちのこうした活動の蓄積によって既に整っていたと言えます。

このプロジェクトは、京都に蓄積されてきた多様な文化資産や経験を統合し、外に開くことで生まれる知と文化の自由交易都市京都を幻視した民間人の強い熱意から始まりました。京都経済同友会がこの発想を実現可能な具体的計画案に纏め上げ、その構想を京都府、京都市が支援する形で実行委員会が編成され、最終的に文化庁の積極的な助成も受けることになり、組織委員会は大規模国際展の運営を担い得るものへと成長しました。10年後の成果を前提とした民間の構想を、つまり未来への先行投資を行政が評価し支援する形は我が国では例の少ない、しかしとても健康的で成熟した文化行政の姿と言えます。この国際展は最初から、一過性の祭事でも直近の経済効果を求める町興しでもない、未来に向けたプロジェクトという、他の国際展とは少し違う方向性が条件付けられています。

公式名「京都国際現代芸術祭 2015」のもと 2013 年 4 月から始めた準備作業において最優先で行ったのが、1) 現代芸術祭の親しみやすい呼称の決定、2) 柔軟な事務局組織の設計、3) 展覧会までの約 2 年間の基本計画の作成でした。

1) 京都国際現代芸術祭の呼称は、熟考の末 PARASOPHIA という造語を使うことに決めました¹。PARASOPHIA (パラソフィア) は、向こう側の別の知性という意味です。この意味合いと女性的で軽い音感がこの国際展の個性と固有色を自然に生み出していました。PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 はその名前自体がコンセプトなのです。

2) 柔軟な事務局組織設計のポイントは、アーティスティックディレクター(芸術監督)に対し助言を行う、プロフェッショナルアドバイザーボードを組織図の外に置くことでした。このメンバーは組織委員会の外側から、芸術監督に貴重な助言と感謝し尽くせないほどの実務的協力を提供してくれました。ボードメンバーは名誉職ではなく、プロフェッショナルな現場労働者の役割を担ってくれたのです。PARASOPHIA のキュレトリアルチームは組織の外側に、きわめて行動的で強力な専門家集団を持つことが出来ました。

3) 基本計画

プログラム：展覧会までの期間は通常は作家と作品の調査と開催準備にあてられますが、PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 は今回が初めての開催であり経験の蓄積は全くありません。展覧会を企画運営した経験を持たないスタッフを 5 割以上抱える組織が、2 年後には大型国際展の運営当事者に成長する必要がありました。そのため参加作家の調査と平行して、事務局の私たち自身の学習と PARASOPHIA 開催の周知も兼ねたプログラムを出来るだけ多く開催することにしました。こうして始まったのが、作家や作品についてキュレトリアルチームが行う調査研究の過程を一般にも公開し PARASOPHIA の活動を共有してもらおうオープンリサーチプログラムであり、美術になじみのない人から幼稚園児までに、PARASOPHIA が自ら繋がろうと挑戦するアクセスプログラムなどでした²。特に挑戦的な習作や思考実験的なレクチャーが多かったオープンリサーチプログラムからは、出品作品に直接繋がっていったレクチャーも一つだけではありませんでした。2014 年 2 月 8 日-3 月 16 日の期間に PARASOPHIA プレイメントとして開催した、ウィリアム・セントリッジの複雑で大規模な映像インスタレーション《時間の抵抗》の展示運営を経験し、私たちスタッフは「PARASOPHIA は既に始まっている」という実感を強くしました。

展覧会規模：京都市美術館全館と京都府京都文化博物館別館を中心に約 10,000m²以上の展示面積を有する本展ですが、参加作家 40 組という小さな枠組みに留めることは早い段階で決めていました。PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 は、参加作家に十分な展示スペースと細やかな支援体制を整えることを重視したからです。40 組という数は私やスタッフが参加者の顔と名前をしっかりと記憶し誠実に対応できる程よい数だと思いました。

展示と配置：参加作家は「私が、いま(も)興味深いと思える作家」という基準で選びました。40 組を統合するテーマや表現傾向があるわけではありません。しかし 40 組の並んだ作家リスト自体が十分強力なメッセージであり、その作品の配列により、おぼろげな関係性を読み取ることが可能

になってきます。各会場では一応、始まりの作品から続く動線が構築してありますが、途中から鑑賞を開始することでこの動線を無効にすることが出来ます。

ガイドブック：PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 では、早い段階から無料のガイドブックを配布する計画を立てました。このガイドブックは無料で使い捨ての小冊子です。鑑賞者はガイドブックのページをめくるとに次の部屋に移動し新しい作品と対面するために、広大な展示空間の中で自分の現在位置を確認するためにこのガイドブックは有効です。それ以上にこのガイドブックは、通常は美術館の壁に付けられている解説パネルやキャプションの役割を引き受けている、紙製携帯解説パネルなのです。でもこのガイドブックは、展覧会で作品を「見る」と掲示された解説を「読む」ことのパラドックス、ひいては美術鑑賞教育のジレンマも引き受けています。このパラドックスについてウィリアム・ケントリッジはこう語っています。

「……読むことと見ることのあいだで、つまり、わたしたちが世界の表象として見ているものと、言語という観点で翻訳しなければならないものとのあいだで、パラドックスを引き出してくることにあります。(中略) そのうちのひとつが、美術館の中でおこっているパラドックスです。つまりここでは、いま見ている絵画作品について書かれたキャプションを読むのをやめることはできず、その一方で、ご存知のように、その作品についてキャプションのなかで知識が増すにつれて、特定の段階になると(作品を見る割合は減ってゆき、そして読むことは見ることに取って代わるのです」³。

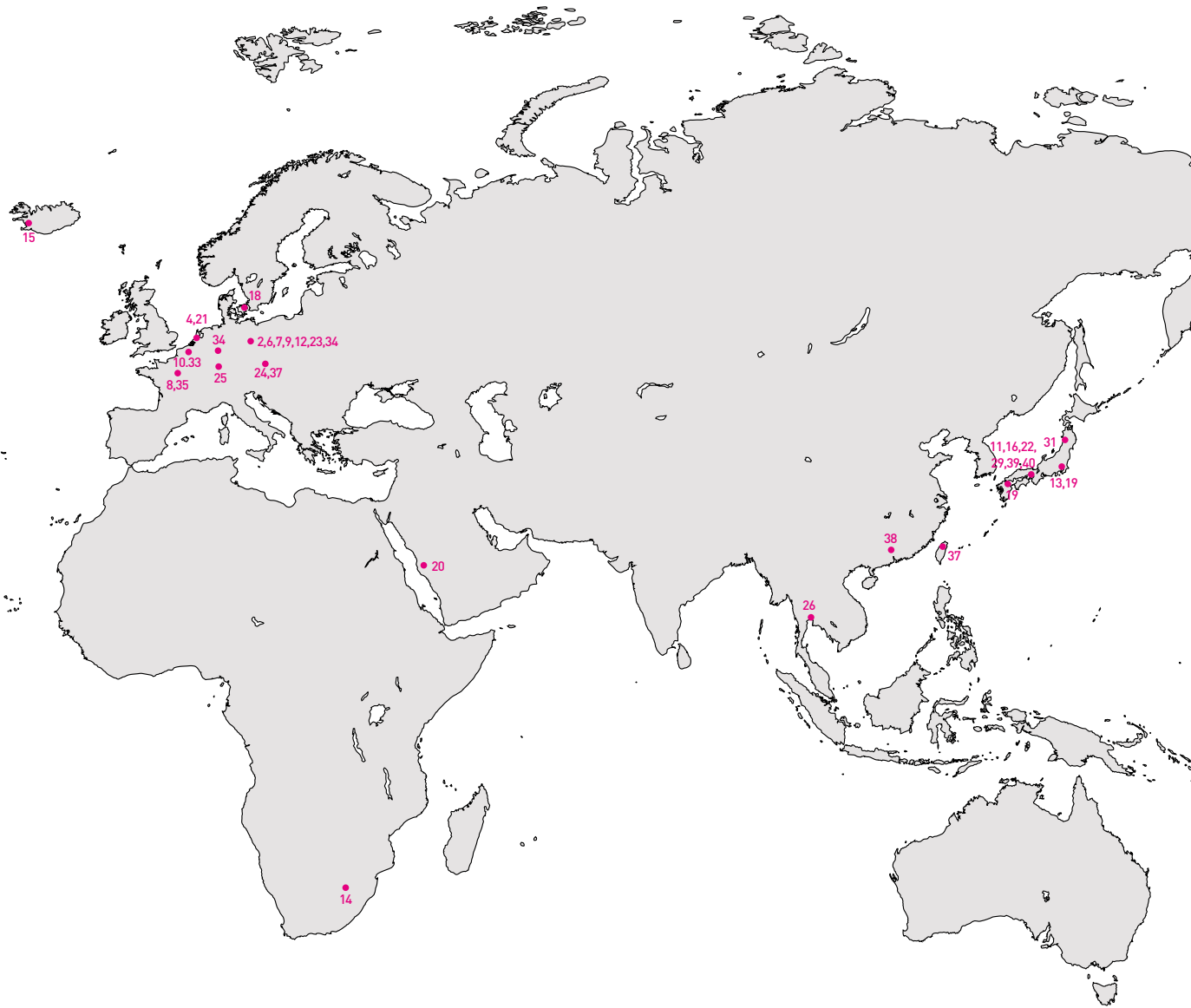
カタログ：カタログは展示会場とはまた異なる秩序で配列が組まれています。それは展覧会を追体験するための展覧会図録ではなく、本という形式でのみ可能な、また別の展示として設計されています。このカタログには参加作家に関する過剰なほどの文章が収録されていますが、そのほとんどは既にあるテキストの再録です。キュレトリアルチームが参加作家たちと緊密に連絡を交わしながら再録テキストを決めていきました。このカタログは会場展示とはまた別の展示であり、拾い集められた既存のテキストの集積でもあります。そしてここでもまた、ケントリッジが指摘した見ることと読むことのパラドックスが現出します。興味深いことに、無料配布で使い捨てのガイドブックがここでもまた、この迷宮的な本の中の展示を読み解く解説キーとして機能します。

PARASOPHIA は市民と内外の関係者を巻き込む思考と創造のプラットフォームを、世界に開かれた形で京都に根付かせるプロジェクトであり、PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 は、その通過点なのです。

註

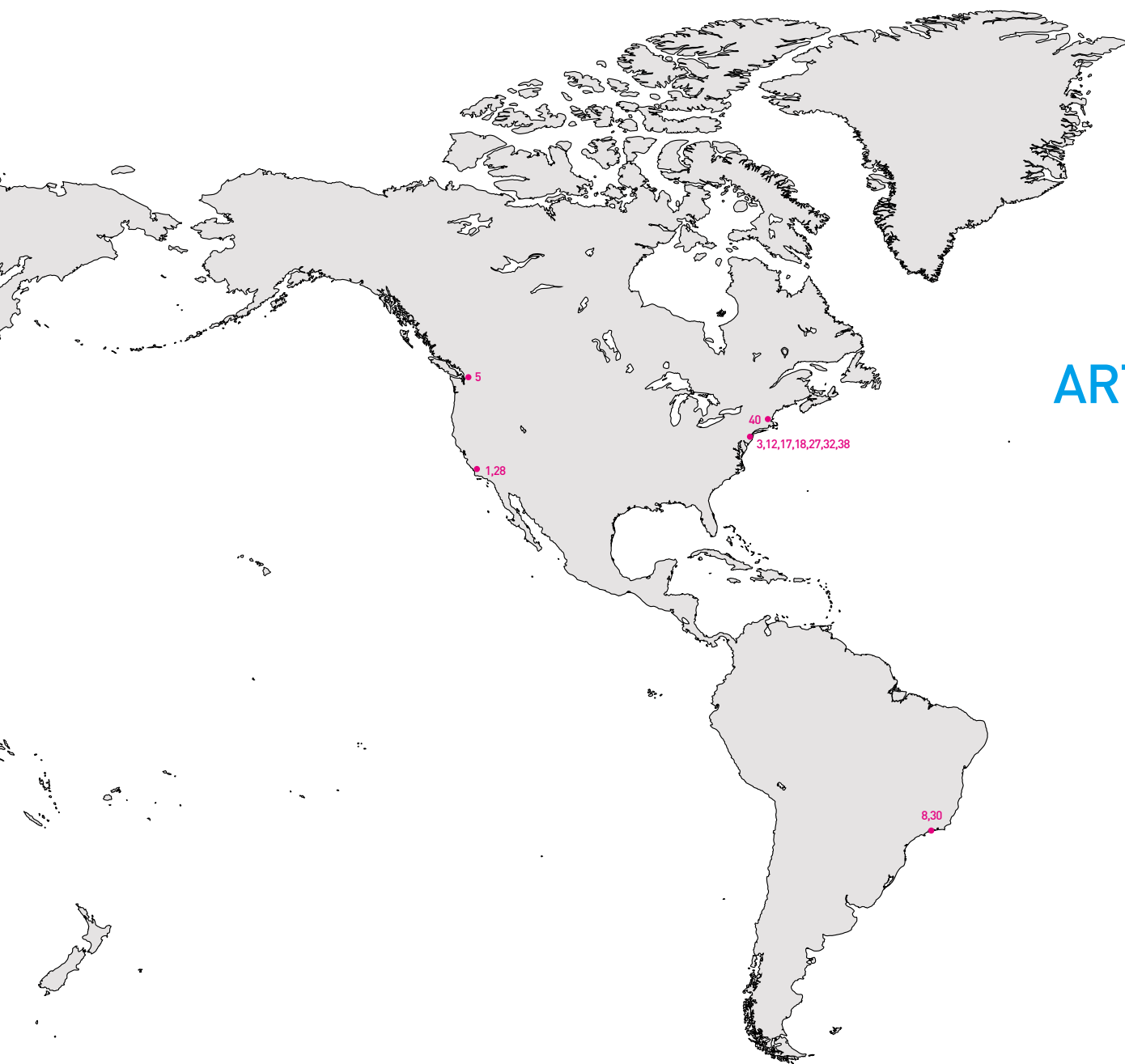
1. 「大規模な国際展となる京都国際現代芸術祭 2015 を多くの人々に興味を持っていただくために、テーマタイトルは短くて覚えやすい単語を、その音感を重視して考えました。日本人にとっては覚え易さと若干の不思議さを感じさせるものを、そして海外の複数の文化圏の人々にも京都国際現代芸術祭 2015 の趣旨を感覚的に伝達可能な単語を探し、PARASOPHIA に行き着きました。PARASOPHIA は、sophia という女性的な音感と para という軽い語感、さらにそれが暗示する図像イメージと世界地図での京都の位置をもとに着想しました。/ PARASOPHIA は para と sophia を結合した造語で、どちらもギリシャ語を語源とします。sophia は叡智や学問体系を意味し、para は接頭辞で、パラドクス、パラソル、パラシュート、パラフレーズ、パラノイア、パラメーターなどのように、「別の、逆の、対抗的な」という意味合いで使われます。また para は高校化学でお馴染みの芳香族、ベンゼン環の結合基の位置関係オルト、メタ、パラを指し、para は六角形のベンゼン環で対面の関係を示しています。一般的にオルト (ortho) は「オーソドックス、正規の」という意味を、メタ (meta) は「～を超えて、超越」といった上位の階層性を暗示します。私は堅苦しさを感ずる ortho やヒエラルキーを暗示する meta よりも、para の方を好ましく感じました。/ PARASOPHIA という言葉でイメージしたのは、「巨大な円卓の対面に位置する智恵子さん」といった感じ、互いに熱いアイコンタクトを交わしながらも直接手を繋ぐことが出来ない、しかし他者を介して同じ位相を共有し確実に繋がっている関係です。「京都国際現代芸術祭 2015」では、「いま私と共にある、でも私と同じではない別の、それでも私と繋がっている知性」が、京都という都市に結集することを目指します」(「京都国際現代芸術祭 2015 PARASOPHIA について」第 1 回記者会見資料 2013 年 5 月 27 日より抜粋・加筆)
2. [公式カタログ] pp. 338-41
3. [公式カタログ] p. 24

※ PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 [公式カタログ] の「はじめに」を再録。



No.	作家名	出身地	活動地	京都滞在実績 事前(2013年6月-2015年1月)	展示期間-会期中(2015年2月-2015年5月)
1	リサ・アン・アワーバック	ミシガン州アナーバー(アメリカ)	ロサンゼルス(アメリカ)	2014年10月20日-26日	2015年5月7日-12日
2	ナイリー・バグラミアン	エスファハーン(イラン)	ベルリン(ドイツ)	2014年11月19日-23日	2015年3月2日-7日
3	蔡國強(ツイ・グオチャン)	福建省泉州(中国)	ニューヨーク(アメリカ)	2013年10月13日-15日	① 2015年2月24日-27日 ② 2015年3月3日-7日
4	ヨースト・コナイン	アムステルダム(オランダ)	アムステルダム(オランダ)	2014年11月3日-9日	2015年3月1日-7日
5	スタン・ダグラス	バンクーバー(カナダ)	バンクーバー(カナダ)	-	-
6	ハルーン・ファロッキ	ドイツ併合下のチェコスロバキア	ベルリン(ドイツ)※	-	-
7	サイモン・フジワラ	イギリス(ロンドン)	ベルリン(ドイツ)	2014年3月31日	2015年3月2日-7日
8	ドミニク・ゴンザレス=フォルステル	ストラスブール(フランス)	パリ(フランス)・リオデジャネイロ(ブラジル)	2013年9月5日-11日	-
9	ヘフナー/ザックス	シュタルンベルク(ドイツ) / シュトゥットガルト(ドイツ)	ベルリン(ドイツ)	フランツ・ヘフナー: 2014年10月21日-11月13日 / ハリー・ザックス: 2014年10月20日-11月9日	2015年2月17日-3月11日
10	ヘトヴィヒ・フーベン	ボクステル(オランダ)	ブリュッセル(ベルギー)	-	-
11	石橋義正	京都(日本)	京都(日本)	随時	随時
12	ブラント・ジュンソー	ニューヨーク州ボキフシー(アメリカ)	ニューヨーク(アメリカ)・ベルリン(ドイツ)	2014年10月28日-11月3日	2015年3月2日-3月12日
13	笠原恵実子	東京(日本)	神奈川県藤沢(日本)	① 2014年4月20日-21日 ② 2014年9月26日-27日 ③ 2014年11月25日 ④ 2014年12月15日 ⑤ 2015年1月7日-8日 ⑥ 2015年1月22日-23日	随時
14	ウィリアム・ケントリッジ	ヨハネスブルグ(南アフリカ)	ヨハネスブルグ(南アフリカ)	2014年2月21日-23日	-
15	ラグナル・キヤルタンソン	レイキャビク(アイスランド)	レイキャビク(アイスランド)	-	-
16	倉智敬子+高橋悟	大阪(日本) / 京都(日本)	大阪(日本)	随時	随時
17	ルイズ・ローラー	ニューヨーク州ブロンクスビル(アメリカ)	ニューヨーク(アメリカ)	2014年11月16日-21日	-
18	アン・リスレゴ	トンスベルグ(ノルウェー)	コペンハーゲン(デンマーク)・ ニューヨーク(アメリカ)	2014年9月24日-10月2日	2015年2月25日-3月8日
19	眞島竜男	東京(日本)	神奈川県川崎(日本)・大分県別府(日本)	① 2014年4月27日-28日 ② 2014年7月19日-20日 ③ 2014年9月21日-22日 ④ 2014年11月19日-20日 ⑤ 2015年1月16日-20日	① 2015年3月1日-7日 ② 2015年3月29日 ③ 2015年4月4日-5日 ④ 2015年5月10日 ⑤ 2015年5月16日
20	アフメド・マータル	タブーク(サウジアラビア)	アブハ、ジッダ、メッカ(サウジアラビア)	2014年9月25日-28日	-

ARTISTS



No.	作家名	出身地	活動地	京都滞在実績 事前(2013年6月-2015年1月)	展示期間-会期中(2015年2月-2015年5月)
21	アーノウト・ミック	フローニンゲン(オランダ)	アムステルダム(オランダ)	① 2013年8月7日-8日 ② 2014年12月4日-9日	2015年3月4日-8日
22	森村泰昌	大阪(日本)	大阪(日本)	2015年1月13日	① 2015年2月6日 ② 2015年2月28日 ③ 2015年3月2日
23	スーザン・フィリップス	グラスゴー(イギリス)	ベルリン(ドイツ)	① 2014年4月17日-22日 ② 2014年7月14日-17日	2015年3月2日-9日
24	フロリアン・フムヘル	ウィーン(オーストリア)	ウィーン(オーストリア)	① 2014年5月4日-11日 ② 2014年11月23日-25日	2015年3月2日-11日
25	ピピロッチェ・リスト	グラーブス(スイス)	チューリヒ(スイス)	① 2014年4月27日-29日 ② 2015年1月26日-31日	-
26	アリン・ルンジャー	バンコク(タイ)	バンコク(タイ)	2014年6月3日-10日	2015年2月28日-3月7日
27	笹本晃	横浜(日本)	ニューヨーク(アメリカ)	① 2014年4月3日-4日 ② 2014年6月30日-7月9日	2015年3月12日-23日
28	アラン・セクーラ	ペンシルベニア州エリー(アメリカ)	ロサンゼルス(アメリカ)※	-	-
29	セクーラを読む人	京都(日本)ほか	京都(日本)ほか	-	2015年5月6日
30	グシュタヴォ・シュベリジョン	リオデジャネイロ(ブラジル)	リオデジャネイロ(ブラジル)	2014年11月18日-27日	2015年3月3日-7日
31	高嶺格	鹿児島(日本)	秋田(日本)	① 2014年7月12日 ② 2014年12月26日-27日 ③ 2015年1月14日-15日	随時
32	田中功起	栃木県益子(日本)	ロサンゼルス(アメリカ)	① 2013年7月27日-28日 ② 2013年9月7日 ③ 2014年7月15日-20日 ④ 2014年11月7日-13日 ⑤ 2014年12月4日-10日	2015年2月26日-3月7日
33	アナ・トーフ	モルツェル(ベルギー)	ブリュッセル(ベルギー)	2013年9月7日	2015年3月1日-10日
34	ローズマリー・トロツケル	シュヴェーアテ(ドイツ)	ケルン(ドイツ)	-	-
35	ジャン・リュック・ヴィルムート	クレウツヴァルド(フランス)	パリ(フランス)	-	2015年2月24日-3月10日
36	ヤン・ヴォー	ハリア(ベトナム)	-	2014年11月19日-23日	-
37	王虹凱(ワン・ホンカイ)	虎尾(台湾)	ウィーン(オーストリア)・台北(台湾)	① 2014年8月1日-5日 ② 2014年12月19日-24日	2015年3月3日-10日
38	徐坦(シュー・タン)	湖北省武漢(中国)	広州(中国)・ニューヨーク(アメリカ)	2014年12月4日-7日	2015年2月24日-3月7日
39	やなぎみわ	神戸(日本)	京都(日本)	随時	随時
40	アレクサンダー・ザルテン	ウィスコンシン州マディソン(アメリカ)	ボストン(アメリカ)・京都(日本)	随時	2015年4月5日-19日

※は最終活動地

8,567名

堀川団地(上長者町棟)
Horikawa Housing
Complex
(Kamichoja-machi Building)

85,779名

鴨川デルタ(出町柳)
Kamo River Delta
(Demachiyanagi)

PARASOPHIA

123,783名

京都市美術館
Kyoto Municipal Museum of Art



大垣書店烏丸三条店(ショーウィンドー)
Display window
at Books Ogaki Karasuma Sanjo

京都芸術センター
Kyoto Art Center

9,421名

京都府京都文化博物館
別館, The Museum
of Kyoto

21,432名

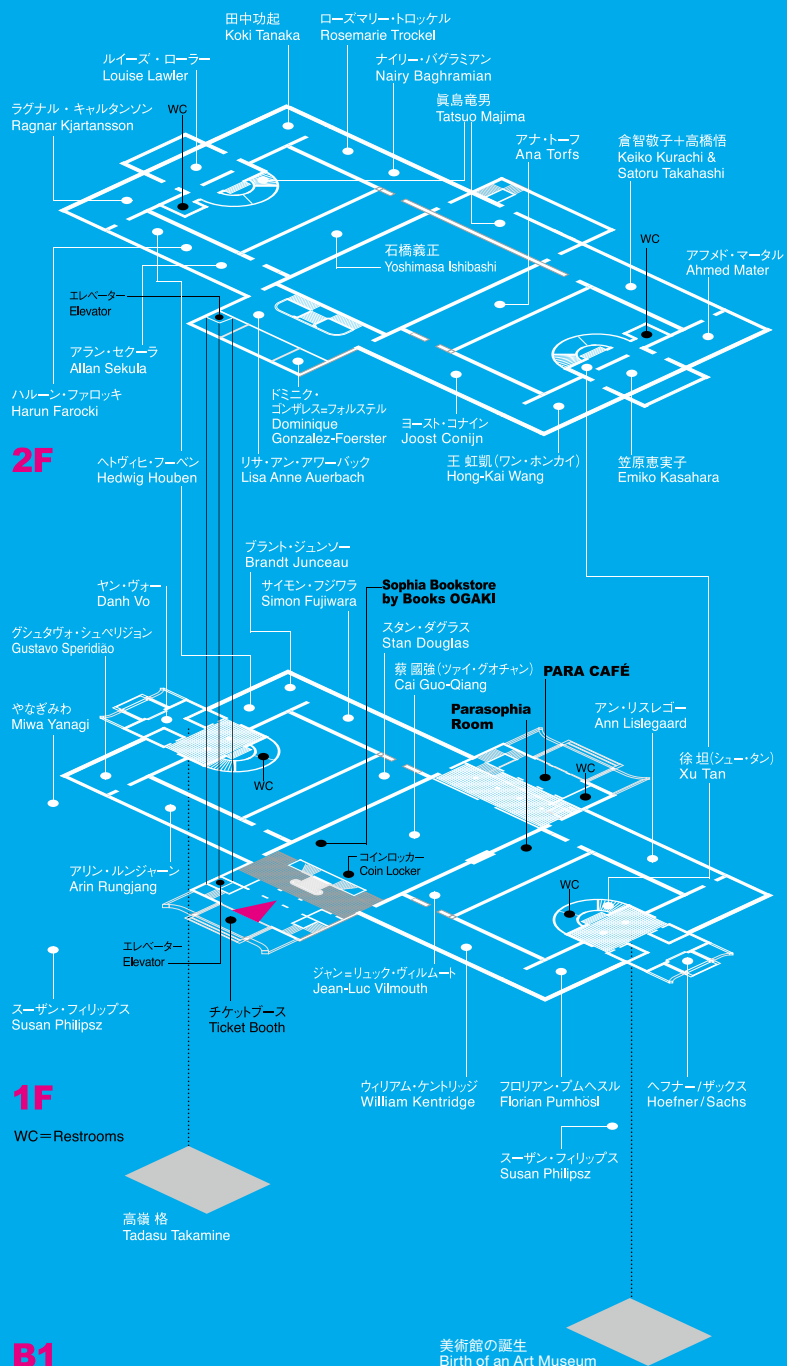
来場者数合計 264,218名

- ※京都市美術館の来場者数には、無料エリアの来場者を含む。
- ※京都府京都文化博物館の来場者数には、シネマプログラムの来場者数を含む。
- ※鴨川デルタの来場者数は、10時から18時までの00分と30分の音声の流れている間に、鴨川デルタ及び両側の河川敷に目視で確認できる人数を集計した。
- ※大垣書店烏丸三条店、京都 BAL 会場は、通行人との判別が困難なため集計していない。

15,236名

河原町塩小路周辺
Areas near the
cross streets of
Kawaramachi and Shiokoji Streets

京都市美術館





ジャン＝リュック・ヴィルムート

Jean-Luc Vilmoth

1952年 フランス・クレウツヴァルド生まれ、パリ在住

公共空間などでの作品制作、特に作品の介入により変化する環境や人と事物との関係に注目した作品を数多く制作。本作品は、原爆投下で大きな被害を受けた広島市立袋町小学校に残された被爆者への伝言から着想された。作品空間に入った鑑賞者は、壁面や机にメッセージを書き込むことが求められる。この関与が作品の一部となり、またその呼応や交換の連鎖によってメッセージが書き重ねられるなかで、メッセージの痕跡としての色面へと変化してゆく。

出品作品

《カフェ・リトル・ボーイ》2002/2015

インスタレーション（進化式サイトスペシフィックインスタレーション／壁面4つ、ベニヤ板製テーブル3台、木製スツール10脚、全て緑色の黒板塗料でペイント／広島で撮影された生存者のメッセージを伴うモノクロ写真6点、テキストパネル2点、それぞれプレキシガラスにディアセックマウント／時計1台／色とりどりのチョーク）／ボンビドゥー・センターに展示中のインスタレーションを作家により再制作／ボンビドゥー・センター パリ国立近代美術館／産業創造センター蔵（2005年購入）／ワークショップ協力：長嶺慶治郎



蔡國強 ツアイ・グオチャン / さいこっきょう

Cai Guo-Qiang

1957年中国福建省泉州生まれ、ニューヨークを拠点に活動

北京オリンピック開会式の花火や「火薬絵画」など、ダイナミックな作品制作で知られる彼は、近年、中国僻地の農民が自作したロボットや飛行機などを収集する「農民ダ・ヴィンチ」のプロジェクトを続けている。中央には、平安京のモデルとなった長安のバゴダにちなんだ七段の塔が竹材で組み上げられ、子どもたちが参加した「子どもダ・ヴィンチ」による作品が飾られた。プロジェクトの記録映像やロボットがその周りを囲んだ。

出品作品

《京都ダ・ヴィンチ》2015

インスタレーション（竹による7階建ての塔、《農民ダ・ヴィンチ》プロジェクトより呉玉禄による26体のロボット、京都での「子どもダ・ヴィンチ」ワークショップの参加者による制作物643点、ビデオ、凧、プロペラ）／ビデオ：張克明《農民ダ・ヴィンチ》（上海）2010、夏珊珊《農民ダ・ヴィンチ》（ブラジル）2013／制作協力：熊谷直樹、臼杵春芳、宮永甲太郎、顧劍亨、ULTRA FACTORY、株式会社岡野組、呉玉禄、董淑艶、吳汪洋、井上美幸、浦田沙緒音、黄海寧、田形芳久、高野浩揮、田部井勝彦、田村琢郎、張瀚元、長尾良平、花田康史、古田充、堀本達矢ほか／協力：泉州信文工芸有限公司／《呉玉禄のロボット工場》：蔡國強コレクション蔵





フロリアン・プムヘル Florian Pumhösl

1971年オーストリア・ウィーン生まれ、同市を拠点に活動

2014年春、大正・昭和初期の日本の前衛美術家についての調査のため来日。左翼演劇の劇団「メザマシ隊」の俳優が、1932年に改名された劇団名の文字看板を掲げた写真が新作の主要なインスピレーションとなった。16点の絵画は京都の職人が作った漆喰のパネルが支持体となっており、和紙の寸法や尺貫法を基準としている。会場では自らの新作を、村山知義の《あるユダヤ人の少女像》と東京左翼劇場の舞台用の幕との間に展示した。

出品作品

フロリアン・プムヘル《メザマシ隊》2014/2015

モノタイププリント、油彩、漆喰 / 16点組 / 制作協力:しゅくい浅原 / 協力:ミゲル・アプリーユ・ギャラリー

作者不詳「左翼劇場幕」制作年不詳 / 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館蔵
村山知義《あるユダヤ人の少女像》1922 / 東京国立近代美術館蔵



ウィリアム・ケントリッジ William Kentridge

1955年南アフリカ共和国ヨハネスブルグ生まれ、同市を拠点に活動

2014年にビデオインスタレーション《時間の抵抗》をイベントとして展示。今回は映像作品《セカンドハンド・リーディング》と、その制作過程でつくられたドローイングを出品。一冊の辞書のページに直接描かれたドローイングによる800ページにもおよぶフリップブックは、素材として、また題材としての「本」の「セカンドハンド(二次的/中古)」の読み方を提示するとともに、言葉、記憶、そして人の意識の機能といった彼が長年考え続けている問題にも繋がっている。

出品作品

《セカンドハンド・リーディング》2013

『ショーター・オックスフォード英語辞典』のページに描いたドローイングを用いたフリップブック式の映像(HDビデオ) / 7分1秒 / 音楽・声:ネオムヤンガ / 編集:スネジャナ・マロヴィチ / 協力:グッドマン・ギャラリー (ヨハネスブルグ/ケープタウン)、マリアン・グッドマン・ギャラリー (ニューヨーク/パリ/ロンドン)、リア・ルンマ・ギャラリー (ナポリ/ミラノ)

《セカンドハンド・リーディング》のためのドローイング 2013

『ショーター・オックスフォード英語辞典』のページに描いたドローイング(色鉛筆、インディアインク[墨]、木炭、パステル、デジタルプリント、水彩) / 32点 / 協力:グッドマン・ギャラリー (ヨハネスブルグ/ケープタウン)、マリアン・グッドマン・ギャラリー (ニューヨーク/パリ/ロンドン)、リア・ルンマ・ギャラリー (ナポリ/ミラノ)



徐坦 シュー・タン Xu Tan

1957年中国湖北省武漢生まれ、広州と深圳を拠点に活動

詳細な調査と深い思考を重ねる作品実践によって、知の作家として広く認知されている。2012年から、香港の屋上菜園や広州の水上生活者の畑など、都市住民と植物との関係性についての調査に基づく「社会植物学プロジェクト」を開始。農家や官僚、美術関係者など50人以上のインタビューを行い分析、その調査内容を作品化している。出品作では、「種」、「血筋」を主たるキーワードとして、ビデオとテキストなどの素材を組み合わせた「読書空間」を提示。

出品作品

《社会植物学——種と血筋》2015

インスタレーション/マルチチャンネルのビデオ、資料ほか/日本での制作協力：陳佳鈴、小泉智子、范芸濤、武韻恩、井本博之/日本語字幕：樋口裕子、有限会社ティッピー・インターナショナル、小寺里枝/協力：ビタミン・クリエイティブ・スペース



ヘフナー / ザックス Hoefner/Sachs

フランツ・ヘフナー | Franz Hoefner / 1970年ドイツ・シュタルンベルク生まれ、ベルリンを拠点に活動

ハリー・ザックス | Harry Sachs / 1974年ドイツ・シュトゥットガルト生まれ、ベルリンを拠点に活動

ベルリンを拠点に活動するユニットで、都市環境下の建築と居住の問題を、過激なユーモアを盛り込んだ美術的手法を使って作品化している。京都市美術館では、南玄関の車寄せに過去の展覧会で使われた展示台を壁や窓として再利用し、気軽に立ち寄ることが出来る小さな空間(=カジノ)を出現させ、そこに忘れ物の傘を展示し、美術館活動の表と裏を逆転させてみせた。また開館当時に玄関前にあった噴水を簡易な装置で復活させ、建築の歴史も微笑ましい形で可視化した。

出品作品

《Museum Casino》2015

インスタレーション/他の展覧会の展示備品、美術館に残る遺失物ほか/制作協力：ULTRA FACTORY、岡田啓伸、小宮太郎、田附那菜、田中祥子、高橋悟、齋恒太郎、本田大起、南大樹、山崎康

美術館の誕生

Birth of an Art Museum

創建時、下足室と称されていた地下室を使用し、京都市美術館の歴史を紹介。昭和天皇即位の奉祝事業として、昭和8(1933)年、大礼記念京都美術館として開館するまでの経緯と開館時の姿。第二次大戦後、昭和21(1946)年より昭和27(1952)年までの米軍接収時の様相と接収解除までの経緯。さらには「京都アンデパンダン展」や「京都ビエンナーレ」など京都市美術館で開催された現代美術展の歴史を概観しながら、いくつかの出品作品や展示空間に対する参照の場とした。

展示内容

スライド・ショー 1 大礼記念京都美術館の誕生/スライド・ショー 2 接収期から京都市美術館の誕生まで/スライド・ショー 3 現代美術と京都市美術館/靴磨き看板



アン・リスレゴー

Ann Lislegaard

1962年ノルウェー・トンスベルグ生まれ、コペンハーゲンとニューヨークを拠点に活動

SF小説から着想した3Dアニメーションや、音響+光のインスタレーションの作品で知られる。フィリップ K. ディックの『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』を基に、CGアニメーションのフクロウが、格言や『易経』の予言、あるフェミニストの弁論から引用した曖昧な断片などを独白する近作《神託、フクロウ……ある動物は眠らない》と、川又千秋のSF小説『幻詩狩り』(1984)を題材として、歴史と政治、言葉、翻訳といった問題を扱った新作《ドゥバド、ドゥバド》を展示。

出品作品

《神託、フクロウ……ある動物は眠らない》2012-14

2チャンネルの3Dアニメーション、サウンド/10分34秒/機材協力:ジャパンマテリアル株式会社/助成:デンマーク芸術財団/協力:マレー・ガイ

《ドゥバド、ドゥバド》2014-15

2チャンネルの3Dアニメーション/6分5秒、5分42秒/機材協力:ジャパンマテリアル株式会社/助成:デンマーク芸術財団/協力:マレー・ガイ

サイモン・フジワラ

Simon Fujiwara

1982年イギリス・ロンドン生まれ、ベルリンを拠点に活動

自身の出自や家族の歴史を出発点に、綿密な調査に基づく事実とフィクションを融合させた彼の私的な物語は、作品の形をとることで無数の他者の物語と緩やかに結び付き、少しずつ変化しながら彼の内部ではなく外側へと広がっていく。本展では、近作と新作の映像、写真、オブジェクトで構成するインスタレーション《キングコング・コンプレックス》を発表。アイデンティティとセクシュアリティを巡る、より普遍的なインデックスとなる作品を展開。

出品作品

《キングコング・コンプレックス》2015

ミクストメディアとビデオのインスタレーション/ビデオ：20分30秒/日本語字幕：奥村雄樹/協力：TARO NASU /部分：石川コレクション(岡山)蔵、太宰府天満宮蔵



スタン・ダグラス

Stan Douglas

1960年カナダ・バンクーバー生まれ、同市を拠点に活動

出品作は、ポルトガルが植民地アンゴラ(首都ルアンダ)から撤退し始めた年であり、ザイールの首都キンシャサでモハメド・アリがジョージ・フォアマンに勝利した年でもある1974年に時代を設定し、マイルス・デイヴィスがアルバム『On the Corner』(1972)を録音した、ニューヨーク30番街スタジオを再現して舞台としている。10人のミュージシャンは、『On the Corner』と当時のアフロビートが融合したジャズ・ファンクのリズムを際限なく奏でている。

出品作品

《ルアンダ=キンシャサ》2013

シングルチャンネルのビデオプロジェクション(HDビデオ) / 6時間1分/ループ/機材協力：パナソニック株式会社/協力：デイヴィッド・ツヴェルナー





ブランド・ジュンソー

Brandt Junceau

1959年アメリカ・ニューヨーク州ボキブシー生まれ、ベルリンとニューヨークを拠点に活動

彼は石膏による成型・ castingに加え、テラコッタも用いるが、近年の展示では、時間に対する精神分析的な関心や考古学的遺物への興味が顕著である。新作の構想は、会場下見の際に目にした展示ケースから出発した。美術館の開館時に作られたケースのガラスの内と外に、時空の隔たりを直感的に感じたという。一対の人体像が別のケースに入れられることで、対比的なあり方が強調され、鑑賞者は一方から他方へ視線を移して比較するうち、自分自身の心象が関わり始めるのにも気付くだろう。

出品作品

《Liebespaar (Lovers)》2015

インスタレーション/石膏像2体、美術館の展示ケース2点

ヘトヴィヒ・フーベン

Hedwig Houben

1983年オランダ・ボクステル生まれ、ベルギーを拠点に活動

彼女はレクチャー / パフォーマンスという手法のもと、美術作品(特に彫刻)に関わる約束事の関係性を分析的に解体していくプロセス自体を作品化する。出品作《手と目、そしてIt》では、彫刻になる以前の不定形なオブジェと、作者、作者の視線と手、作品についての説明的な語りなど、美術作品を成立させる諸要素を媒介し関係付ける役割を、作家自身の手の複製に演じさせる。もう一方の最新作は、事物が作者の手から離れて作品となる瞬間を探ろうとする試みである。

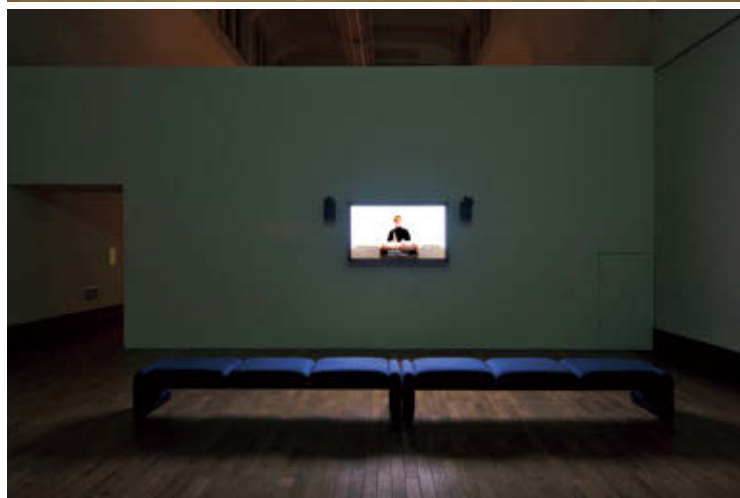
出品作品

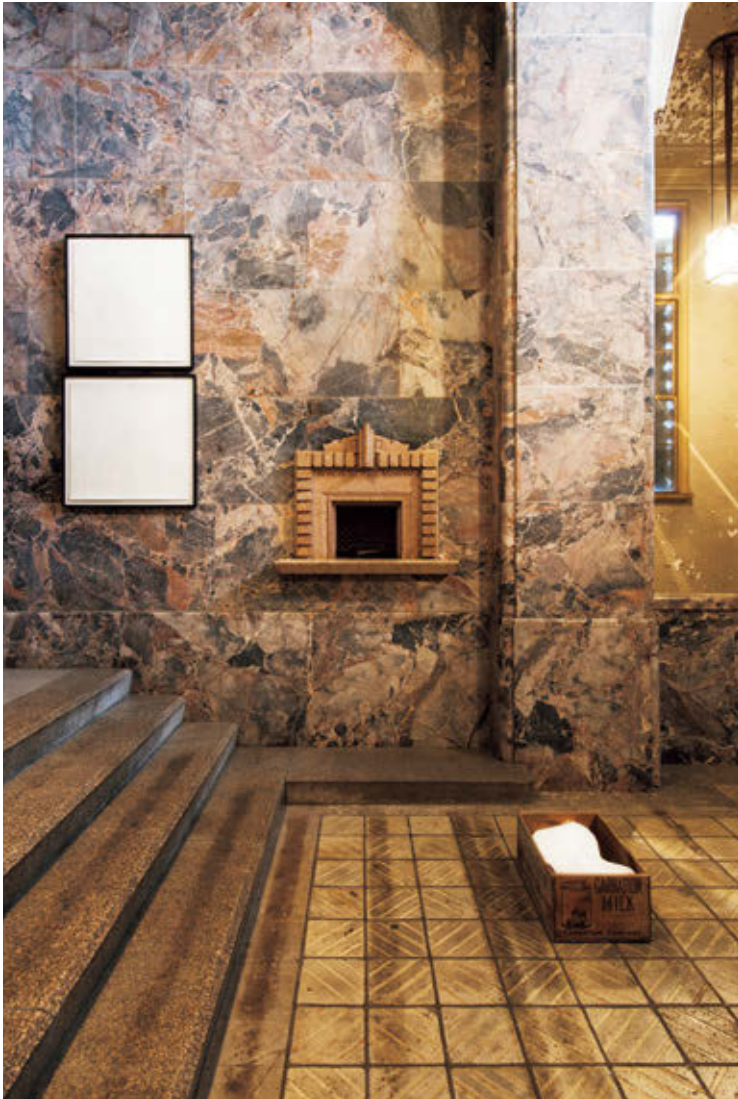
《好いもの、悪いもの、幸福なもの、悲しいもの》2014

レクチャー / パフォーマンスのビデオ(19分33秒) / 1階で展示/ビデオ:パス・シェーファース/日本語字幕:有限会社ホワイトライン/協力:ギャラリー・フォンス・ヴェルタース

《手と目、そしてIt》2013

レクチャー / パフォーマンスのビデオ(20分11秒) / 2階で展示/ビデオ:パス・シェーファース/日本語字幕:有限会社ホワイトライン/協力:ギャラリー・フォンス・ヴェルタース





高嶺格

Tadasu Takamine

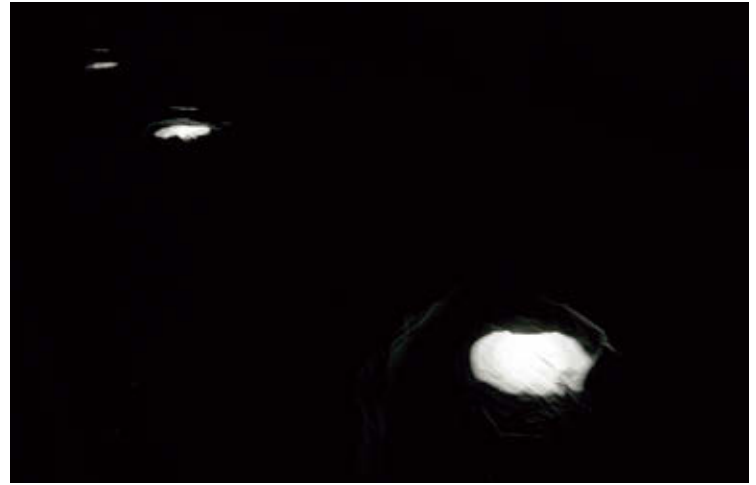
1968年鹿児島生まれ、秋田を拠点に活動

京都での発表として、京都市役所前を熱狂的なダンスフロアに変えた《ジャパン・シンドローム〜ベルリン編》(2013)のパフォーマンスが記憶に新しい。知的な批評／皮肉とユーモアが交錯する彼の作品は、常に自らの身体や生身の人間を基点としており、共同体の中で共有しながら言語化されない、私たちと禁忌との共犯関係をあぶりだす。今回は、北地下室という特殊な空間を用い、現場で試行と熟慮を重ねた後、地球の稜線になぞらえた床の凹凸を旋回しながら照らす3つの光と音で構成したインスタレーション《地球の凸凹》を実現した。

出品作品

《地球の凸凹》2015

モーター、スピーカー、ナトリウム灯ほか／9分2秒／制作協力：岩田拓朗、木村剛士、濱哲史、藤原康弘



ヤン・ヴォー

Danh Vo

1975年ベトナム・バリア市生まれ

デンマーク育ち。デンマーク王立芸術アカデミー、フランクフルト造形美術大学卒。自身の数奇な生い立ちを核として、その作品は国家、象徴、布教、交換、アイデンティティーなど広範な批評性を放つ。本展では、アンティークの木箱に収められた1世紀から2世紀頃に制作されたとされる「アポロ」の大理石像の断片を床に、父、フン・ヴォーのカリグラフィーによる2点の平面作品を壁面に、作家の指示により、建築が保持する時間の経過を直観し得る北玄関に展示した。

出品作品

《無題》2015

1世紀-2世紀頃のローマの工房によるアポロの大理石像のトルソ、木、釘

《無題》2015

インク、紙、フン・ヴォーによる文字

《無題》2015

インク、紙、フン・ヴォーによる文字



アリン・ルンジャー

Arin Rungjang

1975年タイ・バンコク生まれ、同市を拠点に活動

タイの伝統的な砂糖菓子「トーン・ヨート」(金の滴)を基点として、15世紀から21世紀までのタイ・ギリシャ・ポルトガル・日本の個人のお話と砂糖の交易史を緩く丁寧に重ね合わせたビデオと、緻密な彫刻とで構成された近作《Golden Teardrop》。新作は作家の祖母の遺「骨」、山田長政についての「本」、祖母の記憶と関連した「光」のオブジェ、そして標本と一人の昆虫学者によって語られる「虫」を通して個人の記憶と歴史が紡ぎ併せられる。

出品作品

《Golden Teardrop》2013

シングルチャンネルのビデオとサイトスペシフィックな立体作品のインスタレーション(HDビデオ、サウンド、アユタヤの家屋の木材を一部使用した木製の構造物、第二次世界大戦の廃工場の鉄の梁、黄銅铸件 6,000点) / ビデオ: 32分27秒 / 日本語字幕: 芝野ちさ / タイ王国文化芸術文化事務局(OCAC)蔵

《骨、本、光、虫》2015

マルチチャンネルのビデオとサイトスペシフィックな立体作品のインスタレーション(HDビデオ、サウンド(2チャンネル、ステレオ) / 照明器具を用いた立体作品 / 虫の標本2点(タイの標本と日本の標本)、山田長政についての本1冊、作家の祖母の遺骨を入れたコレクションテーブル) / ビデオ: メインスクリーン 37分52秒、ループスクリーン 22分53秒 / 日本語字幕: 有限会社ホワイトライン / 機材協力: パナソニック株式会社 / 協力: 株式会社 地球、広島県立人と自然の博物館



グシュタヴォ・シュペリジオン

Gustavo Speridião

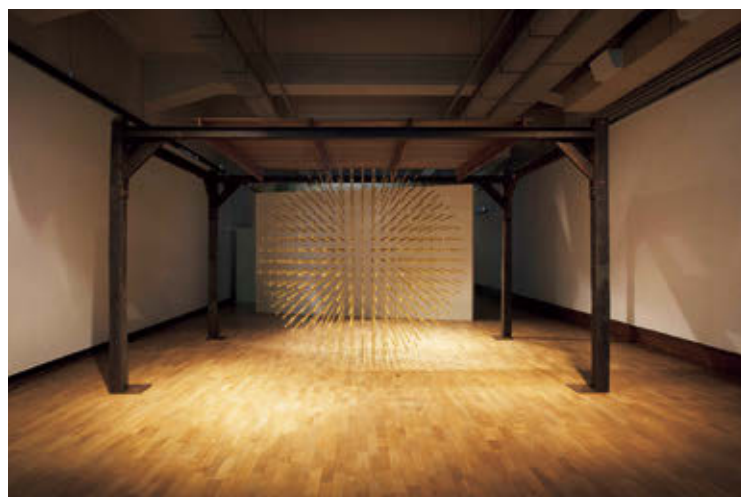
1978年ブラジル・リオデジャネイロ生まれ、同市を拠点に活動

出品作《素晴らしき美術史》は、アメリカのグラフィック誌『LIFE』が1936年の創刊時から掲載した写真のアーカイブとして出版した膨大な記念写真集『The Great LIFE Photographers』に、落書きのような言葉や絵を上書きして作った私家版の美術史書といえる。これは大文字の美術史や美術の形式への、あるいは政治や社会への皮肉だけでなく写真を読む作法に対する批判でもあり、そこには様々な既存概念を飛び越える小気味よさがある。英・葡・仏語版に加え、今回新たに日本語版が制作された。

出品作品

《素晴らしき美術史》2005-15

インスタレーション(インク、本『The Great LIFE Photographers』 / ブラジルポルトガル語版1点、英語版1点、フランス語版1点、日本語版2点 / 英語版全ページのプリントを壁に貼付 / 協力: ガレリア・スーパーフィシエ



リサ・アン・アワーバック

Lisa Anne Auerbach

1967年アメリカ・ミシガン州アナーバー生まれ、ロサンゼルスを拠点に活動

最初は写真家として出発したが、近年はニットや巨大な ZINE (私製本) など、自分自身の日常から生まれた発想を起点に、個人で容易に使用可能なメディアを駆使し、日常の中に非日常が交錯し遊戯的で批評性に満ちた作品を発表。京都市美術館では、約 150×100cm の巨大な ZINE を模した 2 点を展示。#1 は、アメリカ西部に点在する巨大教会。#2 は「占い」関連のショップが主題となっている。会期中、定期的にサポートスタッフによってページをめくるパフォーマンスが行われた。

出品作品

《アメリカン・マガジン #1》2013

インクジェット、紙/協力：ギャヴラク

《アメリカン・マガジン #2》2014

インクジェット、紙/協力：ギャヴラク



ドミニク・ゴンザレス = フォルステル

Dominique Gonzalez-Foerster

1965年フランス・ストラスブール生まれ、パリとリオデジャネイロを拠点に活動

近年はシネマ、テキスト、本、言語から発生するイメージとフィクション(物語)を、様々なメディアを使って深く静かに考察する作品を制作。2012年より、小説や映画の登場人物などになって現われ、テキストと音楽を用いて行うレクチャー/パフォーマンスのシリーズ「M.2062」を開始。2013年9月に実施した《M.2062 (Scarlett)》はその5作目。本展では、美術館創建時には貴賓室の副室であった部屋を使用して、2014年にベルリンで行った「M.2062」を基にした新作を出品。

出品作品

《ベルリンのローラ・モンテス》2015

HDビデオ(3分58秒)、テーブル、鏡/協力:エスター・シッパー、クリョーヒン・センターほか

アナ・トーフ

Ana Torfs

1963年ベルギー・モルツェル生まれ、ブリュッセルを拠点に活動

出品作では、植物の学名がその発見者や普及者にちなんで定められた事実に着目し、その由来となった大航海時代と帝国主義時代の25人の「世界」の探求から、単一の歴史観とは別の軸に沿って進歩発展する文化史を露にする。アルファベット順に並べられた25人の中央には、学名命名システムを確立したカール・リンネが配置される。鑑賞者は綿密に調査され、美しく配置された作品の前で、世界史の近代についてのきわめて個人的な見方を示す「世界の絵地図」を経験するのである。

出品作品

《ファミリー・プロット》2009-10

インスタレーション（アルミ板にマウントしたラムダプリント25点、ガラス面にシルクスクリーン、それぞれ木製のフレーム入り/アルミ板にマウントしたインクジェットプリント25点、それぞれ木製のフレーム入り）



ヨースト・コナイン

Joost Conijn

1971年オランダ・アムステルダム生まれ、同市を拠点に活動

「飛びたい」という衝動から、手製の飛行機でサハラ砂漠を飛行し、木製の木炭自動車でヨーロッパ15カ国を走行した彼のユニークな旅の記録は、映画や写真、書籍など様々な媒体を通して発表されてきた。自分の好奇心や衝動を、既成の交通手段ではなく手作りの乗り物で実現し、成り行きにまかせて国や文化の境界線を自由に往来する彼の態度は、既存の諸システムに依存する現代について再考を促す、まさにパラ位置の知性と言えるだろう。

出品作品

《木製自動車》2002

ビデオ（31分10秒）/ベルギー、ドイツ、チェコ、スロバキア、ハンガリー、ルーマニア、モルドバ、沿ドニエストル、ウクライナ、ブルガリア、マセドニア、アルバニア、イタリア、フランス、オランダで撮影

《飛行機》2000

ビデオ（28分37秒）/オランダとモロッコで撮影/日本語字幕：有限会社ホワイトライン

《Siddieqa, Firdaus, Abdallah, Soelayman, Moestafa, Hawwa and Dzoelkifl》2004 /ビデオ（41分42秒）/アムステルダムで撮影/日本語字幕：有限会社ホワイトライン

《屋根の上の車》1996

ビデオ（2分3秒）/アムステルダムで撮影

《これは門である》1997

ビデオ（20分24秒）/オランダとモロッコで撮影



王虹凱 ワン・ホンカイ

Hong-Kai Wang

1971年台湾・虎尾生まれ、ウィーンと台北を拠点に活動

本展では、日本の台湾統治時代に製糖産業で栄えた虎尾市に今も残る台湾糖業会社の元・労働者とその家族を対象に、日々の労働の音を彼ら自身で収集するワークショップを基に制作した《勤労歌》(2011)に加え、《勤労歌》の歴史背景に関連した調査資料を提供するための場でもある新プロジェクトを展示。会期前と会期中に京都で実施したワークショップを加えたこのプロジェクトを通じ、台湾と日本に内在化した地政学的関係と人々の社会的記憶との再構築を試みた。

出品作品

《勤労歌》2011

マルチチャンネルのサウンドと2チャンネルのビデオによるインスタレーション(39分17秒)とドキュメンタリービデオ(31分57秒) / 協力: 熊本市現代美術館

《百万人の踊り手》2015

マルチメディアのインスタレーション(ビデオ、机、本棚、資料ほか) / 展示デザイン協力: クリスチャン・テッカー / 制作協力: 琴浦香代子、武韻恩、野崎美香、野間久美子、林薫、山尾由紀 / 『片格転動的台湾顕影』からの映像提供: 国立台湾歴史博物館

笠原恵実子

Emiko Kasahara

1963年東京生まれ、神奈川県藤沢市を拠点に活動

2000年から世界85カ国の献金箱の写真をもとにした「Offering」を制作。この調査中の旧満州やシベリア鉄道の記憶と、京都市美術館の帝冠様式建築の経験が機縁となり、第二次大戦中に製造された陶製手榴弾への関心に到達。この遺物を基にした1001個の磁器は、戦争と産業や化学、集団的な祈念などへの読解を導き、1933年製の展示ケースの中の金属片と線路の写真は、近代化における交換、越境などへの表象を拓ける。彼女の選択によるシネマプログラムは、これら新作の背景の補足でもあった。

出品作品

《TSR 14》2015

インスタレーション(アルミニウム、真鍮、銅、ニッケル、写真)

《K1001》2015

インスタレーション(1001個の磁器、1001枚のA4紙に印刷) / 制作協力: 叶道夫、上田順平(宝塚大学)、田中雅文、度會保浩 / 撮影協力: 来田猛、館かほる、松本和史 / 調査協力: 木立雅朗(立命館大学大学院文化研究科)、石川晃、帖地真穂、京都市産業技術研究所窯業系チーム、滋賀県工業技術総合センター信楽窯業技術試験場





アフメド・マータル

Ahmed Mater

1979年サウジアラビア・タブーク生まれ、アブハ、ジッダおよびメッカを中心に活動

医師でもあり、芸術家グループのリーダーとしても活動する彼の今回の出品作は、メッカ周辺の大規模な再開発工事を、現場の労働者が携帯電話で撮影した動画を集めて作品化したものである。結果として作品は、イスラム世界の聖地メッカが、急増する巡礼者と観光産業、グローバリゼーションの中で物理的・文化的にめまぐるしく変貌する姿を、移民建設労働者の視点で撮影した、メッカ近代化に関する“非公式”だが看過しえない別のリアリティの記録となっている。

出品作品

《四季を通して葉は落ちる》2013

ビデオ(19分57秒) / 日本語字幕: 芝野ちさ / 協力: Athr ギャラリー

倉智敬子+高橋悟

Keiko Kurachi & Satoru Takahashi

倉智敬子 (Keiko Kurachi) 1957年大阪生まれ、大阪を拠点に活動

高橋悟 (Satoru Takahashi) 1958年京都生まれ、大阪を拠点に活動

「生存の技法」という視点から身体・知覚・言語の関係を再配置し、医療・生命・環境や制度を包括する研究・制作のプロジェクトを展開。本展では、関係性と意味が解体され漂白された法廷と監獄の白い構造体、庭石などが配置されたパラドキシカルな空間が広がる。鏡裏のスペースでは、歴史の外部で変貌してゆく京都の崇仁地区の映像が投影される。不均一なこの空間は、鑑賞者の視点を流動化させ、区画・領域・権力・言語などについて自問し、思考と検証を繰り返す場所となる。

出品作品

《装飾と犯罪——Sense/Common》2015

ミクストメディア / 映像・音声制作協力: 人長果月 / 制作協力: 松野鉄工株式会社、株式会社アトリエ・ティーエムバーガー、京都市立芸術大学芸術資源研究センター、株式会社北進塗装、杉山雅之 / 撮影協力: 崇仁地区まちづくり協議会、うるおい館、元・崇仁小学校、柳原銀行記念資料館 / 助成: JSPS 科研費「未完の記憶」ならびに「生存の技法」



眞島竜男

Tatsuo Majima

1970年東京生まれ、神奈川県川崎および大分県別府を拠点に活動

緻密な資料調査を踏まえ、美術家の視点から近代日本美術史を再考察する作品を発表。今回は、開催前に行った全4回の連続レクチャーを経て、日本近現代美術に関するダイアグラムを様々な形で出品。複数のダイアグラムと、日々重なりながら書き換えられていく連続レクチャーの映像は、眞島が一貫して考え続ける「日本近現代」に共時的な態度を重ねた美術作品であり、一種のパフォーマンスでもある。また会場内の階段の一角には、粘土による立体的なダイアグラムも現れた。

出品作品

《二つのコンテンツボラリー：15分(ずつ)のレクチャー・ビデオ》2015
 連続する二日分のレクチャーの記録映像、2台のビデオプロジェクター、2面のスクリーン、日・英のダイアグラム(レーザープリント、紙) / ビデオ：各15分
 〈美術館〉、〈展覧会〉、〈フェノロサ〉、〈楽しき国土〉、〈戦争画〉、〈満州〉、〈河原温〉、〈近代美術〉、〈現代アート〉、〈アート〉についてのダイアグラム(日・英) 2015
 ダイアグラム(レーザープリント、紙) / 10点 / 和文英訳：マシュー・ヒッチモウ / 制作協力：株式会社フタバ印刷社 / 協力：TARO NASU
 《重なった土／飛び出した土：京都、PARASOPHIA、岸田劉生、満州について(の2時間のダイアグラム)》2015
 ダイアグラム(粘土、ベニヤ板)、ビデオ / ビデオ：2時間42分3秒 / 北螺旋階段に展示 / 協力：TARO NASU
 《『満州レスリング』のためのダイアグラム(粘土)》2015
 ダイアグラム(粘土、ベニヤ板、彫塑べら)、ビデオ / ビデオ：58分50秒 / 北ロビーに展示 / 動画撮影：野本直輝、藤川琢史、宮澤響 / 協力：blanClass、TARO NASU
 《重なった土／飛び出した土／満州レスリング》2015
 ダイアグラム(粘土、ベニヤ板ほか) / 北螺旋階段に展示 / 協力：TARO NASU



石橋義正

Yoshimasa Ishibashi

1968年京都生まれ、同市を拠点に活動

彼の作品は領域横断的で過激な娯楽性に満ちているが、今回の新作では、鑑賞者は展示空間を移動しながら、悪夢、幸福、身体、欲望といった様々な関係性の中で翻弄されるある女性の人生を映画的に体験する。本作品は鑑賞者が展示空間(映画装置)を身体的に移動して読み進める短編映画であると同時に、映画装置の空間的展開(インスタレーション)であり、鑑賞者の錯誤やストーリーの恣意的な解釈をも許容する、映画についての別の思考を促す実験装置でもある。

出品作品

《憧れのボディ / bodhi》2015
 短編映画(移動鑑賞タイプ) / マルチチャンネルのビデオ、マルチチャンネルのサウンド、人形2体、LED照明ほか / 約20分-1時間 / 協力：HOTEL ANTEROOM KYOTO、安藤英由樹(大阪大学大学院情報科学研究科)、京都芸術センター、有限会社アノレ、株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシー、FES株式会社、有限会社 JUR、ジャパンマテリアル株式会社

ナイリー・バグラミアン

Nairy Baghramian

1971年イラン・エスファハーン生まれ、ベルリンを拠点に活動

彼女の複合的な彫刻実践は、近現代美術史およびデザイン史に対する深い理解と、素材と技巧や制作過程への興味とを伴った批評的な関心によって導き出される。今回は既発表の《枕の形を整える》が、一部の新規制作を含め、「日本編」として再構成された。航海に関係するものを基点とする抽象的な立体物によるインスタレーションは、「彫刻的」であることの再考であると同時に、交易、工業、そして労働と工芸の性差的な意味合いについての考察でもある。

出品作品

《枕の形を整える：日本編（ムアリング、ガーニー、サイロ、モップ）》2015
 インスタレーション（ムアリング（ペイントした鑄造アルミニウム）1点、ガーニー（クロムめっきを施したポール）1点、サイロ（布、ゴム、合成皮革）3点、モップ（ペイントした金属、ウール、シリコン）1点、ロープ1本）／協力：ギャラリー・ブッフホルツ、クリマンズット



ローズマリー・トロツケル

Rosemarie Trockel

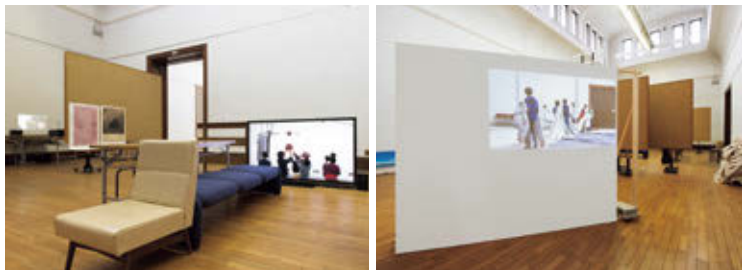
1952年ドイツ・シュヴェアアテ生まれ、ケルンを拠点に活動

陶磁やブロンズを使ったオブジェ、写真や映像によるコラージュ、身体に描かれたドローイングなど様々なメディアや手法で制作。本展では彼女が1985年以降取り組んできた「ニット絵画」の大作3点を出品。一見単色のキャンバスに見えるが、近付くとガーター編みによる無数の編目が観る者の思考を誘う。一本の毛糸で編み上げられた作品には、機械編みを可能にした時代とそれに携わってきた人々の歴史に対する彼女の思いが編み込まれている。

出品作品

《カモフラージュ》2006
 ウール（グレーがかったベージュ）、木／協力：スプリュート・マーガース／何炬星美術財団コレクション蔵
 《スクエア・エネミー》2006
 ウール（ブラウンがかったオリーブ）、木／協力：スプリュート・マーガース／個人蔵
 《ランバー》2007
 ウール（ヘーゼルナッツ）、木／協力：スプリュート・マーガース／何炬星美術財団コレクション蔵





ルイズ・ローラー

Louise Lawler

1947年アメリカ・ニューヨーク州ブロンクスビル生まれ、ニューヨークを拠点に活動

他の美術家による作品、特にモダニズムの古典とされるような作品が置かれる様々な文脈についての批評的な思考を導く写真作品で知られる。近年は自らの過去の写真作品から線だけを「トレース」させたシリーズを発表し、写真作品の骨格となる構造を抽象化、極限化させている。本シリーズは本来データとして存在し、展示期間中のみ物質化されるもので、本展ではこの中から7点を京都市美術館に展示し、内4点は河原町通りの工事中の京都 BAL の仮囲いの壁面でも展示された。

出品作品

《ポロックと蓋付深皿(トレース)》1984/2013

接着ビニールにプリントしたトレース作品/サイズ可変/ PARASOPHIA では71.1×99.1センチ/協力:メトロ・ピクチャーズ/京都 BAL 河原町通面でも展示
《背中の手(トレース)》1997/1998/2013

接着ビニールにプリントしたトレース作品/サイズ可変/ PARASOPHIA では153.7×110.5センチ/協力:メトロ・ピクチャーズ

《静物(蠟燭)(トレース)》2003/2013

接着ビニールにプリントしたトレース作品/サイズ可変/ PARASOPHIA では33.0×27.3センチ/協力:メトロ・ピクチャーズ

《思うより近くに(トレース)》2004/2005/2013

接着ビニールにプリントしたトレース作品/サイズ可変/ PARASOPHIA では104.1×81.9センチ/協力:メトロ・ピクチャーズ

《無題(トレース)》2006/2013 /接着ビニールにプリントしたトレース作品/サイズ可変/ PARASOPHIA では58.7×49.2センチ/協力:メトロ・ピクチャーズ/京都 BAL 河原町通面でも展示

《ドットとスライス(トレース)》2006/2013

接着ビニールにプリントしたトレース作品/サイズ可変/ PARASOPHIA では92.7×75.6センチ/協力:メトロ・ピクチャーズ/京都 BAL 河原町通面でも展示

《トライアングル(トレース)》2008/2009/2013

接着ビニールにプリントしたトレース作品/サイズ可変/ PARASOPHIA では105.7×105.7センチ/協力:メトロ・ピクチャーズ/京都 BAL 河原町通面でも展示

田中功起

Koki Tanaka

1975年栃木県益子生まれ、ロサンゼルスを拠点に活動

彼は、プロジェクトを記録し編集したビデオ作品を通じて、記録と記憶を巡る多様な問題を考察し続けてきた。今回は、ローカルな歴史と集団性についての新たなプロジェクトの1作目として、会場となる京都市美術館の歴史(米軍による占領期と1970年開催の展覧会)に注目し、4名のファシリテーターと8名の高校生を参加者として、朗読・状況の再現・構築・対話を試みるワークショップを実施し、その映像を用いたインスタレーションを発表した。

出品作品

《一時的なスタディ:ワークショップ #1「1946年~52年占領期と1970年人間と物質」》2015

インスタレーション(マルチチャンネルのビデオほか) / activity 1: 朗読 中原佑介「人間と物質」1970年(24分30秒) / activity 2: 再演 クリスト「包まれた床」1970年(14分20秒) / activity 3: 講義 在日米軍基地問題と文化(36分15秒) / activity 4: 再演 バスケットボール(11分40秒) / activity 5: 討論 戦争について(35分45秒) / アクション、ワークショップ、ビデオ・ドキュメンテーション: 2014年12月6日-7日 京都市美術館 / 撮影・撮影機材協力: ARTISTS' GUILD / 展示機材協力: 国際交流基金 / 協力: ドイツ銀行 / 参加者: 青山真也(撮影)、東完治(高校生)、粟田大輔(モデレーター)、大久保朱音(高校生)、越智正洋(録音応援)、河原夏椰(高校生)、斎藤大貴(録音応援)、杉本龍哉(撮影応援)、高田悠介(高校生)、武内もも(高校生)、館かほる(写真記録撮影)、田中志遠(高校生)、田中功起(監督)、田中健司(ワークショップ・撮影コーディネーション)、山崎文(高校生)、津田道子(撮影)、中谷至宏(ワークショップ・撮影コーディネーション)、中西晶子(運営応援)、西井功(インストラクター)、西山真来(ファシリテーター)、牧井厚樹(高校生)、藤井光(撮影監督)、藤川琢史(写真記録撮影)、藤口諒太(録音・整音)、藤田慧光(撮影応援)、舟瀬伴子(ワークショップ・撮影コーディネーション)、堀修生(録音助手)、宮田有香(ワークショップ・撮影コーディネーション)、毛利嘉孝(レクチャー講師)





ラグナル・キヤルタンソン

Ragnar Kjartansson

1976年アイスランド・レイキャビク生まれ、同市を拠点に活動

彼の活動は、絵画、ドローイング、ビデオ作品、パフォーマンスといった多様なメディアにわたる。出品作《たくさんの悲哀》は、2013年にMoMA PS1で行われたアメリカのバンド、ザ・ナショナルのパフォーマンスを映像に収めたもの。ザ・ナショナルは3分25秒の曲「悲哀」を105回も反復しつつ6時間にわたって演奏した。反復のたび、バンドと観衆は互いのエネルギーを自らの内に取り込むが、鑑賞者は多様なカメラアングルによって様々な視点からこれを眺めることになる。

出品作品

ラグナル・キヤルタンソンとザ・ナショナル

《たくさんの悲哀》2013-14

シングルチャンネルのビデオ(6時間9分35秒) / 協力: MoMA PS1、ルーリング・オーガスティン、i8ギャラリー

ハルーン・ファロッキ

Harun Farocki

1944年ドイツ併合下のチェコスロバキア生まれ、2014年ベルリン没

マスメディアや監視カメラなど多岐にわたる映像を素材に、徹底した調査・分析を通して現代社会の構造に迫る実験的なドキュメンタリー映像を制作してきた。出品作では、ワシントンD.C.のベトナム戦争戦没者慰霊碑をはじめ、世界各地の記念碑や聖地を訪れた人々の儀式化された身体の動きが映し出される。信仰や目的に応じて様々な形を取る人々の行為を通して、記念碑が巡礼者から観光客まで多くの人々の想いを受け止め、崇拜の対象とされている様を考察している。

出品作品

《トランスミッション》2007

ビデオ(43分) / ハルーン・ファロッキ・フィルムプロダクション蔵



アラン・セクーラ

Allan Sekula

1951年アメリカ・ペンシルベニア州エリー生まれ、2013年ロサンゼルス没

1970年代後期から、彼は写真とテキストによる作品及び理論的著作を通じて、多くの美術家や研究者に影響を与えて続けてきた。出品作は、1999年秋に開催された第3回世界貿易機関閣僚会議に対する抗議運動を撮影し、そのスライド写真81枚とテキストとで構成されたもの。ジャーナリスティックな撮影方法を拒否して撮られた写真のシーケンスは、人々の対抗的な立場や役割を超えて、それでもなおゆっくりと流れる不確実な時間を、スライドの転換音とともに呼び起こしている。

出品作品

《催涙ガスを待ちながら》1999-2000

81点のスライドのプロジェクションと壁面テキスト／ウィンタートゥーア写真美術館蔵



やなぎみわ

Miwa Yanagi

1967年神戸生まれ、京都を拠点に活動

近年は劇作家・演出家として舞台作品を発表する彼女は、ヨコハマトリエンナーレ 2014 で発表した、中上健次の小説『日輪の翼』を上演するための移動舞台車を用い、その演劇化へのプロセスを、《ステージ・トレーラー・プロジェクト》として展開する。この一環として開幕前夜に二条城前でショーを実施。京都市美術館前庭では、上映会やダンサー、ミュージシャン等によるパフォーマンスに加え、いとうせいこうらのトークやショーを構成した「舞台車上・中上健次ナイト 2015」を実施した。

出品作品

《『日輪の翼』上演のための移動舞台車》2014

台湾製移動舞台車／協力：ヨコハマトリエンナーレ 2014、吉大生業工程有限公司、株式会社ビッグウエスト、京都造形芸術大学、東北芸術工科大学、國立臺北藝術大學、カラーキネティクス・ジャパン株式会社、徳島 LED アートフェスティバル、株式会社中川ケミカル、おおさか創造千島財団

スーザン・フィリップス

Susan Philipsz

1965年イギリス・グラスゴー生まれ、ベルリンを拠点に活動

彼女の作品はサウンドインスタレーションとして分類されるが、音を素材に時間と空間を分節する彫刻であるともいえる。設置場所に応じて選ばれる歌は、しばしば政治的、社会的な意味を持つが、その歌声は、鑑賞者自身の記憶や感情をも強く喚起しつつ、場所の記憶を再認識させる。京都市美術館の前には、《インターナショナル》を設置。これは作家自身がアカペラで歌う同名の革命歌で構成され、音の響きは、1922年に「水平社宣言」が発表された岡崎公会堂の旧蹟に向けられた。

出品作品

《インターナショナル》1999

シングルチャンネルのサウンドインスタレーション / 2分10秒



ブックストア、カフェ

京都市美術館の1階の大陳列室を無料ゾーンとし、さらに東側の扉を開けて外に広がる庭園との出入りを自由にする事で、会場への気軽なアクセスと観覧中の随時の休息を可能にした。この自由な無料ゾーンにブックストアとカフェを設けることで、会場に憩いと知への望みを総合的に充足できる空間を用意した。



ブックストア

SOPHIA BOOKSTORE by Books OGAKI

株式会社大垣書店の協力を得て、京都市美術館大陳列室内にブックストアを設置。PARASOPHIAの作家関連の書籍はもちろん、洋書・古書・美術の専門書を含む、現代芸術をより広く深く知り楽しむための書籍を取り揃えとともに、オリジナルグッズをはじめとしたグッズ販売も行った。



PARA CAFÉ

京都市美術館東玄関にカフェを設け、憩いと会話のスペースとした。

% ARABICA

アラビカコーヒーロースター&ファームの協力を得て、オリジナルな設えのもと、高品質のコーヒーを提供。

ROKUSISUI

京都 岡崎 六絲水の協力を得て、サンドイッチ、焼き菓子とピオ・ワインを提供。

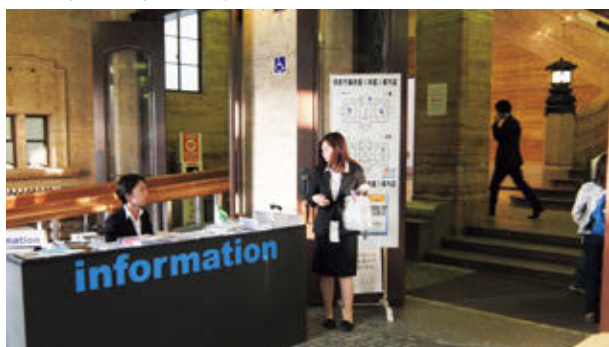
チケットブース、インフォメーションカウンター、サポートスタッフデスク、PARASOPHIA ルーム

メイン会場の京都市美術館の玄関前に、テクニカルサポートとして芸術祭実施に参画された SANDWICH のデザイン・施工によるチケットブースが登場し、象徴的なオブジェクトとしてエントランスに存在感を示した。これにより美術館自体のエントランスに空間的な余裕が生まれ、そこに入館者に種々の情報提供を果たすべくインフォメーションカウンターを設けた。観覧経路の途中に位置する PARA CAFÉ の前には、サポートスタッフが活動の拠点とし、シェルパツアーの集合場所ともなるサポートスタッフデスクを設けた。

チケットブース



インフォメーションカウンター



サポートスタッフデスク



また京都市美術館内の展示室の一角を PARASOPHIA のための自由な部屋として、「PARASOPHIA ルーム」と名付け、レクチャーやワークショップなど、作品とは別の視点から PARASOPHIA を体験する様々なイベントを行った。またあらかじめ用意されたプログラムだけでなく、訪れる人が自分で考えたプログラムを実現する場の提供も意図した。そのほか自主的な学習のための資料提供やサポートなど、活用次第で様々な可能性に開かれた PARASOPHIA の重層的な空間として機能することが図られた。

PARASOPHIA ルーム



THE MUSEUM OF KYOTO

京都府京都文化博物館





ドミニク・ゴンザレス = フォルステル

Dominique Gonzalez-Foerster

1965年フランス・ストラスブール生まれ、パリとリオデジャネイロを拠点に活動

80年代後半から自身が「ルーム」と呼ぶ一連の部屋のインスタレーションを制作する。映像、光、音、家具などが組み合わされるそれらの作品は、知覚を通じて鑑賞者の記憶を刺激し、作品である室内を物語に満ちた本であるかのような空間に変容させる。京都府京都文化博物館別館で展示した《オテロ 1887》は、マドリードのパラシオ・デ・クリスタルでの個展会場内で撮影された映像を用い、ヴェルディのオペラ『オテロ』を基に構想されている。

出品作品

《オテロ 1887》2015

HDビデオ(25分31秒) / 協力：国立ソフィア王妃芸術センターほか



森村泰昌

Yasumasa Morimura

1951年大阪市生まれ、同市を拠点に活動

本展では、美術館の空間を題材に扱った二つのシリーズを展示。《侍女たちは夜に甦る》は、ペラスケスの《ラス・メニーナス》が飾られている閉館後のブラド美術館が舞台。ペラスケスの絵の中から森村の作品の中まで、視点を介して空間と時間が次々に錯綜し鑑賞者を引き込む。他方《エルミターージュ 1941-2014》では、第二次世界大戦時に作品が疎開し額縁だけが残されたエルミターージュ美術館をテーマに、肉眼では見えない現在と過去の交錯を表現している。

出品作品

「侍女たちは夜に甦る」シリーズより8点 2013

発色現像方式印画

《侍女たちは夜に甦る I：ペラスケスの棺に跪く》 / 協力：株式会社 資生堂、一色事務所、《侍女たちは夜に甦る II：静寂のなかに小さな揺らぎを見つける》 / 協力：株式会社 資生堂、一色事務所、《侍女たちは夜に甦る III：絵の深奥の扉を開ける》 / 協力：株式会社 資生堂、一色事務所、《侍女たちは夜に甦る IV：画家の背中越しに秘密の光景を覗く》 / 協力：株式会社 資生堂、一色事務所、《侍女たちは夜に甦る V：遠くの光に導かれ闇に目覚めよ》 / 協力：株式会社 資生堂、シュウゴアーツ、一色事務所、《侍女たちは夜に甦る VI：王国の絵画、絵画の王国》 / 協力：株式会社 資生堂、一色事務所、《侍女たちは夜に甦る VII：ほんとうは何も起こらなかった》 / 協力：株式会社 資生堂、一色事務所、《侍女たちは夜に甦る VIII：そしてだれもいなくなった》 / 協力：株式会社 資生堂、一色事務所

「Hermitage 1941-2014」シリーズより3点 2014

《Hermitage 1941-2014 (Rembrandt room / Vera Milutina)》ラムダプリント / 協力：一色事務所、《Hermitage 1941-2014 (Spanish painting room / Vera Milutina)》ゼラチンシルバープリント / 協力：一色事務所、《Hermitage 1941-2014 (Van Dyke Room / Vasily Kuchumov)》ゼラチンシルバープリント / 協力：一色事務所





アレクサンダー・ザルテン

Alexander Zahlten

1973年アメリカ・ウィスコンシン州マディソン生まれ、ボストンと京都を拠点に活動

ハーバード大学東アジア言語・文学部准教授。1960年代以降の東アジア、特に日本の映画や視覚文化についてさまざまな観点から考察している。今回のプログラムでは、1960年代以降の「日本映画におけるアジア」に焦点を当て、11作の上映を通じて日本映画における自国と他国の表象を読み直す。これは、当事者にとっては客観化し難い「東アジアの近代」の物語を、非当事者である彼が選んだ映画の連鎖が紡ぎ出すメタ物語として、当事者である私たちが再読する試みである。

出品作品

シネマプログラム「アジアを照らさないミラーボール。日本映画のアジア」

上映作品

- A-1.『アジア秘密警察』[日本版] (監督: 松尾昭典、1966)
- A-2.『アジア秘密警察』[香港版] (監督: 松尾昭典、1967)
- B-1.『ホノルル・東京・香港』 (監督: 千葉泰樹、1963)
- B-2.『あんにょん由美香』 (監督: 松江哲明、2009)
- C-1.『サウダーチ』 (監督: 富田克也、2011)
- C-2.『アジアはひとつ』 (NDU[日本ドキュメンタリストユニオン]、1973)
- D-1.『中国の鳥人』 (監督: 三池崇史、1998)
- D-2.『地球で最後のふたり』 (監督: ベンエーグ・ラッタナルアーン、2003)
- E-1.『極東のマンション』 (監督: 真利子哲也、2003)
- E-2.『波濤を越える渡り鳥』 (監督: 齋藤武市、1961)
- E-3.『ディア・ピョンヤン』 (監督: 梁英姫[ヤン ヨンヒ]、2005)

PARASOPHIA シネマプログラム

京都府京都文化博物館内のフィルムシアターで、PARASOPHIAの参加作家に名を連ねる映画研究者アレクサンダー・ザルテンが、1960年代から近年までの日本と東アジアの映画が、他国をどの様に表象したかを考える「映画上映」というスタイルでの作品展示を行った。

また参加作家の笠原恵実子は、太平洋戦争中のある遺物を取り上げた自身の新作にあわせ、戦中の日本および満州国が製作した国策映画や、ソヴィエト連邦で製作された戦後初のカラー長編映画を上映するプログラムを企画した。

そのほか、PARASOPHIA参加作家による映像作品なども含め会期中に計22作品を上映、ゲストを招いたトークイベントも開催し、国際展のなかで映画上映をより円滑に行う手法を模索した。

上映期間：2015年3月10日(火)–5月10日(日)

上映会場：京都府京都文化博物館フィルムシアター

入場料：本芸術祭の入場チケットの提示で本プログラムを何度でも鑑賞可能とした。

1. アレクサンダー・ザルテン「アジアを照らさないミラーボール。日本映画のアジア」

「日本映画における東アジア」に焦点を当て、1960年代から近年までの日本映画を中心に11作品を上映。

上映期間：2015年4月5日(日)–19日(日)

A-1.『アジア秘密警察』【日本版】(監督：松尾昭典、1966、97分、35mm)

4月5日(日)15:00、4月11日(土)15:00

A-2.『アジア秘密警察』【香港版】(監督：松尾昭典、1967、97分、35mm [DVD上映]、日本語字幕：有限会社ホワイトライン ©Licensed by Celestial Pictures Limited. All rights reserved.)

4月5日(日)17:10、4月11日(土)17:10

*【日本版】では二谷英明、【香港版】ではジミー・ウォングという、主役が異なる2つのバージョンを同日上映

B-1.『ホノルル・東京・香港』(監督：千葉泰樹、1963、102分、35mm)

4月7日(火)18:30、4月12日(日)15:00

B-2.『あんによん由美香』(監督：松江哲明、2009、119分、35mm) * 15歳未満入場不可

4月12日(日)17:30、4月17日(金)18:30

C-1.『サウダーチ』(監督：富田克也、2011、167分、35mm)

4月9日(木)18:00、4月18日(土)14:00

C-2.『アジアはひとつ』(NDU、1973、96分、16mm)

4月10日(金)18:30、4月18日(土)18:00

D-1.『中国の鳥人』(監督：三池崇史、1998、118分、35mm)

4月14日(火)14:00、4月15日(水)18:30

D-2.『地球で最後のふたり』(監督：ベンエーグ・ラッタナルアーン、2003、117分、35mm)

4月14日(火)18:30

E-1.『極東のマンション』(監督：真利子哲也、2003、32分、8mm [今回はDVD上映])

4月16日(木)18:00、4月19日(日)13:30

E-2.『波濤を越える渡り鳥』(監督：齋藤武市、1961、79分、35mm)

4月16日(木)19:00、4月19日(日)14:30

E-3.『ディア・ピョンヤン』(監督：梁英姫 [ヤン ヨンヒ]、2005、107分、35mm ©Yonghi Yang)

4月8日(水)18:30、4月19日(日)17:00

トーク1：韓燕麗(中国語映画研究・関西学院大学准教授) × アレクサンダー・ザルテン

4月5日(日)19:00–20:00

トーク2：松江哲明(映画監督) × アレクサンダー・ザルテン

4月12日(日)19:40–20:40

トーク3：ヤン ヨンヒ [梁英姫] (映画監督) × アレクサンダー・ザルテン

4月19日(日)19:00–20:00

上映協力：空族、株式会社クロックワークス、神戸映画資料館、株式会社スターサンズ、株式会社スポットプロダクションズ、株式会社セディックインターナショナル、Celestial Filmed Entertainment Limited、東京国立近代美術館フィルムセンター、東宝株式会社、日活株式会社、真利子哲也

2. 笠原恵実子「trigonometry」

参加作家の笠原恵実子が、PARASOPHIAのための新作にあわせて選んだ、戦中の日本および満州国が製作した国策映画、ソヴィエト連邦で製作された戦後初のカラー長編映画を上映。

上映期間：2015年3月10日(火)–15日(日)

『陸軍』(監督：木下恵介、1944、87分、35mm)

3月10日(火)13:30、3月14日(土)16:10

『白蘭の歌』(監督：渡邊邦男、1939、102分、35mm)

3月10日(火)18:30

『ハワイ マレー沖海戦』(監督：山本嘉次郎、1942、117分、35mm)

3月11日(水)13:30、3月15日(日)15:30

『迎春花』(監督：佐々木康、1942、74分、DVD上映)

3月11日(水)18:30

『シベリア物語』(監督：イヴァン・フィリエフ、1947、ロシア、100分、35mm)

3月12日(木)13:30、3月15日(日)18:00

『サヨンの鐘』(監督：清水宏、1943、74分、35mm)

3月12日(木)18:30

『石の花』(監督：アレクサンドル・プトゥシコ、1946、ロシア、80分、35mm)

3月13日(金)13:30、3月14日(土)18:10

『支那の夜』(監督：伏水修、1940、126分、35mm)

3月13日(金)18:30、3月14日(土)13:30

『私の鷲』(監督：鳥津保次郎、1944、99分、35mm)

3月15日(日)13:30

トーク：笠原恵実子 × 森脇清隆(京都府京都文化博物館学芸課映像・情報室長、PABメンバー)

聞き手：河本信治(PARASOPHIAアーティスティックディレクター)

3月14日(土)19:40–20:40

上映協力：アテネ・フランセ文化センター、京都府京都文化博物館、株式会社ケー・シー・ワークス、松竹株式会社、東京国立近代美術館フィルムセンター、東宝株式会社、日活株式会社

3. PARASOPHIA 参加作家特集：アラン・セクーラ

アラン・セクーラ&ノエル・バーチ『The Forgotten Space』(2010、112分、デジタル上映)

5月7日(木)18:00、5月10日(日)10:30

言語：英語、ドイツ語、スペイン語、韓国語、インドネシア語、中国語 * 英語字幕のみ。

上映協力：Doc.Eye Film

4. PARASOPHIA 参加作家特集：石橋義正

『オー!マイキー特別編』(監督・脚本・製作・撮影・編集：石橋義正、2002、60分、DVD上映)

5月9日(土)18:00

上映協力：株式会社 よしもとクリエイティブ・エージェンシー



KAMO RIVER DELTA

鴨川デルタ



スーザン・フィリップス

Susan Philipsz

1965年イギリス・グラスゴー生まれ、ベルリンを拠点に活動

設置場所に依じて選ばれる彼女の歌は、しばしば政治的、社会的な意味を持つが、その歌声は、鑑賞者自身の個人的な記憶や感情をも強く喚起し、その場所の記憶を再認識させる。賀茂川と高野川の合流地点、通称「鴨川デルタ」での発表は、事前調査を通して構想された。新作《三つの歌》は、歌舞伎の原点とされる出雲阿国らの四条河原での上演を振り返り、トマス・レイヴンズクロフト『ハメリア』（1609）に収録された同時代のイングランドの民謡から構成された。

出品作品

《三つの歌》2015

4チャンネルのサウンドインスタレーション

2分43秒／開場時間内 毎時00分と30分より再生

KYOTO ART CENTER

京都芸術センター



アーノウト・ミック

Aernout Mik

1962年オランダ・フローニンゲン生まれ、アムステルダムを拠点に活動

ミックの作品の多くは、無音のマルチチャンネルのビデオを、彫刻ともいえる建築的空間に投影したビデオインスタレーションの形式をとる。本作では、企業の社員研修のような様相のなかに、徐々に儀式的行動が見え隠れし、やがて集団が生み出す熱狂を伴った異様なシーンへと変容するフィクションの映像に、実際の宗教儀式のドキュメンタリー映像が組み合わせられる。企業のセミナーも現代の宗教儀式も、ある高揚の中でその差異が判別不能なものへと変容していくのである。

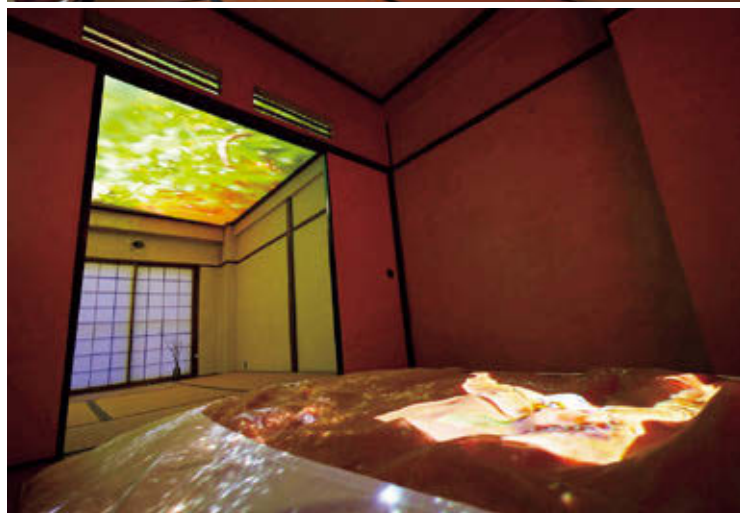
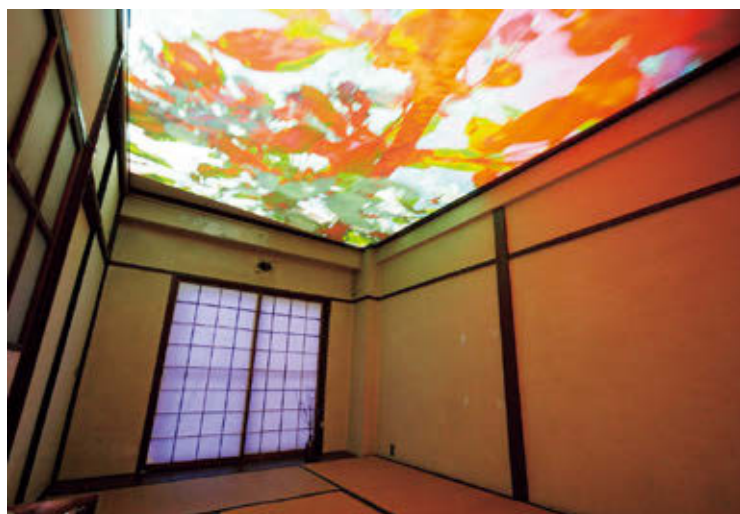
出品作品

《異言》2013

マルチチャンネルのビデオインスタレーション (HD ビデオ) / グローバル・プレイヤーズのコミッションにより制作 / 助成：モンドリアン財団、ハオフトシュタットカルトゥーアフォンス・ベルリン (ベルリン首都文化基金)、ハオス・デア・クルトゥーレン・デア・ヴェルト (世界文化の家) / 協力：メトロゾーンズ都市問題センター

HORIKAWA HOUSING COMPLEX

堀川団地



ピピロッチェ・リスト

Pipilotti Rist

1962年スイス・グラース生まれ、チューリヒを拠点に活動

「私はただ【色】を世界に取り戻し、現実になんげ近づこうとしているのです」と彼女は語る。近年の作品では、抽象的で装飾的な表現を通じた視覚原理への興味と、豊かな色彩へのこだわりはより先鋭化している。寝転がりながら、あるいはハンモックに揺られ、リラックスして鑑賞する場を提示するなど、鑑賞者への巧みなアプローチも作品の特徴である。堀川団地の新作では、彼女の瑞々しく美しい映像世界が扉を開き、私達の深層にある記憶やパーソナルな時間との対話を誘発する。

出品作品

《進化的トレーニング(堀川——不安は消滅する)》2014/2015

ビデオ・オーディオ・インスタレーション/京都・堀川団地の一室での2つのプロジェクション(ひとつは布団へ、ひとつは天井へ) / 3分37秒、12分20秒(共にループ) / サウンド: アンダース・グググスベルグ / 制作協力: エレファント・スタジオ、アントシ・フォン・ムース、エヴェリーナ・グーリック、ジェニー・アルネ、タマラ・ヴォーザー、岸本康 / 協力: ハウザー&ワース、ルーリング・オーガスティン

ブランド・ジュンソー

Brandt Junceau

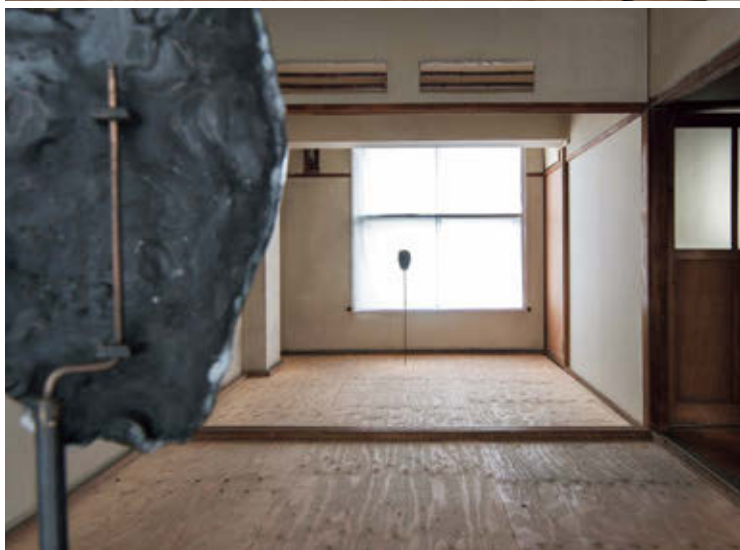
1959年アメリカ・ニューヨーク州ボキブシー生まれ、ベルリンとニューヨークを拠点に活動

堀川団地会場での作品は、居住者の去った団地の一室という、放棄された空間との遭遇体験から生まれた。顔面像と仮面との中間的な形象として形づくられた2点からなる《ミューズ》には、物質的な実在感と虚像、創造的インスピレーションと妄想の間の葛藤など、作家自身の複雑な心境が込められている。互いの部分がエコーのように浮遊する空間に身を置くことにより、鑑賞者も自身の経験に加え、かつてそこにあった生活にも思いを馳せることになる。

出品作品

《ミューズ》2015

インスタレーション/ブロンズの仮面2点、スタンド



笹本晃

Aki Sasamoto

1980年横浜生まれ、ニューヨークを拠点に活動

空間を彫刻的に分節し、その環境下で自らの身体によるダンス、言葉、モノを用い、緻密に構成された即興的なパフォーマンスを行う。事前調査を踏まえて選んだ堀川団地会場の1階2室では、ニューヨークで発表した《誤りハッピーアワー》に基づく映像展示のほか、4日間にわたりパフォーマンスを実施。今回のために作り込まれたバー・カウンターや移動する壁面、2階の押入れでのパフォーマンスのライブ映像など、建築空間の特性が十分に生かされた内容となった。

出品作品

《ラストコール、誤りハッピーアワー》2015

パフォーマンス / インスタレーション / 協力: Take Ninagawa

AREAS NEAR THE CROSS STREETS OF KAWARAMACHI AND SHIOKOJI STREETS

河原町塩小路周辺



ヘフナー / ザックス

Hoefner/Sachs

フランツ・ヘフナー | Franz Hoefner

1970年ドイツ・シュタルンベルク生まれ、ベルリンを拠点に活動

ハリー・ザックス | Harry Sachs

1974年ドイツ・シュトゥットガルト生まれ、ベルリンを拠点に活動

都市環境下の建築と居住の問題に取り組む彼らの作品には、単なるシェルターとしての「住宅」と長く生活する空間としての「住居」との建築的境界線を問いかけるものが多い。河原町塩小路周辺の崇仁地域では、地域の再開発プランによって生まれた多数のフェンスで囲われた空き地に、地域内に放置された建築資材や廃棄物を集めた構築物を制作。異邦人の視点で、長く差別を受けてきたコミュニティが培ってきた即興的な創造性への賛歌を、一時的なモニュメントとして視覚化するプロジェクトである。

出品作品

《Suujin Park》2015

インスタレーション（フェンス、植木鉢、遊具、ファウンドオブジェクトほか）/
制作協力：伊藤恒和、ULTRA FACTORY、岡田啓伸、株式会社岡野組、柳原銀行記念資料館、京都市立芸術大学、窪山勝也、ヤン・クロップフライシユ、小宮太郎、株式会社ゴードー、崇仁地域の方々、still moving、田附那菜、田中祥子、高橋悟、高畑元喜、榎昇、蟹恒太郎、八重建設、本田大起、南大樹、山内政夫、山崎康、横山良平



SUUJIN PARK

ヘフナー / ザックス
Suujin Park
2015

Hoefner/Sachs
Suujin Park
2015

1. 寄付された植木鉢と元・崇仁小学校で使用されていた遊具による、開かれた多目的立体庭園とコミュニティーホール
2. 取り壊された建物の遺留物によるオアシス
3. (壊れた) 街灯を代替する、水力発電により点灯する自転車ライト
4. 京都の信号機の鳥の声に応じて歌う鳥のオーケストラ
5. 再配置した石とポールによる日時計
6. 門ノ鳥居の形に切り抜いたフェンス

1. Donated plants and re-used playground material from the former Suujin Elementary School are transformed into a multipurpose gardening architecture and community hall, open for everybody.
2. Remains from former buildings are set up as an oasis.
3. A bicycle light powered by the river replaces the (broken) street lamp.
4. Local singing bird orchestra in response to the bird sounds of Kyoto's traffic lights.
5. Stones and a pole are rearranged to form a sun clock.
6. Fences cut to form a gate/torii.

所在地
Here

DISPLAY WINDOW AT BOOKS OGAKI KARASUMA SANJO / KYOTO BAL

大垣書店烏丸三条店(ショーウィンドー) 京都 BAL



リサ・アン・アワーバック

Lisa Anne Auerbach

1967年アメリカ・ミシガン州アナーバー生まれ、ロサンゼルスを拠点に活動

《この織機を持って失せる》と題された本作は、産業革命で機械化が進む18世紀のイギリスにおいて、手仕事の機会を失うことを恐れた労働者たちが起こした織機破壊運動(ラッドライト運動)と、富の再分配を行ったロビン・フッドの物語との融合によって生まれた。作家自身が着ているニットに編み込まれたスローガンには痛烈なユーモアが含まれており、見る者の目を奪う。軽やかな外見の背後に潜む彼女の鋭いメッセージが、京都のビジネス街の中心地に立ち現れる。

出品作品

《この織機を持って失せる》2009

写真による壁画/サイズ可変/協力:ギャヴラク

《この織機を持って失せる》2009

メリノウール、ファイバーグラス製の特注マネキン/協力:ギャヴラク





ルイズ・ローラー

Louise Lawler

1947年アメリカ・ニューヨーク州ブロンクスビル生まれ、ニューヨークを拠点に活動

他の美術家による作品、特にモダニズムの古典とされるような作品が置かれる様々な文脈についての批評的な思考を導く写真作品で知られる。近年は自らの過去の写真作品から線だけを「トレース」させたシリーズを発表し、写真作品の骨格となる構造を抽象化、極限化させている。本シリーズは本来データとして存在し、展示期間中のみ物質化されるもので、本展ではこの中から7点を京都市美術館に展示し、内4点は河原町通の工事中の京都 BAL の仮囲いの壁面でも展示された。

出品作品

《ボロックと蓋付深皿(トレース)》1984/2013

接着ビニールにプリントしたトレース作品/サイズ可変/ PARASOPHIA では71.1×99.1センチ/協力:メトロ・ピクチャーズ

《無題(トレース)》2006/2013

接着ビニールにプリントしたトレース作品/サイズ可変/ PARASOPHIA では58.7×49.2センチ/協力:メトロ・ピクチャーズ

《ドットとスライス(トレース)》2006/2013

接着ビニールにプリントしたトレース作品/サイズ可変/ PARASOPHIA では92.7×75.6センチ/協力:メトロ・ピクチャーズ

《トライアングル(トレース)》2008/2009/2013

接着ビニールにプリントしたトレース作品/サイズ可変/ PARASOPHIA では105.7×105.7センチ/協力:メトロ・ピクチャーズ

カタログ掲載

セクーラを読む人

The Sekula Reader in Japan

番場俊

「導入——アラン・セクーラの陰鬱な/悦ばしき学問」

2014-15

論文(日本語) / 和文英訳: クリストファー・スティヴンズ / 協力: 表象文化論学会

前川修

「写真を逆なですること——セクーラ(1951-2013)の写真理論/写真実践」

2014-15

論文(日本語) / 和文英訳: クリストファー・スティヴンズ / 協力: 表象文化論学会

佐藤守弘

「産業資本主義の画像=言語——写真アーカイブとセクーラ」

2014-15

論文(日本語) / 和文英訳: クリストファー・スティヴンズ / 協力: 表象文化論学会

北野圭介

「イメージのマテリアリティーとサーキュレーション」

2014-15

論文(日本語) / 和文英訳: クリストファー・スティヴンズ / 協力: 表象文化論学会

PARASOPHIA 参加作家 関連イベント

PARASOPHIA は準備期間の2年間を通じて参加作家のほとんどを京都に招聘した。オープンリサーチプログラムをはじめとして、作家によるレクチャーやパフォーマンスを多数実施し、作品はもとより、その成立過程も多くの方々と共有していった。

リサ・アン・アワーバック Lisa Anne Auerbach

2015年5月8日(金) / [レクチャー] / PARASOPHIA ルーム

蔡 國強 Cai Guo-Qiang

2013年10月14日(月・祝) / ORP 04 [対談] ダイアログ——蔡國強 × 浅田彰 / 京都造形芸術大学

2014-2015年 / 「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト

2015年3月7日(土) [ワークショップ] 「花火風を上げる」 / 京都府立植物園

サイモン・フジワラ Simon Fujiwara

2015年3月7日(土) / [レクチャー] / PARASOPHIA ルーム

ドミニク・ゴンザレス = フォルステル Dominique Gonzalez-Foerster

2013年9月6日(金) / ORP 03 [レクチャー / パフォーマンス] 「M.2062 (Scarlett)」

ヘフナー / ザックス Hoefner/Sachs

2015年3月7日(土) / 「ヘフナー / ザックスによる崇仁ガイドツアー」 / 河原町塩小路周辺

石橋義正 Yoshimasa Ishibashi

2014年4月18日(金) / アクセスプログラム [勉強会]

第1部: 京都芸術センター、第2部: flowing KARASUMA

2015年5月10日(日) / Trans-it プログラム part-6 石橋義正 / 崇仁地域周辺 / 主催: still moving

ブランド・ジュンソー Brandt Junceau

2015年3月13日(金) / [レクチャー & ギャラリーツアー] / PARASOPHIA ルームおよび展示室

笠原恵実子 Emiko Kasahara

2015年3月14日(土) / シネマプログラム / トーク: 笠原恵実子 × 森脇清隆 / 京都府京都文化博物館フィルムシアター

2015年4月11日(土) / [レクチャー] 「制度の中の美学 / 美学の中の制度—近代京都からの考察」 / PARASOPHIA ルーム

2015年4月24日(金) Trans-it プログラム part-3 笠原恵実子 「唯一のひとつを集積すること」 / 元・崇仁小学校 / 主催: still moving、京都市立芸術大学芸術資源研究センター

ウィリアム・ケントリッジ William Kentridge

2014年2月22日(土) / プレイベント 関連イベント [レクチャー] 「宿命からの逃走——《時間の抵抗》について」 / 先斗町歌舞練場

倉智敬子+高橋 悟 Keiko Kurachi & Satoru Takahashi

2014年10月5日(日) / アクセスプログラム in 横浜 [横浜トリアル CASE-3]

森村泰昌 × 河本信治 「Still Moving: 漂流」 / ヨコハマトリエンナーレ 2014 会場内 (横浜美術館) (横浜) / 共催: Temporary Foundation

2015年3月7日(土) / [レクチャー] 倉智敬子+高橋悟 Case of A/Being part-1 「イリュージョン: 認知と身体の実在性」 下條信輔、高橋悟 / PARASOPHIA ルーム

2015年3月8日(日) / Parasophia Conversations 03 / PARASOPHIA+Goethe Villa Kamogawa 共同プロジェクト 「美術館を超える展覧会は可能か」 / ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川 / 共催: ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

2015年4月12日(日) / [レクチャー] 倉智敬子+高橋悟 Case of A/Being part-2 「おまかせ民主主義からの脱却」 / (第1部) 講演 上野千鶴子 / PARASOPHIA ルーム (第2部) オープンディスカッション 「上野千鶴子+一般参加の方々」 / 展示室内

2015年5月3日(日・祝) / [コンサート] 倉智敬子+高橋悟 Case of A/Being part-3 「休日の憲法」 (第1部) Shing02×KURANAKA ライブ / 京都市美術館 前庭 (第2部) オープンディスカッション 「Shing02 + 一般参加の方々」 / 展示室内

ルイズ・ローラー Louise Lawler

2014年11月19日(水) / ORP 12 [レクチャー] / 京都国立近代美術館

アン・リスレゴール Ann Lislegaard

2014年9月30日(火) / ORP 11 [レクチャー] / 国際交流基金 (東京)

眞島竜男 Tatsuo Majima

2014年7月19日(土) / ORP 10-1 [連続レクチャー] 「全体タイトルは思案中」 第1回 「開いて閉じる、閉じて開く、開いて折りたたむ、折りたたんで開く: 日本の近現代美術について (の2時間のレクチャー)」 / flowing KARASUMA

2014年9月21日(日) / ORP 10-2 [連続レクチャー] 「全体タイトルは思案中」 第2回 「その公共性は誰のものなのか?: 美術館、国際展、現代美術、アートについて (の2時間のレクチャー)」 / flowing KARASUMA

2014年11月19日(水) / ORP 10-3 [連続レクチャー] 「全体タイトルは思案中」 第3回 「『ぶんでんていてんかいそいてんしんぶんでんてんてーん (仮)』、『北京日記』、『鶴沼相撲・京都ボクシング』、『日本近代美術/ 楽しみ国土』: 眞島竜男の作品について (の2時間のプレゼンテーション)」 / 京都府京都文化博物館 別館

2015年1月17日(土) / ORP 10-4 [連続レクチャー] 「全体タイトルは思案中」 第4回 「重なった土 / 飛び出した土: 京都、PARASOPHIA、岸田劉生、満洲について (の2時間のダイアグラム)」 / 京都精華大学

2015年3月9日(月) / Parasophia Conversations 05 / PARASOPHIA+ 国際交流基金 共同プロジェクト [トークイベント] 眞島竜男+国際交流基金招聘キュレーター / 京都芸術センター / 共催: 国際交流基金

2015年3月29日(日) / [レクチャー] 「一つのコンテンポラリー / 一つのコンプリシティー (共犯): 2015.03.29.13:00-13:15」 / PARASOPHIA ルーム

2015年4月4日(土) / [レクチャー] 「一つのコンテンポラリー / 一つのコンプリシティー (共犯): 2015.04.04.13:00-13:15」 / PARASOPHIA ルーム

2015年4月5日(日) / [レクチャー] 「一つのコンテンポラリー / 一つのコンプリシティー (共犯): 2015.04.05.13:00-13:15」 / PARASOPHIA ルーム

2015年4月30日(木) / Trans-it プログラム part-4 眞島竜男 / 元・崇仁小学校 / 主催: still moving

森村泰昌 Yasumasa Morimura

2014年10月5日(日) / アクセスプログラム in 横浜 [横浜トライアル CASE-3] 森村泰昌 × 河本信治「Still Moving : 漂流」 / ヨコハマトリエンナーレ 2014 会場内(横浜美術館) (横浜) / 共催: Temporary Foundation

2015年2月28日(金) / Parasophia Conversations 02 / PARASOPHIA カウントダウン / 森村泰昌 × ドミニク・ゴンザレス = フォルステル「合わせ鏡の対話」* 森村泰昌氏によるトークとして開催 / 京都府京都文化博物館 別館 / 共催: アンスティチュ・フランセ関西

スーザン・フィリップス Susan Philipsz

2014年4月20日(日) / ORP 08 [レクチャー] 「You Are Not Alone」 / 京都芸術センター

フロリアン・ブムヘルス Florian Pumhösl

2015年3月8日(日) / キュレトリアル・スタディーズ 08 : フロリアン・ブムヘルス × MoMAK 日本のダダ雑誌『マヴォ』研究: その翻訳の可能性 Part 1: ラウンドテーブル『マヴォ』とフロリアン・ブムヘルス / フロリアン・ブムヘルス、森下明彦 / 京都国立近代美術館 / 主催: 京都国立近代美術館 / 協力: PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015

ピピロッチェ・リスト Pipilotti Rist

2014年4月29日(火・祝) / ORP 09 [レクチャー] / 京都国立近代美術館

笹本晃 Aki Sasamoto

2014年7月5日(土) / コミュニティプログラム [トークセッション] 笹本晃 × ミヤギトシ+小山田徹 / 徳山拓一 / 元・西陣小学校 / 共催: 京都市立芸術大学

2014年7月5日(土) / [パフォーマンス] 「Skewed Lies」 / 堀川団地

2015年3月19日(木)、3月20日(金)、3月21日(土・祝)、3月22日(日) / [パフォーマンス] 「ラストコール、誤りハッピーアワー」 / 堀川団地 上長者町棟

2015年3月21日(土・祝) / [レクチャー] / 京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA (京都市中京区) / 共催: 京都市立芸術大学

セクーラを読む人 The Sekula Reader in Japan

2014年11月8日(土) / 表象文化論学会 第9回研究発表集会 企画パネル1「アラン・セクーラ、写真とテキスト、イメージと地政学のあいだ I」 / 新潟大学 / 主催: 表象文化論学会

2014年11月9日(日) / 表象文化論学会 第9回研究発表集会 関連企画(トーク・セッション)「アラン・セクーラ、写真とテキスト、イメージと地政学のあいだ II」 / 砂丘館(新潟) / 主催: 表象文化論学会

2015年5月6日(水) / Parasophia Conversations 06 セクーラを読む人(番場俊、北野圭介、佐藤守弘、前川修)「セクーラを読む人 III——イメージの唯物論(について考える)」 / PARASOPHIA ルーム

田中功起 Koki Tanaka

2013年7月27日(土) / ORP 02 [報告会] 田中功起+蔵屋美香「抽象的に話すこと——ヴェネツィア・ビエンナーレに参加して」 / 同志社大学

2015年4月25日(土) / [座談会] 「四ヶ月後、《一時的なスタディ: ワークショップ #1》への参加をめぐって」 / PARASOPHIA ルーム

ジャン＝リュック・ヴィルムート Jean-Luc Vilmouth

2015年3月3日(火)、3月4日(水) [ワークショップ] / PARASOPHIA カウントダウン「カフェ・リトル・ボーイ」 / 展示室内

王虹凱 Hong-Kai Wang

2014年12月23日(火・祝) / ORP 13 [ワークショップ] 「Dancers of the Millions」(仮称) / 京都芸術センター

2015年3月7日(土) [トークイベント] 展覧会ドラフト 2015 関連企画「対談① 王虹凱 × 川村麻純」 / 京都芸術センター / 主催: 京都芸術センター

2015年3月9日(月) / Parasophia Conversations 04 [ワークショップ] 「百万人の踊り手」 / PARASOPHIA ルーム

やなぎみわ Miwa Yanagi

2015年3月6日(金) / [パフォーマンス] PARASOPHIA カウントダウン / やなぎみわ ステージトレイラープロジェクト「オープニング・ポールダンスショー」 / 二条城 東側駐車場

2015年3月9日(月) / [対談] やなぎみわ ステージトレイラープロジェクト / 沈昭良、やなぎみわ / PARASOPHIA ルーム / 主催: やなぎみわ ステージトレイラープロジェクト

2015年3月14日(土) / [トークイベント] 展覧会ドラフト 2015 関連企画「対談② やなぎみわ × 川村麻純」 / 京都芸術センター / 主催: 京都芸術センター

2015年4月12日 / [野外上映会] やなぎみわ ステージトレイラープロジェクト タデウシュ・カントル生誕 100周年記念レクチャー&シンポジウムおよび野外上映(第1部)レクチャー「タデウシュ・カントルの宇宙におけるオブジェ、マネキン、俳優たち」(第2部)シンポジウムと「死の教室」上映会 / 主催: 京都市立芸術大学

2015年4月29日(水・祝) / [パフォーマンス] やなぎみわ ステージトレイラープロジェクト「舞台上・キャバレーナイト 2015」 / 京都市美術館 前庭 / 主催: やなぎみわ ステージトレイラープロジェクト

2015年5月3日(日・祝) / [パフォーマンス] やなぎみわ ステージトレイラープロジェクト「舞台上・中上健次ナイト 2015」 / 京都市美術館 前庭

アレクサンダー・ザルテン Alexander Zahlten

2015年4月5日(日) / [シネマプログラム] トーク1: 韓燕麗 × アレクサンダー・ザルテン / 京都府京都文化博物館フィルムシアター

2015年4月12日(日) / [シネマプログラム] トーク2: 松江哲明 × アレクサンダー・ザルテン / 京都府京都文化博物館フィルムシアター

2015年4月19日(日) / [シネマプログラム] トーク3: ヤン ヨンヒ × アレクサンダー・ザルテン / 京都府京都文化博物館フィルムシアター

公式カタログ

公式カタログは2015年3月7日の本展開幕に合わせ発行した。350ページ、40人/組の参加作家情報および出品作品に関する文章や画像を中心に構成し、展覧会図録ではなく出品作家のデータブックになることを目指した。キュレトリアルチームが作家たちと緊密に連絡を交わしながら、作家ごとに既に書かれた重要なテキストと作品画像の再録を中心に、収録内容を決定した。公式カタログの作家配列は、展覧会会場の作品展示とは異なる秩序で構成し、展覧会を追体験するための展覧会図録ではない、本という形式でのみ可能な、また別の展示として成立するように設計した。

なお参加作家の「セクーラを読む人」は、このカタログ上でのみ参加だが、2014年秋にPARASOPHIAと表象文化論学会が共同企画したフォーラム「アラン・セクーラ、写真とテキスト、イメージと地政学のあいだ」において、番場俊(新潟大学)、前川修(神戸大学)、佐藤守弘(京都精華大学)、北野圭介(立命館大学)が発表したアラン・セクーラに関する先鋭的な論考によるPARASOPHIAへの公式参加となった。

カタログの表紙はリサ・アン・アワーバック、ドミニク・ゴンザレス＝フォルステル、アン・リスレゴー、ピピロッチェ・リストの作品画像を元にした4種類のデザインを採用した。



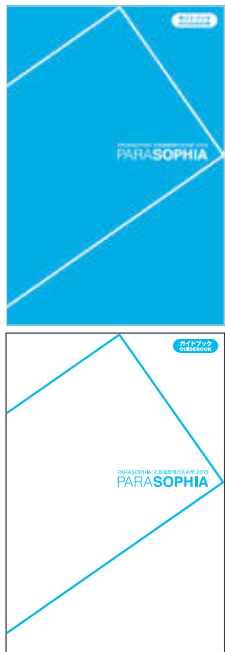
1. アーティストディレクターによるテキスト
2. 40人/組の作家ごとに出品作品および作家に関連するテキストや写真を収録
3. 作家・作品についてのテキスト
4. 出品作品リスト
5. 開催記録：PARASOPHIA 2013-2015

発行日：2015年3月6日
 発行部数：10,000部
 判型等：220×190mm(菊判12切り逆折り)、4色フルカラー、350頁
 言語：日本語・英語
 価格：2,000円(税込)

会期中販売場所：
 SOPHIA BOOKSTORE by Books OGAKI(京都市美術館内)、大垣書店各店、NADiff(NADiff a/p/a/r/t、NADiff contemporary、gallery 5、Contrepoint、NADiff aichi)、六本木ヒルズアート&デザインストア、便利堂

公式ガイドブック

来場者に PARASOPHIA をより深く体験してもらうための支援素材として、無料で配布するガイドブックを制作した。このガイドブックは PARASOPHIA の計画初期段階から展覧会の重要な制作物として位置付け、鑑賞者が手軽に手にして読みながら展示を巡ることができるよう、サイズ、重量、頁数、内容を詳細に検討し設計した。全会場を記載した市街地図、PARASOPHIA の基本情報、主会場である京都市美術館の展示配置図と現在地確認のためのアイコン、さらに作家情報ページを理想の鑑賞ルートで配列し、このガイドブックが携帯版解説パネルの役割も果たすよう配慮した。また会期中に開催される多数のイベント情報を掲載、情報更新のために会期中の再版を当初から計画し、会期中も増え続けるイベントを可能な限り収録した。ガイドブックは各会場で配布したほか、市内のギャラリー、美術館、ホテル、カフェ、全国各地の協力施設にも幅広く送付し、より多くの人に事前に PARASOPHIA を知ってもらう媒体、一種の広報ツールの役割も担わせた。

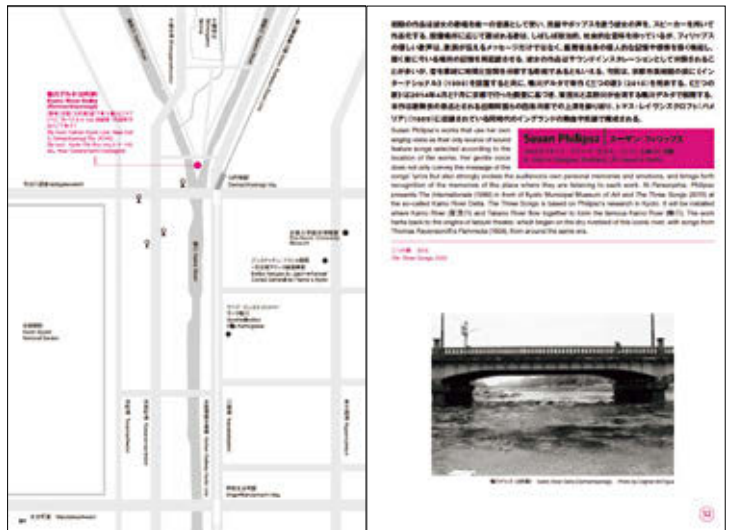


収録内容：

1. ガイドブックの手引き
2. 会場案内
3. 京都市街図
4. 各会場別作家作品解説
5. PARASOPHIA イベントカレンダー および詳細情報
7. PARASOPHIA シネマプログラム情報
8. 連携企画情報
9. 作家リスト

発行日：2015年3月6日初版発行、
2015年4月10日第2版発行
発行部数：200,000部(初版：100,000部、第2版：100,000部)
判型等：A5変型(145x215mm)、3色、88頁
言語：日本語、英語

配布場所：各会場および周辺のギャラリーや美術館、公共施設、カフェ、ホテル、全国の協力施設など



Parasophia Chronicle

オープンリサーチプログラムなどの調査活動記録の公開を主な目的として、電子書籍『Parasophia Chronicle』[パラソフィア・クロニクル]を不定期で発行した。展覧会を作る過程で生まれた様々な思考の一端を記録する読み物として、レクチャーなどの講演記録を基に、各号ごとに異なる編集方針によって、講演者の書き下ろし原稿や当日の写真、参考資料などを収録した。Parasophia Chronicle は公式ウェブサイトにてPDF版と、iBooksなどの電子書籍リーダーに適したEPUB版の2種類を公開している。



ISSN：2187-9451

- 第1巻
- 第1号 リビット水田堯「猫と犬のように——映画とカラストロフ」
 - 第2号 田中功起×蔵屋美香「抽象的に話すこと——ヴェネツィア・ビエンナーレに参加して」
 - 第3号 ドミニク・ゴンザレス＝フォルステル「M.2062 [Scarlett]」
 - 第4号 ダイアローグ——蔡國強×浅田彰(予定)
 - 第5号 ブレイイベント【作品展示】ウィリアム・ケントリッジ《時間の抵抗》
 - 第6号 アン・リスレゴ(予定)
 - 第7号 アレクサンダー・ザルテン×北野圭介「21世紀のイメージ・トラフィックを考える」
 - 第8号 韓燕麗×アレクサンダー・ザルテン
 - 第9号 村松秀「テレビ番組を作る～すイエんサーから論文捏造まで～」

入場券販売、チケット製作

■入場料金

- ・前売券販売期間 2014年12月11日(木)～3月6日(金)
- ・当日券販売期間 2015年3月7日(土)～5月10日(日)

一般 1,800 (1,400) 円、大学生 1,200 (900) 円、70 歳以上 1,200 (900) 円
 団体割引券 (10 名以上) 1,500 円、大学生 1,000 円、70 歳以上 1,000 円
 パスポート 6,000 円、大学生 4,000 円、70 歳以上 4,000 円 (会期中有効)

* () 内は前売料金

■入場券デザイン

PARASOPHIA 参加作家の作品をモチーフに、それぞれの券種ごとにデザインの異なる入場券を作成した。9 種類を作成。

■入場券取扱窓口

チケットぴあ、ローソンチケット、イープラス

京都総合観光案内所、京都市交通局協力会 (京都駅前案内所、コトチカ京都案内所、北大路案内所、烏丸御池案内所、太秦天神川案内所、三条京阪駅定期券販売所、地下鉄四条駅定期券販売所)、京都芸術センター、京都市みなみ会館、アランヴェールホテル京都、大垣書店各店、ガクブチのヤマモト、京都東急ホテル、ジュンク堂書店京都店、大学生協京都トラベルセンター、NADiff (NADiff a/p/a/r/t、NADiff contemporary、gallery 5、Contrepoint、NADiff aichi)、MEDIA SHOP、六本木ヒルズ アート&デザインストアほか

■料金設定の特色

①高校生以下及び 18 歳未満の無料化

他都市の修学旅行生も含めて高校生の参加を促すために、高校生以下及び 18 歳未満を無料とした。

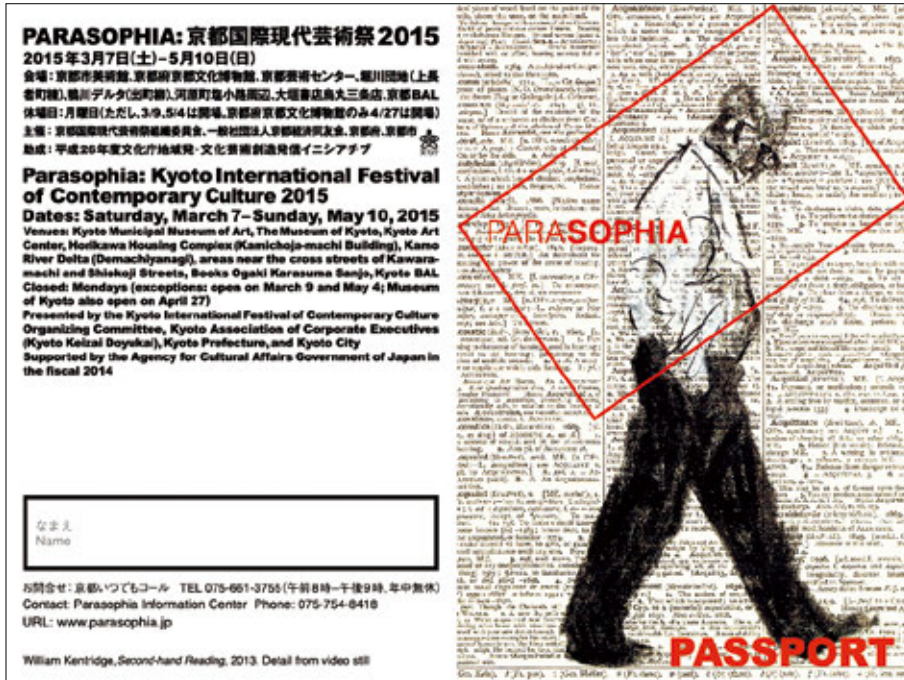
②70 歳以上の割引価格の設定

高齢者の方々にも楽しんでいただけるよう割引価格を設定した。

③障害者手帳所持者の無料化

障害者手帳等お持ちの方とその介助者 1 名まで無料とした。

④団体は 10 名以上とした。



パスポート 6,000 円、大学生 4,000 円、70 歳以上 4,000 円

招待券



前売券 (事務局での販売分)



一般 1,400 円

オリジナルグッズ

京都国際現代芸術祭組織委員会からブックストア運営委託を受けた大垣書店が、森ビル株式会社に委託して PARASOPHIA デザイナーの監修のもと制作し、京都市美術館「SOPHIA BOOKSTORE by Books OGAKI」において「オリジナルグッズ」として販売した。

◆ PARASOPHIA オリジナル商品リスト

分類	商品名	商品名	価格税込
PARASOPHIA ロゴ	Tシャツ	ブラック	2,600
		ホワイト	2,600
		グレー	2,600
	トートバッグ	ブラック	2,500
		ホワイト	2,500
		ブルー	2,500
	缶バッジ 38mm	ピンク	200
		グリーン	200
		ブルー	200
		赤	200
		白地青ロゴ	200
	缶バッジ 57mm	青地白ロゴ	250
		白地青ロゴ	250
	マグカップ	白地・黒	900
		白地・青	900
クリアファイル		270	
紙ペン	白	270	
	ブルー	270	
蔡國強	Tシャツ	ホワイト	3,600
ドローイング	トートバッグ		4,500
	メタルクリアファイル		540
	チケットホルダー インデックス付		450
菓子	アイシングクッキー 2種 (DEAN & DELUCA)		450



Tシャツ



トートバッグ



クリアファイル



紙ペン



缶バッジ



マグカップ

蔡國強 ドローイング



チケットホルダー



メタルクリアファイル



Tシャツ



トートバッグ

オープンリサーチプログラム

2013年6月から開始。PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 に向けてキュレトリアルチームが行う調査研究のプロセスの一部を一般に公開し、PARASOPHIA が目指す内容や方向性を出来るだけ多くの方々に共有してもらうためのプログラム。美術関係者だけでなく幅広い参加者が集まり、国内外の美術家や著述家、研究者などの講演や対話、世界各地の国際展のレポート、そして参加予定作家の作品にむけた挑戦的な習作や思考実験的なレクチャーなどが行われた。

2013年6月21日(金) 18:00-19:30

ORP 01 [レクチャー]

「猫と犬のように——映画とカタルストロフ」

リピット水田堯(南カリフォルニア大学映画学科学科長)

京都府京都文化博物館 別館ホール

共催: 京都府京都文化博物館

参加者数: 120名



2013年7月27日(土) 19:00-20:30

ORP 02 [報告会]

田中功起+蔵屋美香「抽象的に話すこと——ヴェネツィア・ビエンナーレに参加して」

田中功起(第55回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展日本館代表作家)、蔵屋美香(第55回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展日本館キュレーター、東京国立近代美術館美術課長)

同志社大学今出川キャンパス 良心館 地下2番教室

参加者数: 335名



2013年9月6日(金) 19:00-20:00

ORP 03 [レクチャー / パフォーマンス]

「M.2062 [Scarlett)」

ドミニク・ゴンザレス＝フォルステル(美術家)

京都府京都文化博物館 別館ホール

協力: 京都国立近代美術館

参加者数: 142名



2013年10月14日(月・祝) 15:00-17:00

ORP 04 [対談]

ダイアログ——蔡國強 × 浅田彰

蔡國強(美術家)、浅田彰(京都造形芸術大学大学院学術研究センター所長/批評家)

京都造形芸術大学 ギャラリー・オーブ

共催: 京都造形芸術大学

協力: 京都造形芸術大学大学院学術研究センター

参加者数: 278名



2013年10月25日(金) 15:00-16:30

ORP 05 [レクチャー]

妹島和世(建築家)

flowing KARASUMA

協力: 株式会社長谷ビル

参加者数: 95名



2014年2月16日(日) 15:00-16:30

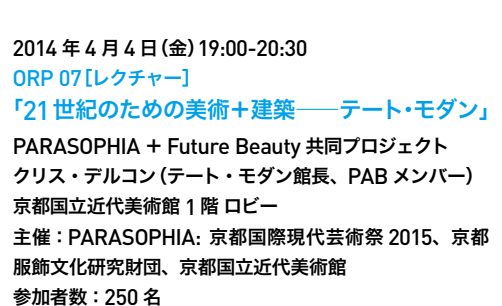
ORP 06 / プレイベント AP [物語生成]

「《時間の抵抗》へ寄せて」

円城塔(小説家)

プレイベント スタディールーム(元・立誠小学校)

参加者数: 41名



2014年4月4日(金) 19:00-20:30

ORP 07 [レクチャー]

「21世紀のための美術+建築——テート・モダン」

PARASOPHIA + Future Beauty 共同プロジェクト

クリス・テルコン(テート・モダン館長、PAB メンバー)

京都国立近代美術館 1階 ロビー

主催: PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015、京都

服飾文化研究財団、京都国立近代美術館

参加者数: 250名



2014年4月20日(日) 19:00-20:30

ORP 08 [レクチャー]

「You Are Not Alone」

スーザン・フィリップス (PARASOPHIA 参加作家)

京都芸術センター フリースペース

共催：京都芸術センター

参加者数：92名

2014年4月29日(火・祝) 19:00-20:30

ORP 09 [レクチャー]

ピロロティ・リスト (PARASOPHIA 参加作家)

京都国立近代美術館 1階 ロビー

協力：京都国立近代美術館

参加者数：200名



2014年7月19日(土) 17:00-19:00

ORP 10-1 [連続レクチャー]

「全体タイトルは思案中」

第1回「開いて閉じる、閉じて開く、開いて折りたたむ、折りたたんで開く：日本の近現代美術について (の2時間のレクチャー)」

眞島竜男 (PARASOPHIA 参加作家)

flowing KARASUMA

協力：株式会社長谷ビル、TARO NASU

参加者数：66名



2014年9月21日(日) 17:00-19:00

ORP 10-2 [連続レクチャー]

「全体タイトルは思案中」

第2回「その公共性は誰のものなのか？：美術館、国際展、現代美術、アートについて (の2時間のレクチャー)」

眞島竜男 (PARASOPHIA 参加作家)

flowing KARASUMA

協力：株式会社長谷ビル、TARO NASU

参加者数：35名

2014年9月30日(火) 18:00-20:00

ORP 11 [レクチャー]

アン・リスレゴ (PARASOPHIA 参加作家)

国際交流基金(東京) 2階 JFIC ホール[さくら]

共催：国際交流基金

参加者数：40名



2014年11月19日(水) 15:00-16:30

ORP 12 [レクチャー]

ルイズ・ローラー (美術家)

京都国立近代美術館 講堂

共催：京都国立近代美術館

参加者数：70名

2014年11月19日(水) 17:00-19:00

ORP 10-3 [連続レクチャー]

「全体タイトルは思案中」

第3回「『ぶんてんてんてんかいそていんしんぶんてん につてーん(仮)』、『北京日記』、『鶴沼相撲・京都ボクシング』、『日本近代美術／楽しみ国土』：眞島竜男の作品について (の2時間のプレゼンテーション)」

眞島竜男 (PARASOPHIA 参加作家)

京都府京都文化博物館 別館

協力：TARO NASU

参加者数：45名

2014年12月23日(火・祝) 17:30-19:30

ORP 13 [ワークショップ]

「《Dancers of the Millions》(仮称)」

王虹凱 (PARASOPHIA 参加作家)

京都芸術センター フリースペース

共催：京都芸術センター

参加者数：60名



2015年1月17日(土) 17:00-19:00

ORP 10-4 [連続レクチャー]

「全体タイトルは思案中」

第4回「重なった土／飛び出した土：京都、PARASOPHIA、岸田劉生、満洲について (の2時間のダイアグラム)」

眞島竜男 (PARASOPHIA 参加作家)

京都精華大学 清風館 101

共催：京都精華大学

参加者数：40名

2015年6月7日(日) 16:00-18:00

ORP 14 [ディレクターズトーク]

河本信治 (PARASOPHIA アーティストディレクター)

京都府京都文化博物館 別館 講義室

参加者数：131名



プライベート【作品展示】

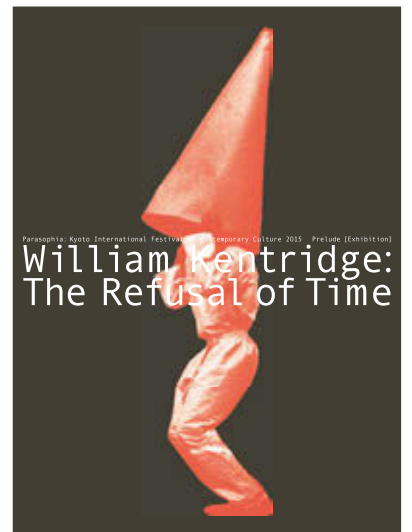
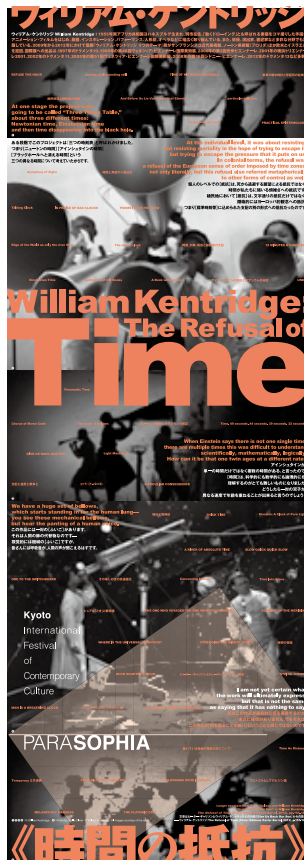
ウィリアム・ケントリッジ《時間の抵抗》

開催一年前のプライベートとして、南アフリカの美術家ウィリアム・ケントリッジの大規模映像インスタレーション作品《時間の抵抗》[原題: The Refusal of Time] (2012)の展示公開を行った。

ウィリアム・ケントリッジは、京都国立近代美術館他を巡回した大規模な個展の開催(2009-10)、第26回京都賞・思想・芸術部門の受賞(2010)など、京都と深い関係を持つ美術家である。5面スクリーンへの映像投影と多重音響、象徴的な運動機械を組み合わせた複雑な構成の本作品は、2012年のドクメンタ13(カッセル)に出品されて高い評価を受けたが、京都での展示はアジアでの初めての紹介となった。

《時間の抵抗》は、ハーバード大学の科学史家ピーター・ギャリソンとケントリッジとの時間を巡る対話から着想され、美しく俊敏な踊りで知られる南アフリカの女性ダンサー、ダダ・マシロとのワークショップの過程で生み出された作品。時間の意味を求める人間の飽くなき努力と人間に定義されることを拒むかのような時間の不思議さ、一方で人間が定義した時間の規則や拘束から逃れようと抗う人間、こうした両義性を内包するこの作品は、近代の普遍的で根源的な問題を執拗に検証し続けているケントリッジの、今の現在位置を明示する重要なマイルストーンだと言える。全部で6部制作された本作品は、ドクメンタ13で公開された直後に、そのほとんどが世界の有力美術館によって收藏されたが、エディション5/6は日本の石川コレクション(岡山)に收藏されることになり、今回の展示は所蔵者のご協力により実現することができた。





関連制作物：
 ポスター B3(ヨコ位置) (市政広報板用)、B2(タテ位置)
 チラシ A4(タテニツ折り 4p)、二色刷
 チケット、フォルダー

本展には、32日間の会期中に延べ6千人近く(リピーターを含む)の入場者があった。リピーターも多く、また作品の30分の再生時間に対し、複数回観覧された方も多かった。来場者の感想やインターネット上での反響から、作品自体の力を強く感じたイベントとなった。作家自身のレクチャーでは、構想や制作の過程について、未発表の断片映像なども取り入れ、かつて俳優を目指したケントリッジならではのパフォーマンス性のある講演となった。会場の先斗町歌舞練場には、予想を大きく上回る600人近くの参加者があった。初めてパブリックプログラムを計画し、サポートスタッフの研修やミーティング、5つのアクセスプログラム、12名の教職員が参加したティーチャーズプログラム、京都府と奈良県の10校の中学校・高校と児童館が参加したスクールプログラム、そして小学生を対象とし5組の家族が参加したファミリープログラムを実施した。

作品展示とは別に元・立誠小学校の1室を「スタディールーム」とし、イベントと芸術祭全体の理解への一助とするため、作家・作品の関連資料やアクセスプログラムの講師の関連資料のほか、PARASOPHIAに関する資料も配架・配布した。また作品へのコメント、展示作品クレジット、PARASOPHIAの解説等を掲載した紙製フォルダーを作成し無料配布した。

イベントとパブリックプログラムの運営面では、37名のサポートスタッフが主力となり、レクチャーでは、同志社大学から4名の学生の誘導協力、作品の設営と撤収、会期中の各種イベントなどにおける写真と映像による記録には、京都精華大学と京都造形芸術大学から8名の学生の協力を得た。

イベント [作品展示] ウィリアム・ケントリッジ《時間の抵抗》

会期：2014年2月8日(土)~3月16日(日)

会場：元・立誠小学校 講堂

主催：京都国際現代芸術祭組織委員会、一般社団法人京都経済同友会、京都府、京都市

後援：公益財団法人稲盛財団、国際交流基金

特別協力：石川コレクション(岡山)

協力：京都工芸繊維大学、京都市立芸術大学、京都精華大学、京都造形芸術大学

助成：公益財団法人野村財団

認定：公益社団法人企業メセナ協議会

作品展示

制作・技術・展示：ギャヴァン・エックハート、ヨナス・ルンドクイスト、サビーン・トゥーニセン、

株式会社伏見工芸、株式会社教映社、ヤマトロジスティクス株式会社

制作アシスタント：花田康史、技術アシスタント：中谷可惟

キュレトリアルアシスタント：橋本柚香

協力：立誠・文化のまち運営委員会、京都府立大学生命環境学部砂防学研究室、

先斗町歌舞練場、立誠・シネマ・プロジェクト、京都国立近代美術館

入場料：

一般 500(400)円、大学生 300(200)円

* ()内は前売り・20名以上の団体料金

*高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方、70歳以上の方は無料

入場者数

有料入場者				無料入場者							入場者計	スタ ディ ール ーム	合計
一般	学生	団体	計	招待券	高校生以下	70以上	障害	再入場	その他	計			
3,725	814	24	4,563	521	293	57	56	204	127	1,285	5,848	4,479	10,327

券売実績

売上数						売上金額					
一般	学生	団体一般	団体学生	同友会	計	一般	学生	団体一般	団体学生	同友会	計
3,542	798	3	21	1,294	5,658	1,771,000	239,400	1,200	4,200	517,600	2,533,400



関連イベント：ウィリアム・ケントリッジによるレクチャー

ウィリアム・ケントリッジ「宿命からの逃走——《時間の抵抗》について」
 講師：ウィリアム・ケントリッジ
 日時：2014年2月22日(土) 13:00-15:00
 会場：先斗町歌舞練場
 参加人数：568名

ウィリアム・ケントリッジ ウェルカムパーティ

日時：2014年2月22日(土) 18:00-19:30
 会場：flowing KARASUMA
 参加人数：112名

日本で最初のシネマトグラフ上映の場・立誠 リュミエール兄弟作品映像投影

日本で最初のシネマトグラフ上映の場・立誠で、映画史とも関連の深いウィリアム・ケントリッジ作品の展示にちなみ、シネマトグラフの初期作品の映像投影を実施。
 日時：2014年2月21日(金) 17:30～19:00
 場所：元・立誠小学校グラウンド



連携企画「立誠シネマ特別シアター上映」

2月15日-3月7日 『ウィリアム・ケントリッジの謎』

イベント アクセスプログラム

2月15日(土)
 イベント アクセスプログラム【映画技術史】
 森脇清隆「京都の映画——アートとエンターテインメントが交錯した時代」
 2月16日(日)
 オープンリサーチプログラム06 / イベント アクセスプログラム【物語生成】
 円城塔「《時間の抵抗》へ寄せて」
 3月1日(土)
 イベント アクセスプログラム【社会哲学】
 仲正昌樹「《芸術の時間》をめぐる哲学的考察——ハイデガー、ベンヤミン等の時間論の視点から、芸術における《時間経験》の意味について考える」
 3月8日(土)
 イベント アクセスプログラム【科学・物理学】
 佐藤文隆「時間をつくる」
 3月9日(日)
 イベント アクセスプログラム【美学・芸術学】
 吉岡洋「タイムマシン解体——空間化された時間・機械としての時間——」

その他のパブリックプログラム

2月8日(土)・9日(日)
 イベント ティーチーズプログラム
 2月8日(土)-3月16日(日)の期間内
 イベント スクールプログラム
 3月15日(土)
 イベント ファミリープログラム

イベントサポートスタッフの活動状況(一般公募)

- (1)活動期間 2014年2月8日-3月31日
- (2)登録者数 44名
- (3)事前研修 4回実施
- (4)活動内容
 - ①会場運営
 - ②関連イベントサポート
 - ③アクセスプログラム・スクールプログラムサポート



Parasophia Conversations

結論を求める討論や対話ではなく、あるテーマについてリラックスした空気の中で会話する、オープンリサーチプログラムの発展形のシリーズ。あるトピックから出発して予想外の方向へと進む会話を驚きとともに楽しみ、異なる意見の穏やかな共存を受け入れていくプログラムとなった。

2014年11月16日(日) 15:00-17:00

PC 01 アレクサンダー・ザルテン × 北野圭介

「21世紀のイメージ・トラフィックを考える」

アレクサンダー・ザルテン(ハーバード大学東アジア言語・文明学部准教授)、北野圭介(立命館大学映像学部教授、PAB メンバー)、バシ・ヴァリアホ(ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ)

京都芸術センター ミーティングルーム 2

共催: 京都芸術センター

参加者数: 45名

2015年2月28日(金) 18:30-20:30

PC 02 / PARASOPHIA カウントダウン 森村泰昌 × ドミニク・ゴンザレス = フォルステル

「合わせ鏡の対話」

森村泰昌 (PARASOPHIA 参加作家)

*ドミニク・ゴンザレス = フォルステル氏の体調不良により、森村泰昌氏によるトークとして開催。

京都府京都文化博物館 別館ホール

共催: アンスティチュ・フランセ関西

参加者数: 142名



2015年3月8日(日) 15:00-17:00

PC 03 / PARASOPHIA + Goethe Villa Kamogawa 共同プロジェクト

「美術館を超える展覧会は可能か」

アンドレアス・バイティン(ZKM 現代美術館館長/ドイツ)、ロジャー M. ビュルゲル(ヨハン・ヤコブ博物館館長/スイス、PAB メンバー)、高橋悟 (PARASOPHIA 参加作家、京都市立芸術大学美術学部教授)、河本信治 (PARASOPHIA アーティスティックディレクター)

司会: 神谷幸江(広島市現代美術館学芸担当課長、PAB メンバー)

ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

主催: ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川 / PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015

参加者数: 140名



2015年3月9日(月) 10:00-13:00

PC 04 [ワークショップ]

「百万人の踊り手」

王虹凱 (PARASOPHIA 参加作家) ほか

PARASOPHIA ルーム (京都市美術館)

参加者数: 13名

2015年3月9日(月) 18:00-19:30

PC 05 / PARASOPHIA+ 国際交流基金 共同プロジェクト [トークイベント]

眞島竜男 (PARASOPHIA 参加作家)、[国際交流基金招聘キュレーター] シェリル・フルトバン (ノートン美術館キュレーター/ディレクター)、ルドルフ・フリーリング (サンフランシスコ近代美術館キュレーター)、レベッカ・モース (ロサンゼルス・カウンティ美術館アソシエイトキュレーター)、バーバラ・ペリア (インディペンデントキュレーター)、マガリ・アリオラ (フメックス財団現代美術館キュレーター)、パウロ・ミヤダ (インスティテュート・トミエ・オオタケ キュレーター)

モデレーター: 遠藤水城 (インディペンデント・キュレーター)

京都芸術センター ミーティングルーム 2

主催: PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015、国際交流基金

参加者数: 30名

2015年5月6日(水) 16:30-18:30

PC 06 セクララを読む人 (番場俊、北野圭介、佐藤守弘、前川修)

「セクララを読む人 III——イメージの唯物論(について考える)」

番場俊 (新潟大学教授)、北野圭介 (立命館大学映像学部教授、PAB メンバー)、佐藤守弘 (京都精華大学デザイン学部教授、PAB メンバー)、前川修 (神戸大学教授)

PARASOPHIA ルーム (京都市美術館)

参加者数: 56名

2015年6月26日(金) 18:00 - 19:30

PC 07 森口邦彦 + 樂吉左衛門

「継承と伝達 II」

森口邦彦 (染織家・人間国宝、PAB メンバー)、樂吉左衛門 (陶芸家、樂家十五代当主)

聞き手: 河本信治 (PARASOPHIA アーティスティックディレクター)

京都国立近代美術館 1階ロビー

共催: 京都国立近代美術館、ヴィラ九条山

参加者数: 81名



* PAB = プロフェッショナルアドバイザーボード

アクセスプログラム

作品に対する思索を深める、あるいは PARASOPHIA の方向性をより鮮明に紹介して考え方を共有するためのレクチャーやギャラリートークなどをはじめ、作品や作家に対して様々な方法でアプローチするプログラムを提供した。

2014年2月15日(土) 15:00-16:30

イベント AP [映画技術史]

「京都の映画——アートとエンターテインメントが交錯した時代」

森脇清隆 (京都府京都文化博物館学芸課映像・情報室長、PAB メンバー)

イベント スタディールーム (元・立誠小学校)

参加者数：30名

2014年2月16日(日) 15:00-16:30

ORP 06/ イベント AP [物語生成]

「『時間の抵抗』へ寄せて」

円城塔 (小説家)

イベント スタディールーム (元・立誠小学校)

参加者数：41名

2014年3月1日(土) 15:00-16:30

イベント AP [社会哲学]

「〈芸術の時間〉をめぐる哲学的考察——ハイデガー、ベンヤミン等の時間論の視点から、芸術における〈時間経験〉の意味について考える」

仲正昌樹 (金沢大学大学院人間社会環境研究科教授)

イベント スタディールーム (元・立誠小学校)

参加者数：33名

2014年3月8日(土) 15:00-16:30

イベント AP [科学・物理学]

「時間をつくる」

佐藤文隆 (甲南大学特別客員教授、京都大学名誉教授)

イベント スタディールーム (元・立誠小学校)

参加者数：38名



2014年3月9日(日) 17:00-18:30

イベント AP [美学・芸術学]

「タイムマシン解体——空間化された時間・機械としての時間——」

吉岡洋 (京都大学大学院文学研究科美学美術史学教授、PAB メンバー)

イベント スタディールーム (元・立誠小学校)

参加者数：41名



2014年4月18日(金) 18:00-21:00

AP [勉強会]

石橋義正 (PARASOPHIA 参加作家)

第1部：京都芸術センター

第2部：flowing KARASUMA

参加者数：計81名

2014年4月29日(火・祝) 14:00-15:00、16:00-17:00

AP [ギャラリートーク]

私的防災計画：ピピロッチェ・リストの作品を中心に

牧口千夏 (京都国立近代美術館研究員)

京都国立近代美術館

協力：京都国立近代美術館

参加者数：計40名

2014年10月5日(日) 15:30-17:00

AP in 横浜 [横浜トライアル CASE-3]

森村泰昌 × 河本信治「Still Moving：漂流」

森村泰昌 (美術家、ヨコハマトリエンナーレ 2014 アーティストディレクター)、河本信治 (PARASOPHIA アーティストディレクター)、高橋悟 (京都市立芸術大学美術学部教授)

ヨコハマトリエンナーレ 2014 会場内(横浜美術館) (横浜)

主催：PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015、Temporary Foundation

参加者数：50名

2015年1月30日(金) 18:00-19:30

AP [レクチャー]

「〈いま〉が始まるとき」

ロジャー M. ビュルゲル (ヨハン・ヤコブ博物館館長、PAB メンバー)

京都府京都文化博物館 別館 講義室

参加者数：80名



2015年2月5日(木) 18:00-19:30

AP [レクチャー]

クリスチャン・メルリオ (ヴィラ九条山館長)

京都芸術センター 和室「明倫」

参加者数：31名



コミュニティプログラム

地域住民の方々に現代美術への関心を持っていただくきっかけ作りと、「コミュニティ」についての新たな視点を提供することを目的として、市中の展示会場の一つである堀川団地周辺を会場としたプログラムを実施。

2014年7月5日(土) 14:00-15:30

コミュニティプログラム [トークセッション]

笹本晃 × ミヤギフトシ + 小山田徹 / 徳山拓一

笹本晃 (PARASOPHIA 参加作家)、ミヤギフトシ (美術家)、小山田徹 (美術家、京都市立芸術大学教授)、徳山拓一 (京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 学芸員)

元・西陣小学校

共催：京都市立芸術大学

参加者数：71名



2015年4月10日(金) 17:00-18:30

AP [植物分類学]

萩巣樹徳 (ナチュラリスト)

聞き手：椿昇 (京都造形芸術大学教授、PAB メンバー)、牧口千夏 (京都国立近代美術館主任研究員、PAB メンバー)

京都市美術館 アナ・トーフ《ファミリー・プロット》展示室内

参加者数：22名

2015年4月15日(水) 14:30-16:30

AP/ ラディカル・ダイアログ [現代美術と公案]

古川周賢 (臨濟宗妙心寺派恵林寺住職)

聞き手：椿昇 (京都造形芸術大学教授、PAB メンバー)

PARASOPHIA ルーム (京都市美術館)

参加者数：40名



2015年4月16日(木) 14:00-16:00

AP/ ラディカル・ダイアログ [7回目のマラリア]

小川さやか (文化人類学者、立命館大学大学院先端総合学術研究科准教授)

聞き手：椿昇 (京都造形芸術大学教授、PAB メンバー)

PARASOPHIA ルーム (京都市美術館)

参加者数：28名

2015年4月28日(火) 14:00-16:00

AP/ ラディカル・ダイアログ [人類進化の謎]

遠藤秀紀 (東京大学総合研究博物館教授)

聞き手：椿昇 (京都造形芸術大学教授、PAB メンバー)

PARASOPHIA ルーム (京都市美術館)

参加者数：38名

蔡國強 「子どもダ・ヴィンチ」プロジェクト

蔡國強の作品「京都ダ・ヴィンチ」の要素の一つである「子どもダ・ヴィンチ」のワークショップを、2014年秋から PARASOPHIA 会期中にかけて開催した。子どもたちが身の回りにある材料を使って自由に作品を制作し、作った作品は京都市美術館の大陳列室に現れた竹の塔（パゴダ）に展示された。なお、ワークショップの運営には、制作助手と呼ばれる専任のスタッフが関わり、子どもたちの創作をサポートした。

総作品数：643点

対象年齢：5歳から10歳（小学校4年生まで）

後援：公益社団法人京都市児童館学童連盟、公益社団法人京都市保育園連盟



2014年8月24日(日)

制作助手のためのワークショップ

講師：辰巳昌利(Cai Studio テクニカルディレクター)、河本信治(PARASOPHIA アーティスティックディレクター)

京都芸術センター

参加者数：22名

「子どもダ・ヴィンチ」ワークショップ

2014年9月20日(土)

京都芸術センター

参加者数：20名

2014年10月11日(土)

京都芸術センター

参加者数：20名

2014年10月25日(土)

京都芸術センター

参加者数：30名

2014年11月18日(火)

社会福祉法人西京極保育福祉会 おいけあした保育園(京都市中京区)

参加者数：15名

2014年11月23日(土)

京都芸術センター

参加者数：22名

2014年12月17日(水)

社会福祉法人西京極保育福祉会 おいけあした保育園(京都市中京区)

参加者数：15名

2015年1月14日(水)

社会福祉法人京都社会福祉協会 御室保育園(京都市右京区)

参加者数：21名

2015年1月17日(土)

社会福祉法人すみれ会 西院保育園(京都市右京区)

参加者数：11名



2015年2月17日(火)

社会福祉法人西京極保育福祉会 西京極保育園(京都市右京区)

参加者数：20名

2015年2月20日(火)

京都市立西総合支援学校(京都市西京区)

参加者数：5名

2015年3月5日(木)

京都市美術館 大陳列室

参加者数：7名(京都市立白河総合支援学校、京都市立西総合支援学校の生徒)

2015年3月6日(金) PARASOPHIA カウントダウン

京都市美術館 大陳列室

参加者数：32名(社会福祉法人西京極保育福祉会 おいけあした保育園の園児)

PARASOPHIA 会期中のワークショップ開催日

会場：京都市美術館 大陳列室

3月14日(土) 12名、3月15日(日) 15名、3月21日(土・祝) 18名、3月22日(日) 25名、3月28日(土) 14名、3月29日(日) 13名、4月4日(土) 18名、4月5日(日) 18名、4月11日(土) 17名、4月12日(日) 32名、4月18日(土) 47名、4月19日(日) 19名、4月25日(土) 40名、4月26日(日) 43名、5月2日(土) 29名、5月3日(日・祝) 21名、5月5日(火・祝) 25名



2015年5月16日(土)

作品返却会

京都市美術館 大陳列室

スクールプログラム、ファミリープログラム

[スクールプログラム]

学校団体向けを対象とし、レクチャーやスタッフとの対話等を通じて作品を鑑賞するプログラムを開催した。会期中はアーティストックディレクターやキュレーターによるレクチャーをはじめ、サポートスタッフによるシェルパツアーを実施。このプログラムをきっかけに、参加者自身が自ら何度も会場に足を運ぶケースも多数見受けられた。

プレイベント期間中：2014年2月8日-3月16日

会場：元・立誠小学校

PARASOPHIA 期間中：2015年3月7日-5月10日

会場：京都市美術館、京都府京都文化博物館ほか



日程	対象	参加者数(人)	備考	
2014年	2月8日(土)9日(日)	ティーチャーズプログラム	12	レクチャー：河本信治
	2月20日(木)	大阪成蹊大学 情報デザイン学科 松尾恵ゼミ	16	
	2月22日(土)	京都市立銅駝美術工芸高等学校(京都市中京区)	47	*プレイベント関連イベントへの参加
	3月1日(土)	京都市立安祥寺中学校 美術部(京都市山科区)	10	
	3月8日(土)	奈良女子大学附属中等教育学校(奈良県奈良市)他	20	
	3月14日(金)	京都府立亀岡高等学校 普通科第III類芸術系(京都府亀岡市)	70	
	3月14日(金)	京都府立洛西高等学校 美術部(京都市西京区)	3	
	3月15日(土)	京都市四ノ宮児童館(京都市山科区)	31	
	3月15日(土)	京都府立網野高等学校	22	
		京都府立峰山高等学校(京都府京丹後市)		
		京都府立加悦谷高等学校(京都府与謝郡)		
		京都府立宮津高等学校(京都府宮津市)		
2015年	3月28日(土)	京都府立桃山高等学校(京都市伏見区)	6	
	4月4日(土)	京都府立宮津高等学校 美術部(京都府与謝郡)	8	シェルパツアー
	4月10日(金)	同志社大学現代芸術論I	23	
	4月14日(火)	同志社大学 佐々木ゼミ	23	
	4月14日(火)	同志社大学 越前ゼミ	20	
	4月15日(水)	京都市立銅駝美術工芸高等学校 日本画専攻(京都市中京区)	26	
	4月15日(水)	京都府立城南菱創高校 美術部(京都府宇治市)	9	シェルパツアー
	4月17日(金)	京都市立銅駝美術工芸高等学校(京都市中京区)	127	レクチャー：河本信治、中谷至宏
	4月18日(土)	京都市四ノ宮児童館(京都市山科区)	21	
	4月18日(土)	京都府立鳥羽高等学校 美術部(京都市南区)	10	シェルパツアー
	4月18日(土)	愛知県立芸術大学(愛知県長久手市)	13	
	4月22日(水)	京都文教高等学校 美術部(京都市左京区)	20	
	4月22日(水)	甲南高等学校(兵庫県芦屋市)	80	
	4月22日(水)	京都市立銅駝美術工芸高等学校 漆芸専攻(京都市中京区)	14	
	4月24日(金)	京都造形芸術大学 美術工芸学科(京都市左京区)154	154	
	4月24日(金)	大阪市立工芸高校(大阪府大阪市)	290	
	4月25日(土)	同志社大学 越前ゼミ	23	
	4月29日(水・祝)	京都市立西京高等学校(京都市中京区)	56	
	4月29日(水・祝)	京都府立城南菱創高校 美術部(京都府宇治市)	9	シェルパツアー
	4月29日(水・祝)	京都府立嵯峨野高等学校 美術部(京都市右京区)	18	シェルパツアー
	4月29日(水・祝)	京都市立伏見中学校(京都市伏見区)	10	
	4月29日(水・祝)	京都市立嵯峨野中学校(京都市右京区)	16	
	4月30日(木)	京都造形芸術大学 博物館学(京都市左京区)	38	レクチャー：河本信治
	4月30日(木)	京都造形芸術大学 環境デザイン学科(京都市左京区)	40	レクチャー：河本信治
	5月5日(火・祝)	京都造形芸術大学 アートプロデュース学科(京都市左京区)	20	
	5月6日(水・祝)	奈良大学附属高等学校(奈良県奈良市)	18	レクチャー：中谷至宏
	5月7日(木)	大阪成蹊大学(大阪府大阪市)	26	レクチャー：中谷至宏
	5月7日(木)	京都文教短期大学付属小学校(京都市左京区)	30	シェルパツアー
	5月9日(土)	奈良芸術短期大学(奈良県橿原市)	34	

スクールプログラム参加者(高校生)の感想(一部抜粋)

- ・案内してくれた人がわかりやすくいろんなことを教えてくれたので作品を見てとても楽しかった。
- ・「CAFÉ LITTLE BOY」 いろんな人の思いが詰まってる一つの作品になっていたことに感動した。
- ・ウィリアム・セントリッジ作品、辞書に描くというアイデアが素晴らしい。
- ・アン・リスレーのフクロウのリアルさ
- ・裁判所を再現していた真っ白な部屋、壁一面の鏡を見るのが怖かった。本当の自分は何なのか考えさせられる
- ・石橋義正さんの作品は一番印象に残っている
- ・気に入った作品「石橋義正」暗い空間に女の人が便座に座って映画をみている～リアルでストーリー性がある
- ・気に入った作品「アン・リスレー」フクロウの動きや発する声が生理的に受け付けられないがもっと見てみたいと思う。
- ・学芸員の方の説明があって、意味の分かる作品が多くて、自分で理解できるようになってみたいと思った。
- ・ウィリアム・セントリッジ作品「セカンドハンド・リーディング」辞書に描かれた人物が目の前で本当に歩いたり走ったりしているような「生きた感じ」がした。物が人にならったり、違う人物、場面にならっていく様子もバラバラ漫画の手法ならでは表現だし、もやがかかったような場面転換の表現には時代や場所や人の記憶の変化を感じた。A～Zで終わる辞書に描かれたこと自体に「終わり」を表す意味がある。
- ・アリン・ルンジャンの「Golden Teardrop」は丁寧に配置された金の滴が美しく、滴といえば本来下に垂れ落ちて行くものであって、それがつかず動かずに空間に並んで存在しつづけることでその場の時が静止したような感覚になった。
- ・アナ・トーフの「ファミリープロット」は当時世界を手に入れようとした人物の「その名を残し、世の中を自分のものにしたい」という意思が秘められた人名が由来の植物とその人物についてが細かく調査されていて、25個の歴史が一直線に並べられていて美しかった。
- ・ジャン・リュック・ヴィルムートの「CAFÉ LITTLE BOY」自分一人で作品を描き上げるのではなく、美術館に訪れた人々みんなで創るという作品もあるんだ、と思った。色んな人が描きこむからこそ世界が広がるし、作品に味が出ると思う。また、この作品は原爆の時黒板に各々の生息に関する伝言を書いたことを表現しているのと知ってとても驚いた。誰かに自分の声を伝えるということがどんなに大切だったかをこの作品を通じて知れたような気がする。普段何気なくつかっているものだからこそ余計に当時の現状や人々の想いを感じる事ができた。
- ・倉智敬子+高橋橋 まず法廷に入ったことが初めてで、裁判で証言台に立ち尋問される被告人の気分を味わえた。裁判は悪をさばくためのもの。ろやの向こうに鏡があり、改めて自分自身を見つめ直すことができる。何が真実か？何が善で何が悪か？自分は正しいと言い切れるか？あの空間にいて、そんな疑問がわいてきた。そして、ついお前はここがダメだ、と他人を批判してしまいがちだが、常にあのろやの鏡のように自分をみつめて行かなければいけないんだと思った。
- ・全体の感想 私は美術館に入るのが初めてで、平面の絵を鑑賞するだけのものだと思っていた。けど実際は全然そんなことなく、一室の空間を使って表現していたり、映像の方が多くてとても驚いた。そして多くの作品は当時の社会や歴史的なものだと知った。芸術とかアートって色彩が美しいとか、技法とか絵のタッチがいいとか、そういうものが全くわからなくてとても難しいと思っていたけど、絵についての知識がなくても楽しめた。自分の作るものに他の大きな意味をこめて相手に伝える、ということこそ芸術でなくても必要だと思ったし、私も自分の料理やパンにそんな意味を込められたいなと思った。
- ・私は、2つに入ったものがある、1つは広島に原爆が投下された時間で、とまっているけど、秒針だけがうごいている時計があったり、壁にいろんな人がチョークで描いたり、みんなが手を加えることで、完成されていく作品です。色々な人の様々な想いが1つ1つに籠っていると感じ、感慨深いモノがありました。2つ目は、昔に働いていた人の好きな仕事音のようなものを、ひたすら映像とともに流してある作品です。動きのある映像ではありませんでしたが、なぜか引き込まれました。私は廃墟が好きなので、映像の中の工場が古びている感じに、テンションが上がりました。それと似たような感覚で、地下にあった作品にも、すごく興味をひかれました。真っ暗の中ひたすら廻っている光が、音と共に響き渡っている様子がすごく好きです。

- ・訪れる前からウィリアム・セントリッジの作品を楽しみにしていた。作品の画像からでも辞書に直接描かれている事が分かり、とても興味が惹かれたけれど、説明を受けてアハルトヘイトなどの話がでてきて、ただカッコいいとだけ印象をもっていた自分の中の気持ちが変わった。本の中でも辞書に絵を描くのは、斬新な発想だと感じた。
- ・アリン・ルンジャンの金の雫の作品と地下にある暗い部屋に光で円を描く作品は、ずっと見ていて飽きない、誰も立ち止まって見入ってしまう作品だと思った。
- ・いろいろな傘を集めて作られていた部屋では、「いろいろなものをつかって1つの作品を作り上げる」ということを考えさせられた。世の中にはいろいろなモノがたくさん溢れているので、そういうモノを使って作品を作るという経験をしてみたい。
- ・カフェ・リトルボーイは鑑賞者が作品に携わることができ、国や街のそれぞれの人々の感じ方によって、様々な作品が出来上がっていくところが印象的。
- ・美術といえば絵画や彫刻などが思い浮かぶけれど、今回見た物は絵画や彫刻とは違い、映像や音、イメージやアイデアなど、昔にはなかった物によって構成された、まさに現代芸術だった。現代は技術の発展によって色々な物が開発され、それに伴って芸術の表現方法が変わってきて、特に映像を使った作品が多くなってきたと思う。作品の背景には歴史や文化などが含まれ、歴史的知識があれば、より深く作品を理解することができると思った。
- ・美術というものの定義や深さについて改めて考えさせられた。思想や制作の自由が広がる現代において、作者の意図がどこに入るのかというのはとても興味深いことだと思う。映像作品が多かったことからそう感じた。
- ・普段、美術館や博物館によく行くが、現代美術は久しく行けていなかったのも、とても新鮮な気持ちで見ることができた。私は映像デザインを勉強しているのも、そのこと関連のブースが印象に残っていて、特に素晴らしい美術史という作品が分かりやすいけど、見ていくと色んな世界観があるようでとても面白かった。現代美術はおもしろくて、私だったらこんな事は思いつかないと思う作品がたくさんあった。
- ・絵画や彫刻だけが美術、芸術だと思っていたので、今回たくさん作品を見た事で根本からその考えが変わった。作品も題名も曖昧で見た人によって感じ方がすごく変わると思った。また、映像も彫刻も絵画も、作ったら終わり、描いたら終わりではなく、第3者にみてもらい、様々な想像をめぐらせる事で初めて作品は「完成」するのではないかと考えた。もっとたくさん人の作品を見て考えたいと思う。
- ・裏向きで置いてあったり、撮った場面など個性に溢れていた。明確なものもなく、謎で溢れておりたくさん考える機会が得られて良かった。ロボットが動いているのを見るのが楽しかった。自分個人の好きな展示物は「憧れのポディー」で人の一生を作品にしている興味深いものだった。女の人のマネキンがトイレに座っているのを見て、人生に悩んでいるのかと思った。読書スペースに置いてある本の机やイスが心地良かった。展示物だけでなく建物も一つの芸術品であったのが良かった。このパラソフィアをまわるだけでも、京都の街中が芸術になっていたのが会場がたくさんあるのが良い思いつきであると感じた。
- ・パラソフィアでは全体的に、暗い怖いという印象を受けた。怖いのはあまり好きじゃない。でも、この怖さはなぜか私を引き込んでいき、ついつい一つの作品を見る時間が長くなり後半はあまりじっくり見る事ができなかった。一つ一つにもすごいインパクト、個性があり、自分かとても好きな作家があれば、好きではない作家もいて、あまり好きではない作家も自分の新しい刺激になった。それで、自分達が入り込める空間とか美術館だけ遊園地みたいなところも面白かった。展示の仕方は作家毎に空間が切られていて見やすかったし、普段は入れない地下にも入れたのが嬉しかった。普段行く美術館とはまったく違いましたが、こちらも楽しかった。
- ・正直言ってすごく難しかった。すごい良かったし、印象に残っている作品も多々あるけど、理解できたかどうかと言えば出来ていない。すごくもったいないことだと思う。私にもう少し美術の関心と理解が身に付いたら、もう一度位は見たいと思った。現代アートは好きという気持ちだけではだめなのだろうな。食品サンプル「かき」や「理想のポディー」という作品に見入ってしまった。本能的に好きだと思っただけで理解はできてないけど。あと一番最初に見たガシヤンガシヤンうるさいねこのロボットも好き。かわいいと思った。

[ファミリープログラム]

イベント開催に合わせ、家族で作品を楽しむきっかけ作りとして実施。映像を介した遊びを体験しながら、セントリッジの作品に込められた時間への思索に関心を導く仕掛けを試行した。

2014年3月15日(土)

参加者数：15名

イベント ファミリープログラム：イベント会場内、スタディールームほか(元・立誠小学校)



主催イベント

PARASOPHIA は準備期間の2年間を通じて参加作家のほとんどを京都に招聘した。オープンリサーチプログラムをはじめとして、作家によるレクチャーやパフォーマンスを多数実施し、その過程を多くの方々と共有していった。会期中にも数多くのイベントが実施され、イベント自体が作品となるものを含め、動的な芸術祭の空間が生まみ出された。組織委員会主催のイベントに加え、諸機関・諸団体との共同主催のイベントも数多く実施された。

2014年7月5日(土) 18:00-18:30

【パフォーマンス】「Skewed Lies」

笹本晃 (PARASOPHIA 参加作家)

堀川団地 上長者町棟

参加者数：35名

2015年3月3日(火)、3月4日(水) 13:00-15:00

【ワークショップ】PARASOPHIA カウントダウン「カフェ・リトル・ボーイ」

ジャン＝リュック・ヴィルムート (PARASOPHIA 参加作家)

京都市美術館 展示室内

参加者数：20名

2015年3月6日(金) 17:30-18:00

**【パフォーマンス】PARASOPHIA カウントダウン / やなぎみわステージ
トレーラープロジェクト「オープニング・ボールダンスショー」**

mecav KOTOBUKI (ボールダンス)、ERIKA RELAX (ボールダンス)

二条城駐車場 (京都市中京区)

参加者数：250名

2015年3月7日(土) 11:00-12:00

【レクチャー】サイモン・フジワラ (PARASOPHIA 参加作家)

京都市美術館 PARASOPHIA ルーム

参加者数：95名

2015年3月7日(土) 13:00-14:30

【ワークショップ】「花火風を上げる」

蔡國強 (PARASOPHIA 参加作家)

京都府立植物園 (京都市左京区)

参加者数：40名

2015年3月7日(土) 14:00-16:00

【レクチャー】倉智敬子+高橋悟 Case of A/Being part-1「イリュージョン：認知と身体のリアルティ」

下條信輔 (カリフォルニア工科大学教授)、高橋悟 (PARASOPHIA 参加作家)

京都市美術館 PARASOPHIA ルーム

参加者数：78名

2015年3月13日(金) 14:00-15:30

【レクチャー & ギャラリーツアー】プラント・ジュンソー (PARASOPHIA 参加作家)

京都市美術館 PARASOPHIA ルームおよび展示室

参加者数：41名

2015年3月19日(木)、3月20日(金)、3月21日(土・祝)、3月22日(日) 18:00-18:30

【パフォーマンス】「ラストコール、誤りハッピーアワー」

笹本晃 (PARASOPHIA 参加作家)

堀川団地 上長者町棟

参加者数：143名

2015年3月29日(日) 13:00-13:15

【レクチャー】「一つのコンテンポラリー / 一つのコンプリシティー (共犯):

2015.03.29.13:00-13:15」

眞島竜男 (PARASOPHIA 参加作家)

京都市美術館 PARASOPHIA ルーム

参加者数：35名

2015年4月4日(土) 13:00-13:15

【レクチャー】「一つのコンテンポラリー / 一つのコンプリシティー (共犯):

2015.04.04.13:00-13:15」

眞島竜男 (PARASOPHIA 参加作家)

京都市美術館 PARASOPHIA ルーム

参加者数：23名

2015年4月5日(日) 13:00-13:15

【レクチャー】「一つのコンテンポラリー / 一つのコンプリシティー (共犯):

2015.04.05.13:00-13:15」

眞島竜男 (PARASOPHIA 参加作家)

京都市美術館 PARASOPHIA ルーム

参加者数：20名

2015年4月11日(土) 16:00-17:30

【レクチャー】「制度の中の美学 / 美学の中の制度—近代京都からの考察」

笠原恵実子 (PARASOPHIA 参加作家)

京都市美術館 PARASOPHIA ルーム

参加者数：66名



2015年4月12日(日)〈第1部〉13:00-14:30 〈第2部〉14:45-16:00
[レクチャー] 倉智敬子+高橋悟 Case of A/Being part-2「おまかせ民主主義からの脱却」

〈第1部〉講演
上野千鶴子(東京大学名誉教授)
京都市美術館 PARASOPHIA ルーム
〈第2部〉オープンディスカッション「上野千鶴子+一般参加の方々」
上野千鶴子
進行: 倉智敬子+高橋悟(PARASOPHIA 参加作家)
倉智敬子+高橋悟《装飾と犯罪—Sense/Common》展示室内
参加者数: 209名

2015年4月14日(火) 13:00-17:00
[ツアー] 「近代京都のフィールドワーク」

木立雅朗(立命館大学文学部教授 考古学・文化遺産専攻)
PARASOPHIA ルームおよび展示室にてショートレクチャー後、五条坂京焼登り釜(旧藤平)とその周辺をツアー
参加者数: 15名

2015年4月25日(土) 14:00-15:30
[座談会] 「四ヶ月後、《一時的なスタディ: ワークショップ #1》への参加をめぐって」

東完治、河原夏椰、大久保朱音、高田悠介、武内もも、田中志遠、田中功起
京都市美術館 PARASOPHIA ルーム
参加者数: 32名

2015年5月2日(土) 14:00-15:30
[ウォーキングツアー] 「岡崎公園と京都市美術館」

中谷至宏(PARASOPHIA キュレーター)
PARASOPHIA ルームにてショートレクチャー後、京都市美術館周辺をツアー
参加者数: 7名

2015年5月2日(土) 17:00-18:30
[レクチャー] 「近作について」

西沢立衛(建築家)
京都市美術館 PARASOPHIA ルーム
参加者数: 97名

2015年5月3日(日・祝) 〈第1部〉15:00- 〈第2部〉16:00-
[コンサート] 倉智敬子+高橋悟 Case of A/Being part-3「休日の憲法」

〈第1部〉Shing02×KURANAKA ライブ
京都市美術館 前庭
Shing02 (MC)、1945 a.k.a. KURANAKA (DJ)
〈第2部〉オープンディスカッション「Shing02+一般参加の方々」
Shing02
進行: 倉智敬子+高橋悟(PARASOPHIA 参加作家)
京都市美術館《装飾と犯罪—Sense/Common》展示室内
参加者数: 557名

2015年5月3日(日・祝) 18:00-21:00
[パフォーマンス] やなぎみわステージトレーラープロジェクト「舞台上・中上健次ナイト 2015」

出演(出演順): 細馬宏通(体操)、山田学(演奏と朗読)、長谷川健一 BAND(歌と演奏)、
いとうせいこう(ラップ)×船戸博史(ウッドベース)、mecav KOTOBUKI(ポールダンス)
トークイベント: いとうせいこう×細馬宏通×浅田彰
司会進行: やなぎみわ(PARASOPHIA 参加作家)
舞台監督: 粟津一郎/照明: 藤本隆行(Kinsei R&D) /音響: 岩谷啓士郎/企画: やなぎみわ
京都市美術館 前庭
協賛: 日本新薬株式会社
参加者数: 773名

2015年5月6日(水) 14:00-15:30
[レクチャー] 「テレビ番組を作る ～すイエんサーから論文捏造まで～」

村松秀(NHK チーフ・プロデューサー)
京都市美術館 PARASOPHIA ルーム
参加者数: 42名

2015年5月8日(金) 17:00-18:30
[レクチャー] リサ・アン・アワーバック(PARASOPHIA 参加作家)

京都市美術館 PARASOPHIA ルーム
参加者数: 52名

2015年5月9日(土) 14:00-15:30
[レクチャー] キュレーターズ・トーク「パラ・サイトについて」

中谷至宏(PARASOPHIA キュレーター)
京都市美術館 PARASOPHIA ルーム
参加者数: 36名



共催イベント

2014年10月4日(土)

ニュー・ブランシュ KYOTO 2014 / PARASOPHIA オープンオフィス

PARASOPHIA 事務局(京都市中京区)
主催:京都市、アンスティチュ・フランセ関西
参加者数:200名

2014年11月8日(土)14:45-16:45

表象文化論学会 第9回研究発表集会 企画パネル1
「アラン・セクーラ、写真とテキスト、イメージと地政学のあいだ」
前川修(神戸大学教授)、佐藤守弘(京都精華大学デザイン学部教授、PABメンバー)、北野圭介(立命館大学映像学部教授、PABメンバー)、番場俊(新潟大学准教授) 新潟大学(新潟)
主催:表象文化論学会
参加者数:100名

2014年11月9日(日)10:00-11:30

表象文化論学会 第9回研究発表集会 関連企画(トーク・セッション)
「アラン・セクーラ、写真とテキスト、イメージと地政学のあいだII」
河本信治(PARASOPHIA アーティストディレクター)、前川修(神戸大学教授)、佐藤守弘(京都精華大学デザイン学部教授、PABメンバー)、北野圭介(立命館大学映像学部教授、PABメンバー)
砂丘館(新潟)
主催:表象文化論学会
参加者数:100名

2014年11月27日(木)

平成26年度 ようこそアーティスト 文化芸術とくべつ授業「現代美術」
榎昇(現代美術家、PABメンバー)
京都市立向島藤の木小学校(京都市伏見区)
主催:京都市
参加者数:83名

2014年12月10日(水)

平成26年度 ようこそアーティスト 文化芸術とくべつ授業「現代美術」
榎昇(現代美術家、PABメンバー)
社会福祉法人京都社会福祉協会 竹の里保育園(京都市西京区)
主催:京都市
参加者数:35名

2015年2月28日(土) - 3月6日(金)

【上映企画】PARASOPHIA カウントダウン
会期直前カウントダウンイベント in 京都みなみ会館
京都みなみ会館(京都市南区)
主催:京都みなみ会館
協力:Ufer! Art Documentary、京都国立近代美術館
参加者数:116名

2015年3月7日(土)16:00 -

【トークイベント】展覧会ドラフト 2015 関連企画「対談① 王虹凱 x 川村麻純」
王虹凱(PARASOPHIA 参加作家)、川村麻純(展覧会ドラフト 2015 出品作家)
京都芸術センター
主催:京都芸術センター / PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 特別連携事業関連企画
参加者数:32名

2015年3月7日(土)12:00-13:00

【ツアー】「ヘフナー / ザックスによる崇仁ガイドツアー」
ヘフナー / ザックス(PARASOPHIA 参加作家)
河原町塩小路周辺(京都市下京区)
共催:京都市立芸術大学
参加者数:42名

2015年3月9日(月)15:30-17:00

【対談】やなぎみわステージトレーラープロジェクト 沈昭良(写真家)、やなぎみわ(PARASOPHIA 参加作家)
京都市美術館 PARASOPHIA ルーム
主催:やなぎみわステージトレーラープロジェクト
参加者数:37名

2015年3月14日(土)16:00 -

【トークイベント】展覧会ドラフト 2015 関連企画「対談② やなぎみわ x 川村麻純」
やなぎみわ(PARASOPHIA 参加作家)、川村麻純(展覧会ドラフト 2015 出品作家)
京都芸術センター
主催:京都芸術センター / PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 特別連携事業関連企画
参加者数:44名

2015年3月21日(土・祝)13:00-14:30

【レクチャー】笹本晃(PARASOPHIA 参加作家)
京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA(京都市中京区)
共催:京都市立芸術大学
参加者数:31名

2015年4月12日(日)〈第1部〉15:00-16:30 〈第2部〉

17:00-19:30
【野外上映会】やなぎみわステージトレーラープロジェクト
タデウシュ・カントル生誕100周年記念レクチャー&シンポジウムおよび野外上映
〈第1部〉レクチャー「タデウシュ・カントルの宇宙におけるオブジェ、マネキン、俳優たち」マウゴジャータ・ジェヴルスカ(演劇評論)
〈第2部〉シンポジウムと「死の教室」上映会
山根明季子(作曲家)、やなぎみわ、建島哲(元・京都市立芸術大学学長)、マウゴジャータ・ジェヴルスカ(演劇評論)、関口時正(東京外国語大学名誉教授)
司会:加須屋明子(京都市立芸術大学美術学部准教授)
*上映会はやなぎみわ『日輪の翼』上演のための移動舞台車)上で開催
主催:京都市立芸術大学
共催:PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015、ポランド広報文化センター
協力:Culture.pl(第2部)
参加者数:220名

2015年4月17日(土)14:00-15:30

Trans-it プログラム part-1 久門剛史(still moving アーティスト)
京都市美術館 PARASOPHIA ルーム
主催:still moving / PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 特別連携事業関連企画
参加者数:32名

2015年4月22日(水)14:00-15:30

Trans-it プログラム part-2 杉山雅之(still moving アーティスト)
京都市美術館 PARASOPHIA ルーム
主催:still moving / PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 特別連携事業関連企画
参加者数:36名

2015年4月23日(木)

【セミナー】
「継承と伝達: 生成的未来知にむけて」
森口邦彦(染織家・人間国宝、PABメンバー)、榎昇(京都造形芸術大学教授、PABメンバー)、橋本裕介(ロームシアター / KYOTO EXPERIMENT プログラムディレクター)、クリスチャン・メルリオ(ヴィラ九条山館長)、大江ゴティン純子(ヴィラ九条山特任館長) 進行:河本信治
参加者数:36名

2015年4月24日(金)13:00-14:30

Trans-it プログラム part-3 笠原恵実子(PARASOPHIA 参加作家)
元・崇仁小学校(京都市下京区)
主催:still moving / PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 特別連携事業関連企画
共催:京都市立芸術大学芸術資源研究センター
参加者数:30名

2015年4月25日(土)

FANTASTIC MARKET in PARASOPHIA
京都市美術館 前庭
主催:graf
参加者数:1,443名

2015年4月29日(水・祝)19:00-21:00

【パフォーマンス】やなぎみわステージトレーラープロジェクト
「舞台上・キャバレーナイト 2015」
演出:やなぎみわ
コスチュームデザイン:串野真也
出演:mecav KOTOBUKI(ポールダンス)、辻本佳(ポールダンス)、Canguero Tres Hoofers(タップダンス・演奏)、BAVAAL(火吹き)、三木万侑加(ピアノ)、黒木陽子(朗読)
舞台監督:粟津一郎 / 照明:藤本隆行(Kinsei R&D) / 音響:岩谷啓士郎
京都市美術館 前庭
主催:やなぎみわステージトレーラープロジェクト / 協力:アートスペース虹 / 協賛:日本新薬株式会社
参加者数:886名

2015年4月29日(水)14:00-15:30

Trans-it プログラム part-4 田中和人+増本泰斗(still moving アーティスト)
京都市美術館 PARASOPHIA ルーム
主催:still moving / PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 特別連携事業関連企画
参加者数:31名

2015年4月30日(木)14:00-15:30

Trans-it プログラム part-5 眞島竜男(PARASOPHIA 参加作家)
元・崇仁小学校(京都市下京区)
主催:still moving / PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 特別連携事業関連企画
参加者数:18名

2015年5月10日(日)13:00-14:15

Trans-it プログラム part-6 石橋義正(PARASOPHIA 参加作家)
崇仁地域周辺(京都市下京区)
主催:still moving / PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 特別連携事業関連企画
参加者数:86名

PARASOPHIA ルームでの 開催イベント

京都市美術館内の大陳列室（無料ゾーン）に隣接する多目的ルーム、PARASOPHIA の重層性を現実化する実験的な空間として計画した。

PARASOPHIA に関連する様々なレクチャーやワークショップ、フォーラムに対応するだけでなく、自主的なプログラムを計画する一般の方々にも事前申請によってこのスペースを無料で提供し、自分たちで考えたプログラムを自分たちの手で実現する空間として、多くの自主的な工夫と実践が行われた。

3月7日(土)
[レクチャー]
サイモン・フジワラ

3月7日(土)
[レクチャー]
倉智敬子+高橋悟 Case of A/Being part-1「イリュージョン：認知と身体のリアルティ」

3月8日(日) 貸し教室
[シンポジウム]
「素材と知覚」展 公開シンポジウム「『もの派』の根源を求めて」
本阿弥清 (NPO 法人環境芸術ネットワーク代表、元・虹の美術館館長)、秋丸知貴 (美術史家、インディペンデントキュレーター、「素材と知覚」展企画者)、山本豊津 (東京画廊代表、「素材と知覚」展監修者)
主催：現代京都藝苑実行委員会

3月9日(月)
[ワークショップ] PC 04
「百万人の踊り手」
王虹凱ほか

3月9日(月)
[対談]
やなぎみわステージトレーラープロジェクト
沈昭良 (写真家)、やなぎみわ

3月13日(金)
[レクチャー & ギャラリーツアー]
プラント・ジュンソー

3月29日(日)
[説明会]
PARASOPHIA サポートスタッフ募集説明会

3月29日(日)
[レクチャー]
「一つのコンテンツポラリー / 一つのコンプリシティー (共犯) : 2015.03.29.13:00-13:15」
眞島竜男

4月4日(土)
[レクチャー]
「一つのコンテンツポラリー / 一つのコンプリシティー (共犯) : 2015.04.04.13:00-13:15」
眞島竜男

4月5日(日)
[レクチャー]
「一つのコンテンツポラリー / 一つのコンプリシティー (共犯) : 2015.04.05.13:00-13:15」
眞島竜男

4月11日(土)
[レクチャー]
「制度の中の美学 / 美学の中の制度—近代京都からの考察」
笠原恵美子

4月12日(日)
[レクチャー]
倉智敬子+高橋悟 Case of A/Being part-2
「おまかせ民主主義からの脱却」
<第1部> 講演 上野千鶴子

4月12日(日)
[野外上映会]
やなぎみわステージトレーラープロジェクトタデウシュ・カントル生誕100周年記念レクチャー&シンポジウムおよび野外上映
<第1部> レクチャー「タデウシュ・カントルの宇宙におけるオブジェ、マネキン、俳優たち」

4月15日(水)
AP / ラディカル・ダイアログ [現代美術と公案]
古川周賢

4月16日(木)
AP / ラディカル・ダイアログ [7回目のマラリア]
小川さやか

4月17日(土)
Trans-it プログラム part-1
久門剛史

4月19日(日) 貸し教室
超京都 artkyoto 2015 トークイベント「アートを観ること・買うこと」
小崎哲哉 ([REAL TOKYO][REAL KYOTO] 発行人兼編集長、京都造形芸術大学比較芸術学研究センター客員研究員)、金島隆弘 (FEC 代表兼一般社団法人「芸術と創造」代表理事)、松尾憲 (MATSUO MEGUMI+ VOICE GALLERY pfs/w 代表、PAB メンバー)
主催：超京都 artkyoto 2015 実行委員会

4月19日(日) 貸し教室
超京都 artkyoto 2015
ボランティアオリエンテーション
主催：超京都 artkyoto 2015 実行委員会

4月22日(水)
Trans-it プログラム part-2
杉山雅之

4月23日(木)
[セミナー]
「継承と伝達：生成的未来に向けて」

4月25日(土)
[座談会]
「四ヶ月後、《一時的なスタディ：ワークショップ #1》への参加をめぐって」
東完治、河原夏椰、大久保朱音、高田悠介、武内もも、田中志遠、田中功起

4月26日(日) 貸し教室
素謡の会関連企画
「観能ツアー」第7回《養老》《楊貴妃》《阿漕》ナビゲーターによる解説
ナビゲーター：田茂井廣道 (能楽師シテ方観世流)
主催：京都芸術センター

4月26日(日) 貸し教室
Sound Exhibition 2015 関連企画
RED BULL MUSIC ACADEMY×PARASOPHIA Public Session
菊地成孔 (ミュージシャン)
司会：原雅明 (音楽評論家)
主催：Red Bull Music Academy

4月28日(火)
AP / ラディカル・ダイアログ [人類進化の謎]
遠藤秀紀

4月29日(水)
Trans-it プログラム part-4
田中和人+増本泰斗

5月1日(金) 貸し教室
[トークイベント]
にいがた地域映像アーカイブ
林田新 (京都市立芸術大学芸術資源研究センター研究員)、榎本千賀子 (新潟大学人文学部助教)、佐藤守弘 (京都精華大学デザイン学部教授、PAB メンバー)、北村順生 (新潟大学人文学部准教授)、菊地暁 (京都大学人文科学研究所助教)、原田健一 (新潟大学人文学部教授)、相内啓司 (京都精華大学芸術学部教授)
司会：佐藤守弘 (京都精華大学デザイン学部教授、PAB メンバー)
主催：新潟大学人文学部地域映像アーカイブセンター

5月2日(土)
[ウォーキングツアー]
「岡崎公園と京都市美術館」
中谷至宏

5月2日(土)
[レクチャー] 「近作について」西沢立衛

5月5日(火・祝) 貸し教室
[レクチャー] 「こどもの日に「つくる」を考える」
竹村延和 (アーティスト、作曲家)
進行：中村悠介 (編集者、Happenings)
主催：Happenings

5月6日(水)
[レクチャー]
「テレビ番組を作る ~すいえんサーから論文捏造まで~」
村松秀

5月6日(水)
[トークイベント] PC 06
「セクラーを読む人 III——イメージの唯物論 (について考える)」
セクラーを読む人

5月8日(金)
[レクチャー]
リサ・アン・アワーバック

5月9日(土)
[レクチャー]
キュレーターズ・トーク「バラ・サイトについて」
中谷至宏

パラ人

『パラ人』[パラジン]は、プロフェッショナルアドバイザーボードメンバーである吉岡洋と学生等有志による出版物。吉岡氏の提案に端を発し、吉岡氏自ら編集長(パラ集長)を務め、20名を超える関西一円の大学生・大学院生らの編集部員(パラ人たち)によって自主的に制作されている。『パラ人』は PARASOPHIA の宣伝広報物ではない独立した媒体として、芸術祭本体とは直接関係しない普遍的な問題に関する「おしゃべり」が紙面で展開されている。『パラ人』の活動は当組織委員会設立後まもない2013年夏から始まり、これまで5号を発行。判型は第1号のタブロイドから、B4、A4、B5、A5と毎号小さくなり、ガイドブックと同サイズで制作された第5号は会期中に無料配布される公式ガイドブックの限定付録として発行された。『パラ人』はその活動のユニークさから様々な面で注目され、結果として PARASOPHIA の名前を様々な場所で浸透させつつも、PARASOPHIA とは一定の距離を保つ異なる存在として広がりを見せている。



第1号



第2号



第3号



第4号



第5号

パラ人 no. 001 (Spring 2014)

収録内容:

1. 吉岡洋「歩き出した(パラ人)」
2. 【座談会】「パラソフィアに、悩む。」
3. 【コラム】尹志慧「シネマ・パラシュート no. 1: ハンナ・アーレント」
4. 【コラム】大久保美紀「Parasophia au Monde no. 1: ニュイ・ブランシュ・ア・パリ『卵に対する植物の応答』がアートになるとき」
5. 【コラム】左近田展康「フォルマント兄弟のパラソフィア」
6. 「パラ人の歩み」

パラ人 no. 002 (Summer 2014)

収録内容:

1. 吉岡洋「根拠なき想像、信じる力」
2. 【座談会】「とりいそぎ、幸せ。」
3. 橋本柚香「パラ人薬局の『幸せ』処方箋」
4. 【コラム】尹志慧「シネマ・パラシュート no. 2: ワンダフルライフ × 空白を満たしなさい」
5. 【コラム】北野圭介「北野圭介のパラソフィア: 謀(はかりごと)の共犯者となれるかも!」
6. 【コラム】椿昇「椿昇のパラソフィア: 私の想うパラソフィア」
7. 【書評】高橋奈々「わたしの幸福論」
8. 【展評】浅見旬「愚直な態度を取り戻せ」
9. 【コラム】大久保美紀「Parasophia au Monde no. 2: パラソフィア・ア・アヴィニョン 女王たちの幸福」
10. 「パラ人の歩み」

パラ人 no. 003 (Autumn 2014)

収録内容:

1. 吉岡洋「パラ人はパラサイト」
2. 【座談会】「ウォー! なんてことだ!」
3. 【特集】Don't never (not) trust under 30
【インタビュー】山羊昇「おめでとうパラ人賞! 前谷開インタビュー」
【インタビュー】朴星桓「池田武史インタビュー」
【対談】「塩見友梨奈 × 吉岡洋」
4. 【コラム】尹志慧「シネマ・パラシュート no. 3: 『アルマジロ』」
5. 【コラム】大久保美紀「Parasophia au Monde no. 3: ファム・オ・コンパ: 「逸脱」のための儀式」
6. 「パラ人の歩み」

パラ人 no. 004 (Winter 2015)

収録内容:

1. 吉岡洋「アート、あるいは自由な技術」
2. 【座談会】会期前! PARASOPHIA ツアー 2015
3. 【コラム】尹志慧「シネマ・パラシュート no. 4: 『ミッドナイト・イン・パリ』」
4. 【コラム】大久保美紀「Parasophia au Monde no. 4: 「いま、ここ」のためのアート」
5. 【特集】花嫁は憂うのか。: Solo Wedding のための3つの思索
6. 「パラ人の歩み」

パラ人 no. 005 (Spring 2015)

収録内容:

1. 吉岡洋「京都ビエンナーレ 2003——PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」
2. 【座談会】パラ人、邂逅、山極総長
3. 【コラム】尹志慧「シネマ・パラシュート 冬眠前の報告——Cahiers du cinema parachute iss.1-iss.5」
4. 【コラム】大久保美紀「Parasophia au Monde no. 5: アートがアートであるためのアイディア」
5. 『パラ人』バックナンバー

パラ集長: 吉岡洋

パラ人達: 浅見旬、榎本悠人、上村優、近江ひかり、倉部一星、古俣皓隆、佐藤健太郎、清水明日香、角千波、高橋奈々、根津歩、野海智子、朴星桓、橋本柚香、橋本よしの、蓮田真優美、真壁悠、元行まみ、山羊昇、安田七海、尹志慧、好光義也、渡邊拓也

発行: 京都国際現代芸術祭組織委員会

助成: 一般社団法人ニッシャ印刷文化振興財団

ISSN-L: 2188-5435

発行日: 不定期

判型: 不定形

印刷: 株式会社グラフィック

価格: 無料

発行部数: 各号 8,000 部

主な配布場所: 大垣書店、国内の各大学をはじめ、パラ人・パラ集長による手配りにより配布

*公式ウェブサイトでPDF版をダウンロード可。

テクニカルサポート

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 の大きな特色は作家と京都との対話である。参加作家は京都で様々な事前リサーチを行い、新作を構想した。その作家達の要請に応じ作品制作を支援するのは、京都に蓄積された新旧の技術と知である。伝統的な職人工場の佇まいや職人との会話からインスピレーションを得るもの、直接地元の職人や作家たちの知や技術を通して構想を実現したものなど、様々な形で京都との対話が展覧会を特色付けた。

組織委員会は、ヤノベケンジが牽引する京都造形芸術大学内の「ウルトラファクトリー」と、名和晃平を中心として様々な才能が集ってプロジェクトを推進する「SANDWICH」という、二つの現代美術の工房に協力を仰ぎ、公式のテクニカルサポートとして作家たちの要請に応える仕組みを用意した。

京都造形芸術大学ウルトラファクトリー ULTRA FACTORY (Kyoto University of Art and Design)

2008 年設立、京都市左京区

ディレクター：ヤノベケンジ

ウルトラファクトリーは、2008 年 6 月、京都造形芸術大学に、マイクロマシンから巨大ロボットまで、金属・木材加工、樹脂成形等が可能な全学科共通の立体造形兼実践教育工房として設立され、現代美術作家・ヤノベケンジによるディレクションのもと、第一線のアーティストやデザイナーを招聘し数々のプロジェクト型実践演習「ウルトラプロジェクト」を実施してきた。「また年に 1 回開催される京都造形芸術大学の在学生・卒業生を対象としたアートアワード「ウルトラアワード」は 2010 年より過去 4 回催され、現在注目の若手作家を輩出している。

蔡國強 (ツイ・グオチャン)、やなぎみわ等の作品制作に協力。



SANDWICH

2009 年設立、京都市伏見区

ディレクター：名和晃平

SANDWICH は、2009 年に京都・伏見にある旧サンドイッチ工場の跡地をリノベーションすることから始まった創作のためのプラットフォーム。彫刻家の名和晃平を中心にアーティスト、建築家、デザイナー、学生などが集い、ジャンルや世代を超えて柔軟で刺激的なクリエイションを展開する。2013 年には、建築家の李仁孝、古代裕一らと共に、一級建築士事務所として、本格的に建築プロジェクトを手がけ始める。また、スイスのチューリヒに拠点を置く建築設計事務所「BLUE ARCHITECTS」と提携し、国際的な活動が進行中。

京都市美術館正面のチケットブースおよびカフェエリアのパーティションの企画・制作を担当。



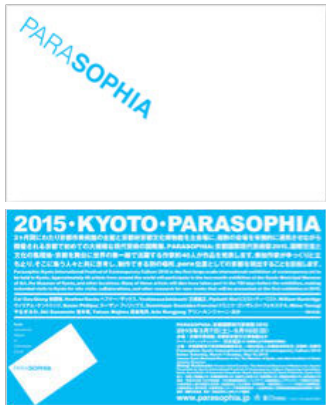
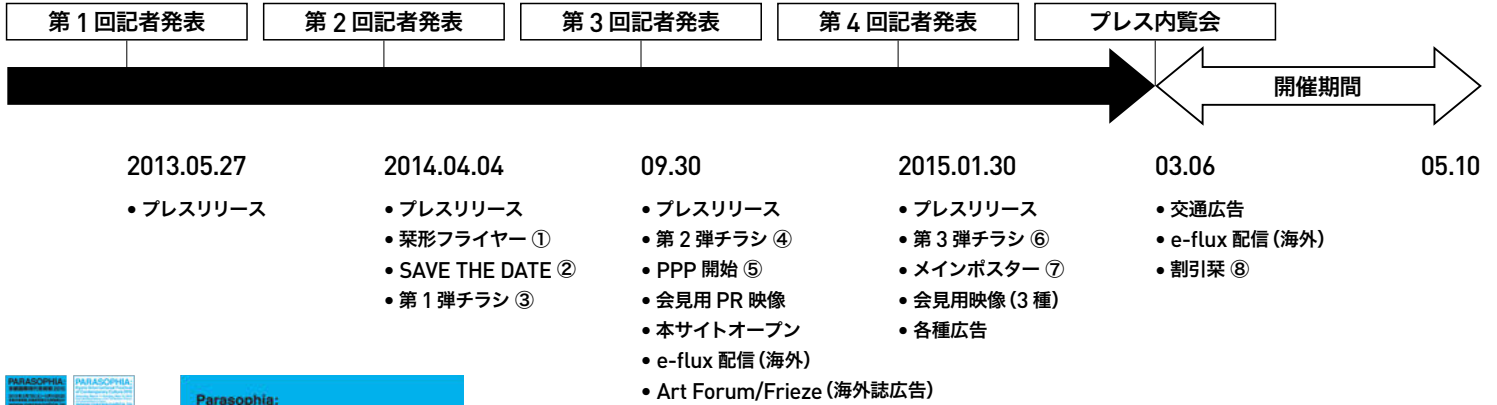
広報

全体方針

第一回目の開催であることを踏まえ、以下の3点を柱として広報活動を実施した。

- 「PARASOPHIA」という言葉の周知とブランディング
- 京都で初めての国際的な現代芸術祭開催に対する興味関心の喚起
- 京都国際現代芸術祭のコンセプト、および作家や作品への理解の促進

全体計画



● 広報イベントに合わせ様々なツールを制作

種々のルールを記者会見のタイミングに合わせて制作。デザインは、「PARASOPHIA」という言葉とブルーカラーが印象に残るシンプルなイメージから始め、徐々に参加作家・作品のイメージを用いて展覧会内容、コンセプトを告知する方向に推移させた。

PPP (Parasophia Poster Project)



掲出を希望する個人・団体に対し毎月ポスターを送付し、自分の決めた場所にポスターを貼っていただく PPP (Parasophia Poster Project) を発足。SNS などで簡易な情報拡散が浸透し標準化するなかで、あえてポスターという旧来的な広報メディアにこだわり、印刷物という物、半年という持続的な期間、そして各自の掲出という行為を通して、事務局+鑑賞者+展覧会の間に、PARASOPHIA 独自の関係性を作っていくプロジェクトを実施した。

2014 年 10 月より、参加作家の作品をモノクロ画像としてメインビジュアルに使用したプロジェクトポスターを制作し、展覧会終了までに毎月 1 点計 8 種を配布・掲出した。

景観に関する条例があり、掲出場所が他都市に比べ限定される京都という場所にあって、個人の協力によって掲出場所が拡散し、街の中にランダムに配置されたイメージを通して「PARASOPHIA」の語が浸透することを狙いとした。また開幕に近づくにつれ、徐々に開催への期待と、内容に関する情報量の高まりを求め、通例では限定したイメージに周知の力を求めることを、あえてイメージの持続的な多数化を試みた。

結果、京都はもとより、東京や他地方、さらにはフランスやアメリカ、ドイツ、台湾、韓国など世界各地からの申込みもあり、申込み総数は 100 名を数えた。

会場でのアンケートでも、「展覧会を何で知りましたか」という質問で、通常下位の選択肢であることが多い「ポスター」が、男女ともに 1 位となった。本プロジェクトは展覧会自体のイメージ創生に寄与しただけでなく、集客誘因の機能も果たしたとみなせるだろう。

ウェブサイト

2013 年 5 月より、PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 の公式ウェブサイト「特設サイト」として公開し、2014 年 10 月にデザイン、内容をリニューアルして「本サイト」とした。両サイトを通じた閲覧数 (PV) は約 169 万、訪問数 (セッション) は約 42 万、訪問者数 (UU) は約 20 万を数えた。閲覧数の最大値は芸術祭開幕の 2015 年 3 月の約 52 万。開催中も平均約 30 万を維持した。

特設サイト



約24万
PV

2014年10月移行

本サイト

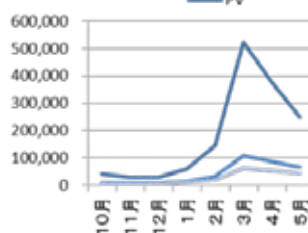


約145万
PV

総計
約169万PV
約42万訪問

本サイト解析データ

PV: 1,453,817
訪問: 331,139
UU: 205,759



2013年5月28日～
2014年9月30日

2014年10月1日～
2015年5月31日

SNS

SNSの活用頻度の高い受容層は、現代芸術への日常的な関心の高い層でもありとみなすことができるため、各SNSの特徴を踏まえて情報を発信することで、活用者が自ら発信者となった情報の拡散を目指した。

Facebookでは、開幕前4日間に毎日1本ずつ、計4本の動画をアップし、リーチ総数は73,966、その中の1本(会場のメイキング映像)はビュー数14,985、シェア数239件と拡散した。

Instagramでは、来場者からのアップを促し拡散を目指したが、開幕後フォロワー数が2倍となり、開幕2週間で2000枚を超す一般からの写真投稿があり、最終的には約1万件の写真投稿を数えた。

公式ウェブサイトではイベント情報などの中心に更新して最新情報を提供し、Twitterでは、開催イベントや会場の様子の画像をアップし、動画はFacebook、YouTubeにアップしてウェブサイトとSNSを連携させて拡散を図った。

キーワード 訪問数

1	パラソフィア	8,000
2	parasophia	4,500
3	京都国際現代芸術祭	1,300
4	京都市美術館	900
5	京都国際芸術祭	700
6	京都 パラソフィア	500
7	京都国際現代芸術祭 2015	400
8	パラソフィア 京都	320
9	京都 芸術祭	320
10	京都芸術祭	320

本サイト (2014年10月1日~2015年1月31日)

デバイスカテゴリ	訪問数	新規訪問の割合	訪問別PV	平均滞在時間	直帰率	
1	Twitter	2,266 (20.08%)	59.09%	2.6	0:01:42	50.18%
2	京都市情報館	2,007 (17.78%)	34.18%	4.52	0:02:04	78.67%
3	Facebook (モバイル)	896 (7.94%)	71.09%	1.88	0:00:50	81.36%
4	Facebook (PC)	671 (5.95%)	42.32%	4.44	0:04:09	39.64%
5	Facebook (広告)	554 (4.91%)	46.39%	3.69	0:02:28	43.68%
6	サポートスタッフセンター	438 (3.88%)	26.48%	5.32	0:04:50	14.84%
7	CINRA.NET	429 (3.80%)	31.93%	5.45	0:06:51	46.15%
8	city.kyoto.lg.jp	306 (2.71%)	40.52%	4.5	0:02:52	53.27%
9	ART iT	219 (1.94%)	21.46%	5.95	0:03:22	67.12%
10	Miwa Yanagi	175 (1.55%)	54.86%	3.6	0:02:00	66.29%

メディアとの連携

事前の4回にわたる記者会見では、作家の発表のほか、京都でのリサーチの様子の映像を紹介するとともに、クリス・デルコン氏やビピロッチ・リスト氏をゲストに迎えてメディアからの関心を高めた。

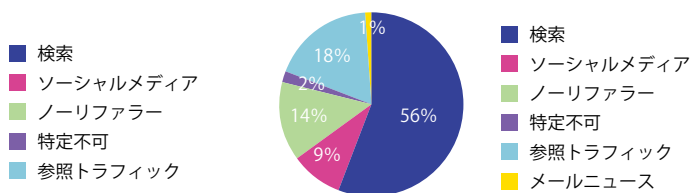
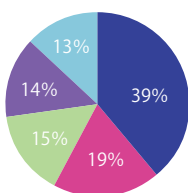
また、開幕前日にはプレス内覧会を実施した。11時より会場での全体説明の後、約2時間にわたり、作品を前にした作家によるトークを順次行ない、約200名のプレス関係者の参加を得た。さらに、国際交流基金の記者招聘を含む海外記者と作家とのランチ・カンファレンスを別会場にて実施し、ここで雑誌やラジオなどの個別インタビューを集中的に行った。

●公式ウェブサイトの閲覧者の流入動向とSNSの関係

「特設サイト」期と「本サイト」開設後の閲覧者の流入動向を比較すると、ソーシャルメディア+参照トラフィック(外部サイトからの流入)の割合が32%から27%に減少し、逆に検索エンジンを通じた流入が39%から56%に増加したことが特徴的であった。開幕が近づくにつれ、現代芸術のファン層だけではなく、広範な文化的催事の受容層や観光目的の訪問者への広がりを感じることができる。外部サイトからの流入においても、開催が近づいた2月中旬以降は、「京都市情報館」や「京都観光 NAVI」など観光情報サイトからの流入が急増した。

また検索語では、「京都国際現代芸術祭」に比べ、「パラソフィア」や「parasophia」が多数を占め、目的としていた「parasophia」という言葉の浸透が達成できたとみさせるだろう。

「本サイト」開設後の全体数でみると、Twitterからの流入数が10,678、Facebookからの流入数は12,360を数えた。



本サイト (2015年2月15日~2015年5月10日)

デバイスカテゴリ	訪問数	新規訪問の割合	訪問別PV	平均滞在時間	直帰率	
1	京都市情報館	27,031 (37.67%)	34.16%	4.91	0:02:42	61.73%
2	Twitter	7,415 (10.33%)	61.86%	2.72	0:01:57	52.41%
3	Facebook (モバイル)	4,711 (6.57%)	68.37%	2.02	0:00:52	84.95%
4	京都観光 NAVI	2,907 (4.05%)	57.93%	3.59	0:01:35	83.69%
5	Facebook (PC)	2,087 (2.91%)	44.75%	4.38	0:02:56	47.10%
6	Facebook (広告)	1,719 (2.40%)	43.46%	3.99	0:03:16	47.00%
7	京都で遊ぼう	1,361 (1.90%)	29.46%	6.58	0:04:04	52.39%
8	REAL KYOTO	1,215 (1.69%)	40.82%	4.66	0:04:18	36.46%
9	city.kyoto.lg.jp	1,140 (1.59%)	36.93%	4.76	0:03:08	52.28%
10	artscape	1,139 (1.59%)	26.78%	5.81	0:03:28	67.16%

●メディアパートナー

ART iT、α-STATION、Lmaga.jp、Kansai Art Beat、Numero TOKYO、REALKYOTO、J-WAVEをメディアパートナーとし、それぞれの媒体の特性を生かした広報活動の展開を試みた。これにより、一般的な観光ガイドへの浸透から、専門的な記事の重層まで多角的な情報提供の促進が可能となった。

ART iTでは、過去に出展作家のインタビューを多数行っている実績を基に、本芸術祭に関する記事の特設アーカイブページの作成が実現した。Numero TOKYOでも京都をテーマとした別冊が実現した。

●新聞・テレビ、ラジオ

開幕時の3月は一般的な読者・来場者向けの新聞・テレビ掲載が多数を占め、4月中旬からは内覧会での取材を踏まえた記事やラジオ放送、また、より専門性の高い新聞記事の掲載が増加した。通常の掲載記事に加え、複数のメディアを縦断した企画提案に基づく掲載に対しては現代芸術のファン層に強くアピールするとともに、広く現代カルチャーへの高関心層にも反響が広がった。

限られた会期のため、会期中の取材に基づく記事掲載が開幕までに実現しないものもあった。



掲載実績

新聞、雑誌、テレビ、ウェブサイトなど各種メディアで、664 件の掲載、放送があった。そのうちの約 500 件は 2015 年の 1 月から会期にかけての掲載となった。

※ 2013 年 9 月から 2015 年 6 月までの集計



新聞

1	京都新聞	2011年9月3日	長谷幹雄氏 京の芸術祭典開催へ(この人に聞く)(写真:長谷幹雄)
2	京都新聞	2012年5月8日	国際現代美術展 京都で 2015 年 経済同友会呼びかけ(写真:ベネチアビエンナーレ参考資料)
3	京都新聞	2012年5月23日	同友会など初の研究会 15 年京都ビエンナーレ(写真:研究会初会合)
4	京都新聞	2013年4月23日	アート最前線 京染める 経済・教育効果も
5	産経新聞	2013年5月28日	(京都国際現代芸術祭 2015)開催発表
6	朝日新聞	2013年5月28日	2015 年に京都で国際芸術祭
7	読売新聞	2013年5月28日	京都国際芸術祭 15 年に
8	日本経済新聞	2013年5月28日	京都同友会や府市 国際芸術祭、15 年春開催
9	京都新聞	2013年5月28日	先端表現 伝統と交錯 監督に河本氏(写真:第一回記者会見)
10	京都新聞	2013年5月29日	凡語
11	京都新聞	2013年6月12日	京都国際現代芸術祭 21 日にプレイベント
12	京都新聞	2013年7月13日	パソソフィア 2015 芸術監督に就任 河本信治氏に聞く(写真:河本信治)
13	毎日新聞	2013年8月22日	ベネチア・ビエンナーレ:「経験の共有」テーマに出品作家らが報告会
14	毎日新聞	2013年9月12日	対談:「火葉絵画」蔡國強さんと批評家・浅田彰さん、「国際芸術祭」関連で—10月14日、京都造形芸術大
15	毎日新聞	2013年11月20日	京都の文化遺産 世界に発信(写真:河本信治、イメージ図)
16	日本経済新聞	2014年1月15日	エコー 現代芸術を世界へ(写真:長谷幹雄)
17	京都新聞	2014年1月26日	キラ星 上田将之さん 芸術祭準備 業務多岐に(写真:上田将之)
18	The Japan Times	2014年2月6日	Prelude—William Kentridge: The Refusal of Time
19	京都新聞	2014年2月8日	寓意に満ちた大規模空間展示 きょうから(写真:プレイベント展示風景)
20	日本経済新聞	2014年2月13日	プレイベント情報掲載
21	朝日新聞	2014年2月13日	時間表現 体感して 巨大空間展示 中京で来月 16 日まで(写真:プレイベント展示風景)
22	読売新聞	2014年2月14日	現代美術身辺に感じて 明日から中京の元・立誠小 研究者らレクチャー
23	毎日新聞	2014年2月19日	ケントリッジの話題作公開(写真:プレイベント展示風景)
24	The Japan Times	2014年2月20日	'The refusal of time' is worth every minute (写真:《時間の抵抗》作品スチル)
25	朝日新聞	2014年2月21日	廃校で感じる 時間の支配
26	京都新聞	2014年2月24日	「日本初」の地で「映画の父」作品(写真:リュミエール上映会風景)
27	読売新聞	2014年2月26日	南ア美術家 独創的映像 京都貴ケントリッジ氏「時間の抵抗」公開 中京(写真:プレイベント展示風景)
28	京都新聞	2014年3月1日	ウィリアム・ケントリッジ講演会 作品の制作過程と模索の軌跡を語る(写真:ウィリアム・ケントリッジ、プレイベント展示風景)
29	毎日新聞	2014年3月5日	目に映らぬもの 映像で(写真:プレイベント展示風景)
30	毎日新聞	2014年3月6日	作品への思い熱く 京都 ケントリッジさん講演(写真:レクチャー風景)
31	読売新聞	2014年3月13日	《時間の抵抗》濃密な時刻む(写真:ウィリアム・ケントリッジ、プレイベント展示風景)
32	京都新聞	2014年3月23日	オープンリサーチプログラム 07 クリス・デルコン告知
33	日本経済新聞	2014年4月5日	国際芸術祭 詳細を発表 京都で来春開幕(写真:第二回記者会見)
34	京都新聞	2014年4月5日	国際的作家 8 人参加(写真:参加作家作品画像)
35	毎日新聞	2014年4月10日	参加 8 作家を発表(写真:クリス・デルコンレクチャー)

36	朝日新聞	2014年5月12日	京都国際現代芸術祭 中心作家 8 組を発表
37	京都新聞	2014年5月22日	国内外 25 万誘致へ
38	フジサンケイビジネスアイ	2014年5月29日	“転機”の日本経済 京都力が新成長をけん引
39	京都新聞	2014年6月4日	京都経済同友会の事務局に芸術作品を飾る活動 古都で挑む 新たな創作(ウィリアム・ケントリッジ、スーザン・フィリップスインタビュー)
40	朝日新聞	2014年6月6日	
41	読売新聞	2014年7月3日	市民後押し芸術家育成(京都芸術センター)
42	フジサンケイビジネスアイ	2014年7月9日	芸術祭で京都のブランド力発信(長谷幹雄インタビュー)
43	京都新聞	2014年7月14日	アーティスト笹本さん、京で取材(写真:笹本見リサーチ)
44	読売新聞	2014年7月19日	横浜トリエンナーレ作品連携
45	フジサンケイビジネスアイ	2014年8月6日	文化的首都化を 現代芸術祭開催へ
46	京都新聞	2014年8月7日	京の現代芸術祭に注目(写真:クリス・デルコン)
47	京都新聞	2014年8月12日	来月始動、中国美術家と京の子合同作品(写真:京都ダ・ヴィンチイメージ)
48	京都新聞	2014年10月1日	現代アートに新風 芸術家 18 人
49	京都新聞	2014年10月2日	イベント情報
50	京都新聞	2014年10月4日	自由な創造力をエネルギーに(子どもダ・ヴィンチワークショップレポート)
51	山陽新聞	2014年10月5日	新たに 18 作家参加
52	山梨日日新聞	2014年10月8日	京都初の国際現代芸術祭
53	日本経済新聞	2014年11月4日	古都革新の息吹 来春の芸術祭「パソソフィア」
54	朝日新聞	2014年11月12日	アートの祭り成熟と課題と、10 年代から急増類似企画
55	朝日新聞	2014年11月12日	芸術祭見つけ直す時 作品作り、地域特性いかす
56	毎日新聞	2014年11月17日	建昌哲「パラダイム・シフト 他者への寛容、喚起するアート」
57	日本経済新聞	2014年11月22日	代表幹事に鈴木氏(京都経済同友会)
58	日本経済新聞	2014年11月22日	関西まちナビ 京都堀川 来れ芸術家 老朽団地に風
59	日本経済新聞	2014年12月8日	列島 NEWS 京の金融機関、芸術で競演
60	日本経済新聞	2014年12月13日	先斗町の無電柱化 京都市長「2 年以内に合意」
61	日本経済新聞	2014年12月21日	2015 年春に開催 第一線の芸術家約 40 名が参加
62	日本経済新聞	2014年12月27日	関西 2015 年展望 観光個人消費底上げ
63	日本経済新聞	2014年12月31日	文化往来 初の京都国際現代芸術祭、3~5 月開催
64	京都新聞	2015年1月1日	やなぎみわ x 小崎哲哉 x 河本信治 対談
65	京都新聞	2015年1月1日	五福祥来 私のキーワード
66	京都新聞	2015年1月1日	コラム:池坊由紀「パソソフィアに生かされる伝統の技と京都の自然」
67	京都新聞	2015年1月1日	新春対談:京都にないもの戦略におもてなし力向上期待
68	京都新聞	2015年1月1日	2015 年経済展望 景気回復力強さ増す
69	建設新聞	2015年1月5日	山田啓二府知事「京都から真の地方創生を」
70	建設新聞	2015年1月8日	山田啓二府知事「京都から真の地方創生の実現を」
71	日刊建設産業新聞	2015年1月9日	門川大作市長「住んでよし、訪れてよしのまちづくりを」
72	京都新聞	2015年1月10日	見えないものを見る想像力 森村泰昌インタビュー
73	フジサンケイビジネスアイ	2015年1月15日	活力創造都市・京都へ “オール京都” 体制で推進
74	北國新聞	2015年1月29日	街を変えた「文化装置」
75	読売新聞	2015年1月31日	19 の国、地域から美術家 38 人参加 京都国際現代芸術祭
76	京都新聞	2015年1月31日	多彩なアート集結 新たに 10 組追加
77	京都新聞	2015年2月8日	日曜社説:パソソフィア 明日へつなぐ芸術祭に
78	読売新聞	2015年2月12日	展覧会情報
79	朝日新聞	2015年2月13日	来月 7 日開幕 古都のオーダーメイド作品展 長谷幹雄インタビュー
80	毎日新聞	2015年2月18日	作家と観客 ともに楽しむ
81	朝日新聞	2015年2月18日	世界の第一線 芸術家集結 来月 7 日から市内で
82	京都新聞	2015年2月21日	中国の美術家 蔡國強さんワークショップ 造形、自由な発想で
83	京都新聞	2015年2月21日	シンポジウム情報
84	京都新聞	2015年2月21日	現代美術の春 KYOTO ART MAP
85	交通毎日新聞	2015年2月23日	春にそぞろ歩きたい 体展覧会情報
86	毎日新聞	2015年2月25日	シンポジウム情報
87	日本経済新聞	2015年2月26日	内外から超一流芸術家 40 人が参加
88	交通新聞	2015年2月27日	展覧会情報
89	山陰中央新報	2015年2月28日	展覧会情報
90	愛媛新聞	2015年2月28日	展覧会情報
91	京都新聞	2015年3月1日	展覧会情報
92	長崎新聞	2015年3月1日	展覧会情報
93	伊勢新聞	2015年3月1日	展覧会情報
94	京都新聞	2015年3月2日	展覧会情報
95	京都新聞	2015年3月3日	スケッチ画来場者迎え 7 日開幕 京都国際現代芸術祭「パソソフィア」盛上
96	京都新聞	2015年3月3日	現代芸術京に咲け
97	徳島新聞	2015年3月3日	展覧会情報
98	京都新聞	2015年3月4日	シンポジウム情報
99	岐阜新聞	2015年3月4日	展覧会情報
100	朝日新聞	2015年3月5日	シンポジウム情報
101	徳島新聞	2015年3月5日	展覧会情報
102	福井新聞	2015年3月5日	関連イベント情報

103	The Japan Times	2015年3月6日	Parasophia to take Kyoto into the now
104	日本経済新聞	2015年3月6日	烏丸三条店改装高級感を演出
105	読売新聞	2015年3月7日	塔や涙 世界の感性 京都で現代芸術祭内覧会
106	京都新聞	2015年3月7日	現代芸術祭に咲け パラソフィアきょう開幕
107	京都新聞	2015年3月7日	京都の町舞台に描く かわりゆく崇仁記録
108	東京中日スポーツ	2015年3月7日	古都に不思議空間 二条城前でポールダンス
109	西日本スポーツ	2015年3月7日	古都に不思議空間 二条城前でポールダンス
110	中日スポーツ	2015年3月7日	古都に不思議空間 二条城前でポールダンス
111	夕刊三重	2015年3月7日	展覧会情報
112	Libération (フランス)	2015年3月8日	A Kyoto, Parasophia fait dialoguer les arts
113	京都新聞	2015年3月8日	府立植物園 パラソフィア アートだこ京の空彩る
114	毎日新聞	2015年3月11日	「京都国際現代芸術祭」前に 古都で躍動ポールダンス
115	朝日新聞	2015年3月12日	展覧会・関連イベント情報
116	中日新聞	2015年3月12日	展覧会情報
117	徳島新聞	2015年3月12日	展覧会情報
118	大阪日日新聞	2015年3月13日	展覧会情報
119	日本海新聞	2015年3月13日	展覧会情報
120	夕刊三重	2015年3月14日	展覧会情報
121	京都新聞	2015年3月14日	京都で初めての大規模の現代美術の国際展。世界の第一線で活躍する作家が京都に集結
122	京都新聞	2015年3月14日	京都初の国際現代芸術祭開幕 都市の記憶とアートの交差点
123	福井新聞	2015年3月15日	展覧会情報
124	New York Times (アメリカ)	2015年3月17日	So, Print Is Dying? Don't Tell the Magazine
125	大阪日日新聞	2015年3月18日	コラム:森岡めぐみ
126	京都新聞	2015年3月18日	関連イベント情報
127	産経新聞	2015年3月19日	未来につなぐ 京都国際現代芸術祭 民間がリード創造の思考の場へ
128	山陽新聞	2015年3月19日	展覧会情報
129	中日新聞	2015年3月19日	展覧会情報
130	山陽新聞	2015年3月19日	展覧会情報
131	徳島新聞	2015年3月19日	展覧会情報
132	日本経済新聞	2015年3月20日	京都パラソフィア開幕 自ら考え自由に鑑賞
133	New York Times (アメリカ)	2015年3月20日	What's On This Week Around The World
134	日本経済新聞	2015年3月20日	関西 View
135	International New York Times (アメリカ)	2015年3月21日	Information: 展覧会情報
136	京都新聞	2015年3月21日	関連イベント情報
137	京都新聞	2015年3月23日	28日に日独表現者のパラソフィアクロスレビュー
138	朝日新聞	2015年3月24日	WEBRONZA 情報
139	Klassekampen (ノルウェー)	2015年3月25日	Keiserens japanske klær
140	京都新聞	2015年3月26日	関連イベント情報
141	読売新聞	2015年3月26日	世界が知るアートの町 河本信治インタビュー
142	徳島新聞	2015年3月26日	展覧会情報
143	山陽新聞	2015年3月26日	展覧会情報
144	神戸新聞	2015年3月27日	京都で国際芸術祭「パラソフィア」古都とアート、刺激的な関係
145	Het Parool (オランダ)	2015年3月28日	Kunst in Japan is een verademing
146	夕刊三重	2015年3月28日	展覧会情報
147	読売新聞	2015年3月29日	京都が現代美術に染まる 新たな知との衝突
148	読売新聞	2015年4月2日	パラソフィア 京都国際現代芸術祭 歴史を踏まえて現代、未来
149	産経新聞	2015年4月2日	「創造と思考の場」市内8ヵ所展示 肌で感じた京都をアートに
150	徳島新聞	2015年4月2日	展覧会情報
151	京都新聞	2015年4月4日	関連イベント情報
152	夕刊三重	2015年4月4日	展覧会情報
153	SANKI EXPRESS	2015年4月6日	未来へつなぐ、創造と思考の場
154	京都新聞	2015年4月8日	先端アートでコミュニケーション
155	毎日新聞	2015年4月9日	関連イベント情報
156	De Morgen (ベルギー)	2015年4月9日	Kyoto in het spoor van Ana Torfs
157	中国新聞	2015年4月9日	展覧会情報
158	徳島新聞	2015年4月9日	展覧会情報
159	京都新聞	2015年4月10日	ソフィア「境目を越えていく旅公演」やなぎみわみわインタビュー
160	夕刊三重	2015年4月11日	展覧会情報
161	京都新聞	2015年4月14日	関連イベント情報
162	毎日新聞	2015年4月15日	関連イベント情報
163	毎日新聞	2015年4月16日	パラソフィア 未来につながる「もう一つの知」 古都舞台に記憶、制度問う
164	夕刊三重	2015年4月18日	展覧会情報
165	朝日新聞	2015年4月22日	京都発 現代美術を エンタメ性より知識欲刺激を追求
167	New York Times (アメリカ)	2015年4月23日	Contemporary Art in Kyoto
166	朝日新聞	2015年4月24日	知的好奇心くすぐる世界へ、意図隠れた作品も「踏み込んで探して」
168	公明新聞	2015年4月25日	古都の歴史性と国際性の真価とは
169	京都新聞	2015年4月28日	関連イベント情報
170	岐阜新聞	2015年4月29日	アート行事で地域刺激
171	京都新聞	2015年5月2日	終盤迎えたパラソフィア 京都の特性引き出す視点
172	夕刊三重新聞	2015年5月2日	展覧会情報
173	中日新聞	2015年5月2日	展覧会情報
174	The Sunday Independent (南アフリカ)	2015年5月3日	JAPAN: lost in dream
175	京都新聞	2015年5月8日	ソフィア「芸術の春を満喫して思う」小山崎山氏インタビュー

176	夕刊三重	2015年5月9日	展覧会情報
177	京都新聞	2015年5月16日	パラソフィア入場者 26万人
178	日刊ケイザイ	2015年5月25日	京都経済同友会通常総会
179	読売新聞	2015年6月29日	「祭り」で終わらせない 続く試み「パラソフィア 京都国際現代芸術祭」開幕 1ヶ月半

雑誌 (フリーペーパーを含む)

1	美術の窓	2013年8月号	2013年7月20日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 開催決定
2	Leaf	2014年3月号	2014年1月25日	イベント《時間の抵抗》情報告知
3	月刊ギャラリー	2014年2月号	2014年2月1日	イベント《時間の抵抗》情報告知
4	美術手帖	2014年2月号	2014年2月1日	イベント《時間の抵抗》情報告知
5	Richer	2014年3月号	2014年2月5日	イベント《時間の抵抗》情報告知
6	カジカジ	2014年3月号	2014年2月12日	イベント《時間の抵抗》情報告知
7	大阪保険医雑誌	2014年2月号	2014年2月20日	イベント《時間の抵抗》情報告知
8	きょうと府民だより	2014年3月号	2014年3月1日	イベント《時間の抵抗》情報告知
9	市民しんぶん	2014年3月号	2014年3月1日	イベント《時間の抵抗》情報告知
10	Meets Regional	2014年4月号	2014年3月1日	イベント《時間の抵抗》情報告知
11	京都芸術センター通信	2014年4月号	2014年3月20日	イベント《時間の抵抗》レビュー
12	芸術新潮	2014年4月号	2014年3月25日	イベント《時間の抵抗》レビュー
13	市民しんぶん	2014年4月号	2014年4月1日	オープンリサーチプログラム:ピピロツティ・リスト
14	アートコレクターズ	2014年5月号	2014年4月25日	京都国際現代芸術祭 2015、参加作家第一弾発表!
15	トーキングヘッズ叢書 (TH series) × ルーベン・愛らしさの裏側 No.58		2014年5月12日	イベント《時間の抵抗》レビュー
16	美術の窓	2014年6月号	2014年5月20日	出展アーティスト第一弾発表
17	月刊ホテル旅館	2014年6月号	2014年5月22日	ラグジュアリー旅行に特化した商談会 ILTM japan 京都都市で再度開催
18	市民しんぶん	2014年8月号	2014年7月1日	講演「地域コミュニティとアート」
19	瓜生通信 夏号		2014年7月13日	表紙+巻頭:やなぎみわの翼
20	市民しんぶん	2014年9月号	2014年8月1日	「子どもダ・ヴィンチ」指導員養成講座
21	クロワッサン	2014年8月25日号	2014年8月10日	やなぎみわインタビュー: 現代美術から演劇へ
22	クロワッサン	2014年8月25日号	2014年8月10日	やなぎみわ氏インタビュー: 現代美術から演劇へ
23	OZ magazine	2014年9月号	2014年8月12日	来春春の目玉芸術祭はこれ! (写真:蔡國強)
24	OZ magazine	2014年9月号	2014年8月15日	来春春の目玉芸術祭はこれ!
25	美術手帖	2014年9月号	2014年8月17日	石川康晴 論理性と創作性を兼ね備える未来を見据えた戦略家
26	美術手帖	2014年9月号	2014年8月17日	ヤン・ヴォー 記事
27	市民しんぶん	2014年9月号	2014年9月1日	「子どもダ・ヴィンチ」参加者を募集
28	市民しんぶん	2014年9月号	2014年9月1日	京都国際現代芸術祭サポートスタッフを募集 特集: 身体に響く現代アート(ヤン・ヴォー、スーザン・フィリップス、やなぎみわ、ピピロツティ・リスト)
29	FIGARO japon	2014年11月号	2014年9月20日	「子どもダ・ヴィンチ」参加者を募集
30	市民しんぶん	2014年10月号	2014年10月1日	「子どもダ・ヴィンチ」参加者を募集
31	きょうと府民だより	2014年10月号	2014年10月1日	展覧会情報
32	新美術新聞	2014年10月11日号	2014年10月11日	京都国際現代芸術祭 2015、参加作家第二弾発表
33	美術の窓	2014年11月号	2014年10月20日	「伝統の未来、未来の伝統」、京都で新しい文化遺産を作ろう
34	UnderWear No.2 Winter 2014		2014年11月15日	アナ・トーフインタビュー
35	Art Mag 86 (ドイツ)		2014年11月20日	What's on ON? PARASOPHIA IN KYOTO
36	市民しんぶん	2014年12月号	2014年12月1日	来春春、世界のアートの「今」が集結
37	SWISS CULTURE IN JAPAN WINTER2015 冬季号		2015年1月1日	展覧会情報
38	京 Business Review		2015年1月2日	読者アンケート ヘアご招待チケット
39	京都の冬の旅 2015		2015年1月3日	展覧会情報
40	美術屋・百兵衛 2015年冬号		2015年1月10日	展覧会情報
41	日経メディカル 2014年1月号		2015年1月10日	最新鋭のアートに触れる
42	京のれん No.81		2015年1月11日	EVENT IN KYOTO 2015
43	美術の窓 2014年2月号		2015年1月20日	2015年のアートイベント
44	& Premium No.15 2015 March		2015年1月20日	コラム内ドミニクについて(林央子)
45	FIGARO japon 2015年3月号		2015年1月20日	アジアで沸騰する現代アートのいま
46	カメラ日和 vol.59		2015年1月20日	京都発!国内外の40名のアート作品が集う現代美術の国際展が開催
47	第21回ミュージアムロード		2015年1月20日	京都で初めての大規模の現代美術の国際展。世界の第一線で活躍する作家が京都に集結
48	芸術新潮 2015年2月号		2015年1月25日	展覧会情報
49	じゃらん 2015年春夏号		2015年2月	京都初、大規模現代芸術の国際展がついに始動



50	5L	2015年2-3月号	2015年2月3日	世界の第一線で活躍する国内外の芸術家が京都に集う
51	intoxicate vol.114		2015年2月10日	国際交流と文化の集積地、京都を舞台に「別の知性」が集結!
52	月刊京都	2015年3月号	2015年2月10日	ニュースな話 現代美術の国際展、三月からスタート! 「PARASOPHIA」
53	カジカジ	2015年3月号	2015年2月12日	文化都市・京都で。だからこそぶった斬るダイナミズムを!
54	関西春 Walker		2015年2月13日	展覧会情報
55	go baan		2015年2月15日	まゆまる NEWS
56	週刊SPA! 2/24号		2015年2月17日	展覧会情報
57	Phat photo	2015年2月20日発売号	2015年2月20日	作家が集結する京都初の国際現代芸術祭
58	アサヒカメラ	2015年3月号	2015年2月20日	京都・細見美術館で初の写真展開催
59	美術の窓	2015年3月号	2015年2月20日	展覧会情報
60	SAVVY	2015年3月号	2015年2月23日	3月イベント情報
61	阪急沿線情報誌 TOKK	2015年3月1日号	2015年2月25日	表紙
62	阪急沿線情報誌 TOKK	2015年3月1日号	2015年2月25日	春の京都 ART な町さんぽ
63	歳時紀行	2015年3月号	2015年2月25日	PARASOPHIA 京都国際現代芸術祭 2015
64	アートコレクターズ	2015年3月号	2015年2月25日	美術の社会面
65	西 Navi	2015年3月号	2015年2月25日	展覧会情報(写真:やなぎみわ、森村泰昌)
66	Leaf	2015年4月号	2015年2月25日	京都で初となる大規模な現代芸術祭が開幕
67	ことりっぷ Magazine	2015年春号	2015年2月26日	京都岡崎、春
68	haru-mi vol.35		2015年2月28日	展覧会情報
69	eclat	2015年4月号	2015年3月1日	展覧会情報
70	Royal Platinum News	2015年3月号	2015年3月1日	京都ニューウェーブ、伝統とモダンが交わる、京都を巡る、春の旅
71	すずかひ		2015年3月1日	展覧会情報
72	Art Mag 87(ドイツ)		2015年3月1日	田中功起特集
73	京都府民だより	2015年3月号	2015年3月1日	世界と京都の文化を結びつける最先端の現代芸術祭開催
74	Kansai Scene	2015年3月号	2015年3月1日	展覧会情報
75	音読 第12号		2015年3月1日	展覧会情報、クーポン
76	おふたいむ	2015年3月号	2015年3月1日	展覧会情報
77	WILLER MAGAZINE		2015年3月1日	展覧会情報
78	関西 girl's style exp. Vol.53		2015年3月1日	展覧会情報
79	新美術新聞	2015年3月1日号	2015年3月1日	展覧会情報
80	家庭画報 international JAPAN EDITION		2015年3月1日	WORLD ARTS IN KYOTO
81	K PRESS	2015年3月号	2015年3月1日	展覧会情報
82	いけ花 龍生	2015年3月号	2015年3月1日	京都が舞台、現代アートの国際展
83	月刊ギャラリー	2015年3月号	2015年3月1日	京都市内の複数会場で行われる国際展
84	月刊ギャラリー	2015年3月号	2015年3月1日	展覧会スケジュール
85	ソトコト3月号増刊 孫の力 第22号		2015年3月1日	京都初の現代美術の祭典へ行く
86	SKY ニュース		2015年3月1日	展覧会情報
87	ART GRID KYOTO		2015年3月1日	京都最大規模の国際芸術祭。体験したい、新鮮な出会い
88	Kansai Walker 3/17号		2015年3月3日	展覧会情報
89	コレシビ	2015年4月号	2015年3月5日	展覧会情報
90	OZ magazine TRIP		2015年3月5日	世界で活躍する作家が集結
91	Discover Japan	2015年4月号	2015年3月6日	ローカル発、芸術祭に日本中が注目
92	MEN'S EX	2015年4月号	2015年3月6日	現代アートが春の京都をジャックする
93	月刊MoN	2015年4月号	2015年3月6日	世界の第一線で活躍する作家が集結
94	リビング京都	2015年3月7日号	2015年3月7日	関連企画情報、作家の目からみた歴史を作品に
95	KOKO コン		2015年3月8日	PARASOPHIA おすすめポイント!
96	Men's JOKER	2015年4月号	2015年3月10日	古都 京都でいよいよ開催
97	COOP ステーション	2015年4月号	2015年3月10日	今春、京都で世界トップクラスの現代アートが一堂に咲き誇る。
98	岡崎手帖		2015年3月10日	現代美術が埋め尽くす新感覚空間!
99	Casa BRUTUS	2015年4月号	2015年3月10日	展覧会情報
100	ぴあ clip!	2015年4月号	2015年3月12日	展覧会情報
101	FUDGE	2015年4月号	2015年3月12日	展覧会情報
102	シティーリビング	2015年3月13日号	2015年3月13日	約40人の国際的な作家が大集合
103	Pen	2015年3/15号	2015年3月15日	世界のアーティストが古都に集合して開催!京都国際現代芸術祭へ
104	Begin	2015年5月号	2015年3月16日	展覧会情報
105	婦人公論		2015年3月17日	大規模で国際的な現代芸術祭
106	シティーリビング	2015年3月18日号	2015年3月18日	ココロゆさぶるアートな時間
107	KYOTO VISITER'S GUIDE	2015年4月号	2015年3月20日	展覧会情報
108	はれ予報	2015年4月号	2015年3月20日	2015年に見たい!国内アートフェスティバル
109	STYLEE 5		2015年3月20日	ART ROOM 展覧会情報
110	JETSTAR JAPAN MAGAZINE		2015年3月20日	どこに行こうかこの休み?
111	西 Navi	2015年4月号	2015年3月20日	京阪神旬のイベント
112	K PRESS	2015年4月号	2015年3月20日	展覧会情報
113	ピオオ SALON		2015年3月20日	美の探求工房
114	京都: COLON	2015年4月号	2015年3月20日	京都で初めての大規模な現代芸術の祭典
115	カメラ日和 vol.61		2015年3月20日	京都初 国内外 40名のアート作品が集う現代美術の国際展が開催
116	Kunel vol.73		2015年3月20日	森村泰昌紹介
117	月刊美術	2015年4月号	2015年3月20日	超京都
118	美術の窓	2015年4月号	2015年3月20日	展覧会紹介
119	リビング京都	2015年3月21日号	2015年3月21日	クロスレビューイベント情報
120	SPRING	2015年5月号	2015年3月23日	展覧会情報
121	SODA	2015年5月号	2015年3月23日	展覧会情報
122	アートコレクターズ	2015年4月号	2015年3月25日	まだまだ楽しめる春の京都
123	Leaf	2015年5月号	2015年3月25日	京都案内

124	Numero TOKYO	5月号	2015年3月28日	京都特集別冊 森村泰昌、蔡國強、ビビロッチェ・リスト等インタビュー
125	Harper's Bazaar	2015年6月号	2015年3月28日	京都をアートで読み解く
126	VOGUE JAPAN	2015年5月号	2015年3月28日	足下を見つめてみるようにじっくり味わいたい、春の訪れとともに。
127	じゃらん 関東・東北		2015年3月28日	京都で初めて行われる大規模な現代芸術祭
128	ELLE ジャパン	2015年5月号	2015年3月28日	新日交が交り合う京都の底力
129	おふたいむ		2015年4月1日	展覧会情報
130	美術手帖	2015年4月号	2015年4月1日	展覧会情報
131	デザイノート No.60		2015年4月1日	展覧会情報(写真:森村泰昌作品)
132	Hanako FOR MEN vol.15		2015年4月10日	京都特集:METRO
133	Hanako FOR MEN vol.15		2015年4月10日	京都特集:アートの見どころ
134	Hanako FOR MEN vol.15		2015年4月10日	京都特集:ヘフナーザックス
135	シティリビング東京	2015年4月10日号	2015年4月10日	春の京都に新しい見どころ(古賀太)
136	OZ magazine	2015年5月号	2015年4月12日	旅時間:古都で始める現代アートの祭典 6P 特集
137	シティリビング大阪・神戸	2015年4月17日号	2015年4月17日	コラム:現代美術が苦手でも楽しめる(古賀太)
138	シティリビング京都	2015年4月17日号	2015年4月17日	コラム:現代美術が苦手でも楽しめる(古賀太)
139	VOGUE JAPAN	2015年6月号	2015年4月20日	A 30s Way of Life 30 日代本男子特集(田中功起)
140	じゃらん 関西中国四国		2015年4月20日	ART&MUSIC 展覧会情報
141	re-quest / QJ		2015年4月20日	おすすめ展覧会情報
142	芸術新潮	2015年5月号	2015年4月20日	ホンマタカシの映像レラシー
143	電車 & ウォーク		2015年4月20日	京阪神の近くで、いい旅
144	国際交流基金京都支部ニュースレター		2015年4月20日	青少年交流事業
145	KYOTO VISITER'S GUIDE	2015年5月号	2015年4月20日	展覧会情報
146	新美術新聞	2015年4月21日号	2015年4月21日	京都市美術館でみるパラソフィア(潮江宏三)
147	シティリビング京都	2015年4月21日号	2015年4月24日	イベント アートも伝統芸能も京都ならではの良さが
148	地域創造レター	2015年5月号	2015年4月25日	今月のレポート(山下里加)
149	サンデー毎日	2015年4/26号	2015年4月26日	Art Scene(石川健次)
150	FOCUS 焦點藝術(台湾)		2015年5月1日	展覧会レビュー(写真:ウィリアム・ケントリッジ、グシュタボ・シュベリジョン、石橋義正、アン・リスレロー)
151	月刊美術	2015年5月号	2015年5月1日	2つの「祭」から始まる新たな京都。見開きレビュー
152	婦人画報	2015年6月号	2015年5月1日	展覧会情報(写真:森村泰昌)
153	日経おとなのOFF	2015年6月号	2015年5月1日	展覧会情報(写真:森村泰昌)
154	Web Designing		2015年5月1日	芸術祭、写真祭、宿泊型アートスペース 春は「アートな京都」へ行こう!
155	美術の窓	2015年5月号	2015年5月1日	最新のコンテンツラリーアートを体感せよ! 1P コラム
156	美術手帖	2015年5月号	2015年5月1日	そこに在る作品に向き合う。4Pレビュー
157	美術手帖	2015年5月号	2015年5月1日	展覧会情報
158	新建築	2015年5月号	2015年5月1日	展覧会情報
159	GOLD	2015年6月号	2015年5月1日	展覧会情報(写真:蔡國強)
160	ミセス	2015年6月号	2015年5月1日	展覧会情報(写真:やなぎみわ)
161	SPUR	2015年6月号	2015年5月1日	展覧会情報(写真:ヨースト・コナイン)
162	Leaf	2015年6月号	2015年5月1日	京都案内
163	婦人画報	2015年6月1日号	2015年5月1日	今春は、街を歩けば現代アートに出会う
164	ソトコト	2015年6月号	2015年5月2日	田中康夫×浅田彰対談
165	Sound & Recording Magazine	2015年7月号	2015年5月25日	ルアンダ = キンシャサについて(原雅明)
166	美術フォーラム21 第31号		2015年5月30日	PARASOPHIAの試み、歴史の問い直しが多様化し造形感覚は混沌(吉村良夫)

ウェブ

1	MSN 産経ニュース		2013年5月27日	「京都国際現代芸術祭 2015」の開催を発表 平成27年3月から 京都経済同友会
2	京都市長門川大作オフィシャルサイト		2013年5月27日	オール京都で推進!パラソフィア:京都国際現代芸術祭 2015
3	REALKYOTO		2013年5月28日	小崎哲哉「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」
4	CINRA.NET		2013年5月28日	国際芸術祭「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」開催決定
5	Refsign Magazine Kyoto		2013年5月29日	PARASOPHIA オープンリサーチプログラム リビット水田亮 at 京都文化博物館 別館ホール
6	京都新聞		2013年5月29日	凡語「京都国際芸術祭」
7	ART iT		2013年5月30日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015、開催決定
8	フォーリン・プレスセンター		2013年5月30日	京都市:国際展「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」(アーティスティックディレクター:河本信治氏)開催決定
9	zenback キーワーズ		2013年6月1日	国際芸術祭「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」開催決定
10	Tokyo Art Beat		2013年6月4日	2015年、京都で国際アートフェスティバルがスタート!!
11	京都で遊ぼうART		2013年6月6日	【PARASOPHIA 京都国際現代芸術祭 2015】オープンリサーチプログラム[レクチャー]:リビット水田亮「猫と犬のように一映画とカストロフ」(6-21)
12	FASHION HEADLINE		2013年6月6日	PARASOPHIA Kyoto International Festival of Contemporary Culture in March 2015
13	工芸とクラフト		2013年6月6日	国際芸術祭「パラソフィア」開催決定
14	東書E ネット		2013年6月6日	国際現代芸術祭を2015年に開催=京都
15	BLOUIN ARTINFO		2013年6月11日	「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」概要発表

16	ART iT	2013年6月14日	リビット水田典「猫と犬のように——映画とカタストロフ」@ 京都府京都文化博物館別館	59	Pen online	2014年2月5日	世界に衝撃を与えた、ウィリアム・セントリッジ「時間の抵抗」が京都にやってくる!
17	京都精華大学	2013年6月17日	在学生の方へ: 学生生活・授業: 京都国際現代芸術祭 2015 学生スタッフ募集説明会のお知らせ	60	Kansai Art Beat	2014年2月6日	ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》
18	Kyoto Art Box	2013年7月5日	KAB Dialogue vol.14 河本信治 (PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 アーティスティックディレクター)	61	フォーリン・プレスセンター	2014年2月7日	京都市: PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 プレイベント ウィリアム・セントリッジ展 (日英)
19	Kansai Art Stream	2013年7月5日	PARASOPHIA- 京都国際現代芸術祭 2015 オープンリサーチプログラム【報告会】田中功起 + 蔵屋美香	62	京都で遊ぼう ART	2014年2月10日	【PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 プレイベント】ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》
20	ソーシャルニュース Ceron.jp	2013年7月5日	京都市: PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 オープンリサーチプログラムの開催について	63	ARTcollectors'IN ASIA	2014年2月11日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 プレイベント開催
21	ヨコハマトリエンナーレ公式ウェブサイト	2013年7月29日	国内の国際展	64	京都で遊ぼう ART	2014年2月13日	【内覧会レポート】【PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 プレイベント】ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》
22	ART ANNUAL ONLINE	2013年7月30日	【国際展】2015年春「京都国際現代芸術祭」開催	65	朝日新聞デジタル	2014年2月13日	京都 著名現代美術家の巨大空間展示 元小学校講堂に
23	REALKYOTO	2013年8月4日	ヴェネツィアと京都の田中功起 (小崎哲哉)	66	立誠シネマ	2014年2月14日	PARASOPHIA ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》関連上映『ウィリアム・セントリッジの謎』
24	毎日新聞	2013年8月22日	ベネチア・ビエンナーレ: 経緯の共有」テーマに出品作家らが報告会—上京区 / 京都	67	きょうとあす 婦人画報	2014年2月15日	ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》
25	京都イベントなび	2013年9月1日	PARASOPHIA- 京都国際現代芸術祭 2015 オープンリサーチプログラム【対談】ダイアローグ——蔡國強 × 浅田彰	68	京都 CF!	2014年2月15日	ウィリアム・セントリッジによるレクチャー 宿命からの逃避—《時間の抵抗》について
26	京都 .cotocoto	2013年9月1日	PARASOPHIA- 京都国際現代芸術祭 2015 オープンリサーチプログラム【対談】ダイアローグ——蔡國強 × 浅田彰	69	トコト	2014年2月17日	ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》William Kentridge: The Refusal of Time
27	artgene	2013年9月1日	PARASOPHIA- 京都国際現代芸術祭 2015 オープンリサーチプログラム【対談】ダイアローグ——蔡國強 × 浅田彰	70	HAPS	2014年2月18日	HAPS と考える展覧会鑑賞術 vol.3 / ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》
28	white space linkage	2013年9月1日	PARASOPHIA- 京都国際現代芸術祭 2015 オープンリサーチプログラム【対談】ダイアローグ——蔡國強 × 浅田彰、[レクチャー]妹島和世	71	The Japan Times	2014年2月19日	'The refusal of time' is worth every minute
29	ClubFame 京都	2013年9月2日	PARASOPHIA オープンリサーチプログラム	72	The Japan Times CULTURE	2014年2月19日	"The refusal of time" is worth every minute
30	アオアオマン	2013年9月6日	京都国際現代芸術祭のオープンリサーチプログラム、ドミニク・ゴンザレス = フォルステル@京都文化博物館別館ホール	73	毎日新聞	2014年2月19日	ウィリアム・セントリッジ: 話題作公開 アジア初、元・立誠小で—京都・中京区 / 京都
31	毎日新聞	2013年9月12日	対談: 「火業絵画」蔡國強さんと批評家、浅田彰さん、「国際芸術祭」関連で—10月14日、京都造形芸術大 / 京都	74	京都市長門川大佐オフィシャルサイト	2014年2月21日	「パラソフィア: 京都国際現代芸術祭 2015」のプレイベント「時間の抵抗」 ウィリアム・セントリッジさんがご来庁
32	artgene	2013年10月1日	PARASOPHIA- 京都国際現代芸術祭 2015 オープンリサーチプログラム【レクチャー】妹島和世	75	時事ドットコム	2014年2月21日	国際現代芸術祭のプレイベント
33	京都造形芸術大学	2013年10月1日	ダイアローグ 蔡國強 × 浅田彰	76	WalkerPlus	2014年2月28日	春のおでかけスポット プレイベント「ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》(作品展示)
34	アートとデザインの求人情報『美術手帖 × デザインの現場 JOB』	2013年10月1日	プレイベントサポートスタッフ募集	77	Kansai Art Beat	2014年3月13日	ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》フォトレポート
35	ソーシャルニュース Ceron.jp	2013年11月19日	プレイベント【作品展示】ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》 PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015	78	REALKYOTO	2014年3月17日	レビュー: 暗箱の中のタイムマシン——ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》(石谷治寛)
36	毎日新聞	2013年11月20日	パラソフィア京都国際現代芸術祭: 京都の文化資産、世界に発信 芸術監督、河本信治さんに聞く / 京都	79	art-in.de (ドイツ)	2014年3月24日	piplotti Rist. Augapfelmassage
37	ART iT	2013年12月30日	河本信治 × 森村泰昌 対談 (日英)	80	財経新聞	2014年3月27日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 オープンリサーチプログラム【レクチャー】の開催について
38	ZAQ イベント情報	2014年1月6日	プレイベント: ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》	81	Mapion ニュース	2014年3月27日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 オープンリサーチプログラム【レクチャー】の開催について
39	Livedoor イベントガイド	2014年1月6日	プレイベント: ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》	82	AMeET	2014年4月1日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015「パラソフィア」インタビュー吉岡洋
40	APA HOTEL イベント情報	2014年1月6日	プレイベント: ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》	83	Projectart.jp_β	2014年4月4日	京都国際現代芸術祭 2015、参加作家第1弾発表
41	エキサイトシーズン	2014年1月6日	プレイベント: ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》	84	FASHION HEADLINE JAPAN	2014年4月11日	Cai Guo-Qiang and Yoshimasa Ishibashi for PARASOPHIA in Kyoto
42	烏丸通まちづくり協議会	2014年1月9日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 プレイベント 2014年2月8日より開催!	85	Wn.com	2014年4月11日	京都芸術祭パラソフィアの参加作家 第一弾が発表
43	Kyoto Art Box	2014年1月13日	プレイベント: ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》	86	Foreign Press Center / Japan	2014年4月15日	artists who will participate in "PARASOPHIA:Kyoto International Modern Art Festival 2015"
44	artscape	2014年1月20日	プレイベント: ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》	87	ニッシャ印刷文化振興財団	2014年4月19日	PARASOPHIA 京都国際現代芸術祭 2015 へ助成
45	ART iT	2014年1月21日	ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》@元・立誠小学校 講堂	88	salon de mimi	2014年4月27日	パラソフィア PARAZINE, 京都国際現代芸術祭 PARASOPHIA を盛り上げるヨ
46	カロズネット	2014年1月22日	プレイベント: ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》	89	キャンパスが美術館	2014年4月28日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 に協力します
47	FASHION HEADLINE	2014年1月23日	ウィリアム・セントリッジの「時間の抵抗」が展示公開 - 世界中のアートファンを魅了	90	ART iT	2014年7月4日	笹本晃 - トークセッション PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015
48	GREE	2014年1月23日	京都の国際芸術祭「パラソフィア」のプレイベントで映像インスタレーション公開	91	asiart ARCHIVE	2014年7月7日	Parasophia: Kyoto International Festival of Contemporary Culture 2015
49	まゆまるニュース	2014年1月25日	京都府 / 新鋭展	92	おごと温泉	2014年7月7日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015
50	STEALMAG	2014年1月31日	Parasophia	93	京都 .cotocoto	2014年9月1日	PARASOPHIA2015 オープンリサーチプログラム【レクチャー】
51	Brooklyn Art Project (アメリカ)	2014年1月31日	Parasophia: Kyoto International Festival of Contemporary Culture 2015	94	未来回路 .com	2014年9月3日	「知のあり方の根幹に立ち帰る、フリーペーパー『パラソフィア』(吉岡洋 他)
52	e-flux	2014年1月31日	Parasophia: Kyoto International Festival of Contemporary Culture 2015 Prelude [Exhibition] William Kentridge: The Refusal of Time	95	彫刻学科	2014年9月15日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015
53	Kansai Scene	2014年1月31日	Prelude—William Kentridge: The Refusal of Time	96	PAPERZZ	2014年9月30日	PARASOPHIA: KYOTO INTERNATIONAL FESTIVAL OF CONTEMPORARY CULTURE
54	WorldArchitecture.org	2014年1月31日	William Kentridge: The Refusal of Time	97	ARTcollectors'IN ASIA	2014年10月1日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 出展作家第2弾発表
55	Leaf (モバイル版)	2014年2月1日	プレイベント: ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》	98	green tour kyoto	2014年10月1日	selected artist in kyoto - the way of PARASOPHIA
56	Numero Civico (イタリア)	2014年2月3日	Prelude [Exhibition] William Kentridge: The Refusal of Time	99	ART ANNUAL ONLINE	2014年10月2日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 参加作家第2弾を発表
57	The Japan Times	2014年2月5日	Prelude [Exhibition] William Kentridge: The Refusal of Time	100	hello! CS	2014年10月3日	カッティングシートがアートに! やなぎみわ「移動舞台車」に翼が出来るまで【後編】
58	Contemporary And	2014年2月5日	WILLIAM KENTRIDGE: THE REFUSAL OF TIME	101	Kansai Art Beat	2014年10月8日	京都国際現代芸術祭 2015、参加作家第2弾発表
59	Pen online	2014年2月5日	世界に衝撃を与えた、ウィリアム・セントリッジ「時間の抵抗」が京都にやってくる!	102	さんにち Eye 山梨日日新聞電子版	2014年10月8日	新たに18作家を発表 京都市初の国際現代芸術祭
60	Kansai Art Beat	2014年2月6日	ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》	103	Refsign Magazine Kyoto	2014年10月23日	PARASOPHIA オープンリサーチプログラム 10「連続レクチャー」真島竜男「全体タイトルは思案中」
61	フォーリン・プレスセンター	2014年2月7日	京都市: PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 プレイベント ウィリアム・セントリッジ展 (日英)	104	京都文化祭典 '14	2014年10月23日	平成 27 年春、京都で国際展「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」を開催
62	京都で遊ぼう ART	2014年2月10日	【PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 プレイベント】ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》	105	ULTRA FACTORY	2014年11月8日	展覧会情報
63	ARTcollectors'IN ASIA	2014年2月11日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 プレイベント開催				
64	京都で遊ぼう ART	2014年2月13日	【内覧会レポート】【PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 プレイベント】ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》				
65	朝日新聞デジタル	2014年2月13日	京都 著名現代美術家の巨大空間展示 元小学校講堂に				
66	立誠シネマ	2014年2月14日	PARASOPHIA ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》関連上映『ウィリアム・セントリッジの謎』				
67	きょうとあす 婦人画報	2014年2月15日	ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》				
68	京都 CF!	2014年2月15日	ウィリアム・セントリッジによるレクチャー 宿命からの逃避—《時間の抵抗》について				
69	トコト	2014年2月17日	ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》William Kentridge: The Refusal of Time				
70	HAPS	2014年2月18日	HAPS と考える展覧会鑑賞術 vol.3 / ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》				
71	The Japan Times	2014年2月19日	'The refusal of time' is worth every minute				
72	The Japan Times CULTURE	2014年2月19日	"The refusal of time" is worth every minute				
73	毎日新聞	2014年2月19日	ウィリアム・セントリッジ: 話題作公開 アジア初、元・立誠小で—京都・中京区 / 京都				
74	京都市長門川大佐オフィシャルサイト	2014年2月21日	「パラソフィア: 京都国際現代芸術祭 2015」のプレイベント「時間の抵抗」 ウィリアム・セントリッジさんがご来庁				
75	時事ドットコム	2014年2月21日	国際現代芸術祭のプレイベント				
76	WalkerPlus	2014年2月28日	春のおでかけスポット プレイベント「ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》(作品展示)				
77	Kansai Art Beat	2014年3月13日	ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》フォトレポート				
78	REALKYOTO	2014年3月17日	レビュー: 暗箱の中のタイムマシン——ウィリアム・セントリッジ《時間の抵抗》(石谷治寛)				
79	art-in.de (ドイツ)	2014年3月24日	piplotti Rist. Augapfelmassage				
80	財経新聞	2014年3月27日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 オープンリサーチプログラム【レクチャー】の開催について				
81	Mapion ニュース	2014年3月27日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 オープンリサーチプログラム【レクチャー】の開催について				
82	AMeET	2014年4月1日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015「パラソフィア」インタビュー吉岡洋				
83	Projectart.jp_β	2014年4月4日	京都国際現代芸術祭 2015、参加作家第1弾発表				
84	FASHION HEADLINE JAPAN	2014年4月11日	Cai Guo-Qiang and Yoshimasa Ishibashi for PARASOPHIA in Kyoto				
85	Wn.com	2014年4月11日	京都芸術祭パラソフィアの参加作家 第一弾が発表				
86	Foreign Press Center / Japan	2014年4月15日	artists who will participate in "PARASOPHIA:Kyoto International Modern Art Festival 2015"				
87	ニッシャ印刷文化振興財団	2014年4月19日	PARASOPHIA 京都国際現代芸術祭 2015 へ助成				
88	salon de mimi	2014年4月27日	パラソフィア PARAZINE, 京都国際現代芸術祭 PARASOPHIA を盛り上げるヨ				
89	キャンパスが美術館	2014年4月28日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 に協力します				
90	ART iT	2014年7月4日	笹本晃 - トークセッション PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015				
91	asiart ARCHIVE	2014年7月7日	Parasophia: Kyoto International Festival of Contemporary Culture 2015				
92	おごと温泉	2014年7月7日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015				
93	京都 .cotocoto	2014年9月1日	PARASOPHIA2015 オープンリサーチプログラム【レクチャー】				
94	未来回路 .com	2014年9月3日	「知のあり方の根幹に立ち帰る、フリーペーパー『パラソフィア』(吉岡洋 他)				
95	彫刻学科	2014年9月15日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015				
96	PAPERZZ	2014年9月30日	PARASOPHIA: KYOTO INTERNATIONAL FESTIVAL OF CONTEMPORARY CULTURE				
97	ARTcollectors'IN ASIA	2014年10月1日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 出展作家第2弾発表				
98	green tour kyoto	2014年10月1日	selected artist in kyoto - the way of PARASOPHIA				
99	ART ANNUAL ONLINE	2014年10月2日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 参加作家第2弾を発表				
100	hello! CS	2014年10月3日	カッティングシートがアートに! やなぎみわ「移動舞台車」に翼が出来るまで【後編】				
101	Kansai Art Beat	2014年10月8日	京都国際現代芸術祭 2015、参加作家第2弾発表				
102	さんにち Eye 山梨日日新聞電子版	2014年10月8日	新たに18作家を発表 京都市初の国際現代芸術祭				
103	Refsign Magazine Kyoto	2014年10月23日	PARASOPHIA オープンリサーチプログラム 10「連続レクチャー」真島竜男「全体タイトルは思案中」				
104	京都文化祭典 '14	2014年10月23日	平成 27 年春、京都で国際展「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」を開催				
105	ULTRA FACTORY	2014年11月8日	展覧会情報				

106	HAPS	2014年11月8日	展覧会情報		
107	京の冬の旅	2014年11月10日	展覧会情報		
108	e-flux	2014年11月11日	PARASOPHIA 京都国際現代芸術祭 2015		
109	京都市情報館	2014年11月14日	【お知らせ】PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭オープンリサーチプログラム		
110	actuphoto(フランス)	2014年11月18日	展覧会情報		
111	京都イベントナビ	2014年11月19日	パラソフィア PARASOPHIA 京都国際現代芸術祭 2015 オープンリサーチプログラム		
112	京都新聞	2014年11月22日	京都経済同友会、次期代表幹事に鈴木氏 日写社長、内定へ		
113	長谷ビルディンググループ	2014年11月27日	オープンリサーチプログラムのお知らせ		
114	チケットぴあ	2014年12月1日	PARASOPHIA 京都国際現代芸術祭 2015の開催が決定!		
115	ぴあ関西版	2014年12月1日	京都国際現代芸術祭 2015の開催が決定!		
116	excite. ニュース	2014年12月1日	京都国際現代芸術祭 2015の開催が決定!		
117	kuad production	2014年12月3日	再び漂白する路地のためにーやなぎみわの「日輪の翼」公開トレーラー公開計画		
118	REALKYOTO	2015年1月1日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015		
119	ART iT	2015年1月30日	Forecast 2015: Exhibitions and Events		
120	BIENNIAL FOUNDATION (オランダ)	2015年1月30日	the first large-scale international exhibition of contemporary art to be held in Kyoto.		
121	Projectart.jp_β	2015年1月30日	展覧会情報		
122	NODEnet	2015年2月2日	京都初!現代美術の智の祭典「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」		
123	JDN	2015年2月3日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 Interview Archive		
124	FASHION PRESS	2015年2月4日	古都・京都の集う先鋭的なアート - 京都国際現代芸術祭 2015		
125	Feel on	2015年2月4日	春の京都で大規模な現代アートフェスが開幕! 「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」 - IMA ONLINE		
126	写真少年漂流記	2015年2月5日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015		
127	京都新聞	2015年2月8日	パラソフィア 明日へつなく芸術祭に		
128	京都ファミリー	2015年2月8日	京都国際現代芸術祭: PARASOPHIA 前売券好評発売中!		
129	CINRA.NET	2015年2月9日	「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」全参加アーティスト 36 組が出揃う		
130	大塚書店	2015年2月9日	【前売券発売中】パラソフィア: 京都国際現代芸術祭 2015		
131	ぴあ関西版	2015年2月10日	春の京都が丸ごとアート空間 京都国際現代芸術祭が来月開催!		
132	livedoor NEWS	2015年2月10日	春の京都が丸ごとアート空間。京都国際現代芸術祭が来月開催		
133	ARTcollectors'IN ASIA	2015年2月11日	「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」は全出展者リストと展示内容を発表		
134	Evenear	2015年2月11日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015		
135	Lmaga.jp	2015年2月13日	アジア初 最新映像アートを体感すべし		
136	Lmaga.jp	2015年2月18日	「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」		
137	朝日新聞デジタル	2015年2月18日	世界の第一線 芸術家集結		
138	「森村泰昌」芸術研究所	2015年2月20日	Parasophia Conversations 02: 森村泰昌 × ドミニク・ゴンザレス=フォルステル「合わせ鏡の対話」		
139	京都市情報館	2015年2月20日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 連携プログラム「ART GRID KYOTO ~交錯する文化へ~」の実施について		
140	京都市立西総合支援学校	2015年2月20日	子どもダ・ヴィンチプロジェクト		
141	創造都市ネットワーク日本	2015年2月20日	第7回クリエイティブ cafe のお誘い		
142	Refsign Magazine Kyoto	2015年2月22日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015.03.07-05.10 開催		
143	イオンモール京都五条	2015年2月23日	【前売券発売中】パラソフィア: 京都国際現代芸術祭 2015		
144	徳島新聞	2015年2月24日	関連企画情報		
145	NAVER まとめ	2015年2月25日	「どんな「合わせ鏡」なのか?」森村泰昌 × ドミニク・ゴンザレス=フォルステル事前イベントまとめ		
146	Macho	2015年2月25日	PARASOPHIA 京都国際現代芸術祭 2015の開催前おすすめポイント!		
147	京都市長門川大作オフィシャルサイト	2015年2月25日	いよいよ3月7日から「パラソフィア(国際現代芸術祭)」開催		
148	京阪沿線 Art Collection	2015年2月25日	沿線の展覧会情報		
149	京都みなみ会館	2015年2月25日	京都国際現代芸術祭 2015 PARASOPHIA COUNTDOWN in みなみ会館		
150	るるぶ.com	2015年2月25日	京都初! 「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」が開幕		
151	京都で遊ぼう ART	2015年2月27日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015		
152	ART ANNUAL ONLINE	2015年2月27日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015、最後の参加作家4名を発表		
153	All About	2015年3月1日	2015年トレンド 押さえておきたいおススメイベント		
154	e-flux	2015年3月1日	PARASOPHIA		
155	heyevent	2015年3月1日	Parasophia Conversations 03: 美術館を超える展覧会は可能か		
156	The Japan Times CULTURE	2015年3月1日	Parasophia to take Kyoto into the now		
157	TOKK	2015年3月1日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015		
158	京都市観光協会	2015年3月1日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015		
159	駐日ノルウェー王国大使館	2015年3月1日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015		
160	JDN	2015年3月1日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015		
161	ウェスティン都ホテル京都	2015年3月1日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 開催記念企画		
162	京都東急ホテル	2015年3月1日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 チケット付プラン		
163	Kyoto Art Box	2015年3月1日	Pipilotti Rist Lecture: Parasophia: Kyoto International Festival of Contemporary Culture 2015, Open Research Program		
164	LUHRING AUGUSTINE (アメリカ)	2015年3月1日	Ragnar Kjartansson, Yasumasa Morimura, and Pipilotti Rist in Kyoto International Festival of Contemporary Culture		
165	RED BULL MUSIC ACADEMY	2015年3月1日	RED BULL MUSIC ACADEMY x PARASOPHIA [京都国際現代芸術祭 2015] PUBLIC SESSION		
166	表象文化論学会ニューズレター REPRE	2015年3月1日	アラン・セクーラ、写真とテキスト、イメージと地政学のあいだ		
167	REALKYOTO	2015年3月1日	パラパラソフィア --- 京都国際現代芸術祭 2015の傍らで		
168	artscape	2015年3月1日	河本信治インタビュー「思考と創造のプラットフォーム/ PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」		
169	京都府	2015年3月1日	特集 PARASOPHIA 京都国際現代芸術祭 2015		
170	Villa Kamogawa	2015年3月1日	美術館を超える展覧会は可能か		
171	京都文化祭典 '14	2015年3月1日	平成 27 年春、京都で国際展「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」を開催。		
172	京都芸術センター	2015年3月1日	蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」ワークショップ		
173	在日フランス大使館	2015年3月2日	Parasophia : 京都国際現代芸術祭 2015		
174	DigStyle 京都	2015年3月2日	Parasophia Conversations 03: 美術館を超える展覧会は可能か		
175	NISSHA	2015年3月2日	PARASOPHIA 京都国際現代芸術祭 2015 に協賛		
176	KYOTO TRAVEL	2015年3月3日	PARASOPHIA - Contemporary Art Project You Shouldn't Miss		
177	きょうとあす 婦人画報	2015年3月3日	京都人のひとりごと		
178	deep kyoto	2015年3月4日	Parasophia: A Major Festival of Art & Culture in Kyoto Starts this Week!		
179	ART iT	2015年3月5日	笹本晃&ヤン・ヴォー (Danh Vol - PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015		
180	Mikiki	2015年3月6日	「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」世界的アーティストが集結、(別の知性)を創出する展覧会		
181	鳥丸経済新聞	2015年3月6日	「京都国際現代芸術祭」開幕へー鴨川デルタ、堀川団地なども会場に		
182	みんなの経済新聞	2015年3月6日	「京都国際現代芸術祭」開幕へー鴨川デルタ、堀川団地なども会場に		
183	UnDo.net(イタリア)	2015年3月6日	Parasophia		
184	japon sans Sushi	2015年3月6日	Parasophia le festival international de culture contemporaine à Kyoto		
185	METRO	2015年3月6日	PARASOPHIA Opening Night !		
186	The Japan Times	2015年3月6日	Parasophia: Kyoto International Festival of Contemporary Culture		
187	DAVID KRUT PROJECTS	2015年3月6日	PARASOPHIA: KYOTO INTERNATIONAL FESTIVAL OF CONTEMPORARY CULTURE 2015		
188	ART iT	2015年3月6日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015		
189	IMA ONLINE	2015年3月6日	展覧会情報		
190	Lmaga.jp	2015年3月6日	やなぎみわも登場、京都国際芸術祭が開幕		
191	産経 WEST	2015年3月6日	二条城で「天女」が「ボルダンス シュールでセクシー」、古都の空に不思議な対比		
192	佐賀新聞	2015年3月6日	二条城前で「ボルダンスショー」京都国際現代芸術祭前に		
193	北海道新聞	2015年3月6日	二条城前で「ボルダンスショー」京都国際現代芸術祭前に		
194	四国新聞	2015年3月6日	二条城前で「ボルダンスショー」京都国際現代芸術祭前に		
195	西日本新聞	2015年3月6日	二条城前で「ボルダンスショー」京都国際現代芸術祭前に		
196	47NEWS	2015年3月6日	二条城前で「ボルダンスショー」京都国際現代芸術祭前に		
197	上毛新聞	2015年3月6日	二条城前で「ボルダンスショー」京都国際現代芸術祭前に		
198	静岡新聞	2015年3月6日	二条城前で「ボルダンスショー」京都国際現代芸術祭前に		
199	山陽新聞デジタル	2015年3月6日	二条城前で「ボルダンスショー」京都国際現代芸術祭前に		
200	excite. ニュース	2015年3月6日	二条城前で「ボルダンスショー」京都国際現代芸術祭前に		
201	楽天 WOMAN	2015年3月6日	二条城前で「ボルダンスショー」京都国際現代芸術祭前に		
202	Art Mag by Deutsche Bank(ドイツ)	2015年3月7日	Geschichtsstunde in Kyoto		
203	Kansai Scene	2015年3月7日	Parasophia: Kyoto International Festival of Contemporary Culture 2015		
204	artgene	2015年3月7日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015		
205	在日ノルウェー大使館	2015年3月7日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015		
206	在日フランス大使館	2015年3月7日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015		
207	yelp	2015年3月7日	展覧会情報		
208	NAVER まとめ	2015年3月7日	京都の話題の展覧会 2015「still moving」についての事前まとめ		
209	京都で遊ぼう	2015年3月7日	展覧会情報		
210	読売新聞	2015年3月7日	塔や涙 世界の感性		
211	上毛新聞ニュース	2015年3月7日	二条城前で「ボルダンスショー」京都国際現代芸術祭前に		
212	Doshin	2015年3月7日	二条城前で「ボルダンスショー」京都国際現代芸術祭前に		
213	Libération(フランス)	2015年3月8日	A Kyoto, Parasophia fait dialoguer les arts		

214	DigiStyle 京都	2015年3月8日	Parasophia Conversations 03 美術館を超える展覧会は可能か
215	REALKYOTO	2015年3月8日	パラソソフィア——京都国際現代芸術祭 2015の傍らで
216	京都イベントナビ	2015年3月8日	美術館を超える展覧会は可能か Parasophia Conversations 03
217	京都府観光ガイド	2015年3月9日	PARASOPHIA 京都国際現代芸術祭 2015 開催中です
218	SCREEN	2015年3月9日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015に協賛
219	institutfrance	2015年3月10日	PARASOPHIA 京都国際現代芸術祭 2015 開催中です
220	BLOUIN ARTINFO(アメリカ)	2015年3月11日	Review: Parasophia: Kyoto International Festival of Contemporary Culture 2015
221	web Leaf	2015年3月12日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015]についてみた!
222	clubberia	2015年3月12日	Red Bull Music Academy が東京・京都で開催されるアートフェアとコラボレーション
223	Lmaga.jp	2015年3月12日	映像表現への目覚めを PARASOPHIA で
224	goo ニュース	2015年3月12日	映像表現への目覚めを PARASOPHIA で
225	ART iT	2015年3月13日	レビュー (大館奈津子)
226	OTOTOY	2015年3月13日	菊池成孔が京都で語るマイルス
227	Lmaga.jp	2015年3月13日	限定ストア&グルメに注目! 京都芸術祭
228	OPENERS	2015年3月16日	京都初の大規模な現代アートの国際展「PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015」
229	VOGUE.com	2015年3月16日	住吉智恵の ART HOLIC 【春のアートシーズンの幕開け 編】。
230	New York Times(アメリカ)	2015年3月17日	So, Print Is Dying? Don't Tell the Magazine
231	WEB RONZA	2015年3月18日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭の衝撃
232	大阪日日新聞	2015年3月18日	大阪文化祭賞優秀賞をいただきました
233	New York Times(アメリカ)	2015年3月20日	What's On This Week Around The World 桜開花目前、京都で開催中の現代芸術祭「PARASOPHIA(パラソソフィア)」の見どころと巡り方
234	excite. ニュース	2015年3月20日	桜開花目前、京都で開催中の現代芸術祭「PARASOPHIA(パラソソフィア)」の見どころと巡り方
235	amerika	2015年3月20日	桜開花目前、京都で開催中の現代芸術祭「PARASOPHIA(パラソソフィア)」の見どころと巡り方
236	産経ニュース	2015年3月22日	中国出身の世界的芸術家が「京都の子供たちとつかった」…「民間」の提唱で生まれた「京都国際現代芸術祭」
237	きょうとあす 婦人画報	2015年3月24日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭
238	マイナビニュース	2015年3月24日	京都でアートの祭典。桜と「食べるカクテル」を楽しむ
239	Cafeglobe	2015年3月24日	京都でアートの祭典。桜と「食べるカクテル」を楽しむ
240	HAMSHAHRIIONLINE(イラン)	2015年3月25日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 レポート
241	KBS 京都	2015年3月26日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 レポート
242	京都スマイルツウシン	2015年3月26日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 レポート
243	REALKYOTO	2015年3月27日	レビュー:第1回京都国際現代芸術祭のために(福永信)
244	FASHION HEADLINE	2015年3月27日	京都現代アート祭 PARASOPHIA、一線級の作家 36 組による作品が世界から集結
245	Asahi shinbun Digital	2015年3月27日	京都現代アート祭 PARASOPHIA、一線級の作家 36 組による作品が世界から集結
246	Casa BRUTUS	2015年3月27日	青野尚子の「今週末見るべきアート」 京都で花開く現代美術の祭典。アート祭 PARASOPHIA、一線級の作家 36 組による作品が世界から集結
247	J-WAVE SELECTION	2015年3月29日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015
248	REALKYOTO	2015年3月29日	レビュー: PARASOPHIA ~ 制度を使った Engagement (高橋悟)
249	sleek THE VISUAL CONTEMPORARY (ドイツ)	2015年3月30日	"A Vulnerable Narrator": Koki Tanaka wins "Artist of the Year"
250	ARTinn	2015年3月31日	レポート
251	REALKYOTO	2015年4月1日	河本信治インタビュー1
252	artscape	2015年4月1日	レビュー (小吹隆文)
253	synodos	2015年4月3日	お上がやるのは、京都ではない——町に新しいソフトウェアを走らせる PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 組織委員会会長長谷幹雄氏インタビュー
254	ART ANNUAL ONLINE	2015年4月4日	レポート
255	TYO magazine	2015年4月5日	「菊池成孔」、マイルスを語る!——「RBMA× PARASOPHIA PS」
256	JDN	2015年4月8日	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 レビュー
257	Kansai Art Beat	2015年4月8日	これで安心! PARASOPHIA を楽しく回れるお役立ち情報
258	YOMIURI ONLINE	2015年4月12日	パラソソフィア 京都国際現代芸術祭…歴史を踏まえて現代、未来
259	artscape	2015年4月15日	レビュー (五十嵐太郎)
260	CINRA.NET	2015年4月15日	京都の国際展「PARASOPHIA シネマプログラム」が開催中、ヤン・ヨンヒ監督のトークも
261	OCULA(ニュージーランド)	2015年4月17日	Kyoto Art Guide
262	artouch.com(中国)	2015年4月17日	Parasophia 期間同時舉辦的各種活動
263	The Columbus Dispatch(アメリカ)	2015年4月19日	American Magazine is massive media
264	derStandard.at(ドイツ)	2015年4月20日	Kirschblüte, Konzeptkunst und Shinto-Schreine
265	honeyee.com	2015年4月22日	雅の都で出会う、最先端アートのショーケース。
266	New York Times(アメリカ)	2015年4月23日	Contemporary Art in Kyoto

267	CINRA.NET	2015年5月1日	作家・いしいしんじと散策する、京都で初めての「国際芸術祭」
268	forbesjapan	2015年5月3日	京都国際現代芸術祭 2015: 国際展に新風を吹き込む 匿名の動画という挑発
269	YAHOO BEAUTY	2015年5月5日	京都のアートイベントへ行ってきました! 「PARASOPHIA」編
270	マイナビニュース	2015年5月5日	京都のアートイベントへ行ってきました! 「PARASOPHIA」編
271	Tokyo Art Cruise	2015年5月6日	古都で世界の歴史に触れる—PARASOPHIA
272	bitechonews	2015年5月10日	見逃した人もこれで大丈夫!?「PARASOPHIA」作品5選
273	iOL travel(南アフリカ共和国)	2015年5月12日	Japan: lost in a dream
274	frieze(イギリス)	2015年5月15日	Parasophia
275	artscape	2015年5月15日	レポート(高嶋慈)
276	artscape	2015年5月15日	レポート(福住廉)
277	ART ANNUAL ONLINE	2015年5月21日	PARASOPHIA 来場者数を発表 目標上回る約26万人を記録
278	REALKYOTO	2015年6月12日	河本信治インタビュー 2

テレビ

1	よみうりテレビ「BEAT」	2014年1月26日	11:25-11:30 長谷幹雄氏インタビュー、イベント紹介
2	NHK 大阪「ぐるっと関西おひるまえ」	2014年2月21日	11:05-12:00 おでかけコーナー プレイベント紹介
3	NHK「ニュース京いちにち」	2015年3月6日	8:10-19:00
4	NHK「ウィークエンド関西」	2015年3月7日	7:30-8:00
5	KBS「ニュース」	2015年3月7日	
6	MBS「VOICE」	2015年3月8日	
7	KTV「ニュースアンカー」	2015年3月8日	
8	KBS「ぼじボジたまご」	2015年3月8日	
9	NHK「ニュース 845」	2015年3月9日	20:45-21:00
10	KBS「みんなの京都ふらり」	2015年3月23日	
11	NHK「ニュース京いちにち」	2015年3月25日	
12	NHK「ニュース京いちにち」	2015年3月26日	
13	KBS「ぼじボジたまご」	2015年3月30日	
14	KBS「京 biz」← 8ミニッツ→	2015年4月3日	やなぎみわインタビュー
15	NHK「日曜美術館」	2015年4月19日	9:45-
16	NHK 大阪「ぐるっと関西おひるまえ」	2015年4月30日	11:30-「たっぷり京都」
17	KBS「ぼじボジたまご」	2015年4月30日	
18	NHK「SWITCH インタビュー」	2015年5月9日	一青窈 × やなぎみわ
19	NHK「SWITCH インタビュー」(再放送)	2015年5月14日	一青窈 × やなぎみわ

ラジオ

1	α station「α -MORNING KYOTO」	2014年4月4日	14:14-
2	KBS ラジオ「和く和く京都」	2014年9月16日	14:14-
3	KBS ラジオ「桂塩鯛のサークルタウン」	2015年1月31日	11:30 頃
4	α station「KYOTO PREFECTURE PUBLIC LINE」	2015年3月2日	-6日
5	α station「α -MORNING KYOTO」	2015年3月6日	9:35-
6	FM COCOLO「AFTERNOON DELIGHT」	2015年3月12日	14:00-
7	α station「Fit for My life」	2015年3月14日	PARASOPHIA やなぎみわ特集(1)
8	α station「Fit for My life」	2015年3月15日	PARASOPHIA やなぎみわ特集(2)
9	KBS ラジオ「森谷威夫のお世話になります!!」	2015年3月17日	11時 20 分頃-(京都市美術館)12時 35 分頃-(堀川団地)
10	J-wave「Gratitude」	2015年3月25日	14:15-、14:40-、15:30- PARASOPHIA 特集
11	J-wave「J-wave セレクション」	2015年3月29日	22:00-23:00 PARASOPHIA 特集
12	FM COCOLO「THE MAJESTIC SUNDAY」	2015年4月5日	14:30- 河本ディレクターインタビュー
13	NHK ラジオ「関西ラジオワイド」	2015年4月8日	16:05-
14	α station「Fit for My life」	2015年4月12日	PARASOPHIA 特集(1)
15	α station「Fit for My life」	2015年4月19日	PARASOPHIA 特集(2)
16	α station「α -MORNING KYOTO」	2015年4月28日	9:35-
17	KBS ラジオ「いしいしんじのころがるいしのおと」	2015年4月28日	21:30-
18	α station「KYOTO AIR LOUNGE」	2015年5月5日	17:40-
19	α station「KYOTO AIR LOUNGE」	2015年5月6日	17:40-
20	α station「SUNNYSIDE BALCONY」	2015年5月6日	11:40-
21	FM802「SATURDAY AMUSIC ISLANDS」	2015年5月9日	
22	α station「relaxin' porter」	2015年5月10日	2時間の PARASOPHIA 特集、ディレクターなどへのインタビュー等

広告



メディア掲載

- ① Numéro TOKYO 京都特集
- ② OZ magazine タイアップ記事
- ③ 首都圏 FM ラジオ J-wave での特集番組、CM
- ④ 美術手帖国際版
- ⑤ intoxicate (タワーレコード) タイアップ記事
- ⑥ REAL KYOTO 編集協力
- ⑦ ART iT 特設サイト
- ⑧ KANSAI ART BEAT タイアップ記事
- ⑨ その他記者誘致 (Casa BRUTUS online、Elle online、ART BRUNO など)

京都府・市との連携

媒体	発行月	内容	紙面	発行部数
京都市政広報版	2013年12月1日～15日	プレイベント開催	B3ポスター	11,000部
京都市政広報版	3月1日～15日	芸術祭開催	B3ポスター	11,000部
府民だより	3月号	芸術祭開催	表紙、A4(1頁)	120万部
京都府広報監まゆまる	まゆまる	Twitter、LINE 告知 情報誌 go baaan への掲載		
市民しんぶん	12月号	前売券発売開始	紙面	65万部
	2月号	芸術祭開催	バナー広告	65万部
	3月号	芸術祭開催	紙面	65万部
	4月号	共汗(サポートスタッフ)	紙面	65万部
京の冬の旅	11月1日	芸術祭開催	コラム	100万部
京ごよみ	3月号	芸術祭、時の人	見開き	4万部
ふるさと連ニュース	2月号	PR 広告	1/2 頁	7千部
岡崎手帖	3月号	芸術祭開催	1/4 頁	8万部
博物館連協 「京都ミュージアムロード」	1月26日～ 3月29日	スタンプラリー	見開き	2ページ
京都ふらりー	3月23日	KBS 京都テレビ番組「ぼじボジたまご」内で放送展覧会の紹介		
フルル kansai	3月号	家族生活お楽しみサイト		
ガクシン	2月10日	フリーペーパー	1/2 面	64千部
コンビニ系 PR	1月	ローソン 35 店舗	ちらし配架	
	3月	ファミリーマート 221 店舗	ポスター掲示・ちらし配架	
JR 東海ツアーズ 京都旅行		ウェブサイト掲載		

《その他京都府・市連携》

観桜祭でのブース展示 (3/20-4/7)

2015 年春「岡崎桜回廊ライトアップ&十石舟めぐり」(2015/3/27-4/12)

京ものフェスティバル 2015 でのブース展示

京都マラソン 2015 でのブース展示

教育機関への働きかけ

チラシ・ポスター配布 (全国の大学、専門学校)

説明会開催 (京都市内各大学、京都市立堀川・西京・銅駝美術工芸高校・他市内私立高校)

大学コンソーシアムとの連携 (新入生キャンペーン等依頼)

子どもダ・ヴィンチプロジェクトと連携した広報活動 (小学校・保育所・幼稚園・児童館・学童保育所にちらし配布)

校長会 (小中高)、京都高等学校芸術文化連盟等の会合時の説明実施

交通・屋外広告

- ① バス停広告 (シティスケープ)
- ② 京都市交通局
(市バス車内広告、地下鉄車内横枠広告、指詰ステッカー、駅貼ポスター 100 枚)
- ③ JR 京都駅デジタルサイネージ (南北自由通路、京都駅地下東口マルチ 4 面)
- ④ 大阪駅西梅田コリドー ストリートジャック
- ⑤ 京阪電車、阪急電鉄 駅貼ポスター
- ⑥ 阪急電鉄 河原町駅ポスタージャック、阪急梅田駅 / 百貨店前デジタルサイネージ
- ⑦ 京阪電車、阪急電車 駅貼ポスター
- ⑧ 街中フラッグ (四条商店街、河原町商店街、祇園商店街、堀川商店街)
- ⑨ ショーウィンドー (大垣書店)
- ⑩ ヤサカタクシーリヤウィンドー広告 (200 台)

他アートイベントとの連携、出展

関東圏のアートフェアや「ROPPONGI ART NIGHT」、また「超京都」など他アートイベントなどとの相互協力を実施。



イベント

●ホテル

ハイアットリージェンシー京都、ウエスティン都ホテル京都、リーガロイヤルホテル京都、京都東急ホテル、アランヴェールホテル京都、ホテルアンテルーム京都等の市内ホテルにおいて、PARASOPHIA 宿泊プラン、コンシェルジェの紹介による誘致、ポスター掲示やチラシ配布、バーでの特別カクテル、会員へのメールニュース提供などの実施協力を得た。

●その他

京都みなみ会館において、PARASOPHIA のプロモーション映像の上映協力。
DEAN & DELUCA (flowing KARASUMA 1 階) 店内にインフォメーションコーナーを設置。会期中にはオリジナルメニューを開発・販売協力。また、ブックストアでも PARASOPHIA オリジナルクッキーを販売。

JAL 京都支店の協力により、「閑空さくらラウンジ」にチラシの設置。



PARASOPHIA サポートスタッフセンター運営事業

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 では、京都芸術センター内に PARASOPHIA サポートスタッフセンターを開設し、さまざまな場面で PARASOPHIA を応援し、一緒に盛り上げていただくサポートスタッフを募集・養成した。

1 PARASOPHIA サポートスタッフセンターの設置

- (1) 設置場所 京都芸術センター
- (2) 開設日時 平成 26 年 7 月 1 日

2 募集説明会

- (1) 募集説明会 全 11 回開催
- (2) 出張説明会 全 7 回開催(京都市立芸術大学、京都造形芸術大学、京都嵯峨芸術大学、京都外国語大学、成安造形大学、同志社大学)

3 養成研修会

- (1) 勉強会 全 6 回
- (2) ガイドツアースタッフ研修会 全 6 回
- (3) 英語研修 全 3 回
- (4) 車いす研修 全 3 回
- (5) 接遇研修 全 2 回
- (6) 普通救命講習 全 1 回

4 活動概要

- (1) 会期前
 - ・ オープンリサーチプログラム等のイベントサポート
 - ・ PR 活動サポート
 - ・ 郵送物発送作業
 - ・ 作品制作に関わる文献整備作業、文字起こし
 - ・ 設営期間中の会場サポート など

- (2) 会期中
 - ・ 案内・誘導
 - ・ 会場監視補助
 - ・ レンタサイクル運営
 - ・ シェルパ活動(鑑賞サポート)
 - ・ シェルパツアー(ガイドツアー)

毎週土・日、京都市美術館にて実施。特別編として、目の見えない人、見えにくい人、見える人がともに巡る鑑賞ツアーを実施(4月12日、5月2日 協力:ミュージアム・アクセス・ビュー)。

※シェルパとは、登山の際、隊の一員として荷物運搬やガイドなどを務め、最後は見送って登山する人を山頂に送り出すひとのこと。PARASOPHIA では、作品や作家の紹介、鑑賞サポートを行うスタッフを「シェルパ」と名付けた。

5 ボランティアの登録者数及び活動実績

- (1) 登録人数: 417 名
うち活動参加人数: 258 名(62%) (延人数 1,348 名)

※京都芸術センター会場のアーノウト・ミック展については、京都芸術センターのボランティアスタッフが会場監視として活動した。(登録人数: 274 名)

(2) 登録者データ

- ・男女比
女性: 329 名(79%)、男性: 88 名(21%)
- ・居住地
京都府: 268 名(64%)、大阪: 75 名(18%)、滋賀県: 32 名(8%)、兵庫県: 19 名(5%)、奈良県: 8 名(2%)、その他: 15 名(4%) (北海道、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、静岡県、愛知県、三重県、岡山県、ドイツ)
- ・年齢層
10代: 52 名(13%)、20代: 210 名(50%)、30代: 69 名(17%)、40代: 33 名(8%)、50代: 21 名(5%)、60代: 30 名(7%)、70代: 1 名(0.2%)、80代: 1 名(0.2%) (平均年齢: 33 歳)
- ・職業
学生: 206 名(49%)、会社員: 68 名(16%)、主婦: 19 名(5%)、パート・アルバイト: 16 名(4%)、自営業: 3 名(1%)、その他: 105 名(25%)



6 アンケート結果(回答数 55)

(1) 活動回数(会期前、会期後含む)

1回:7% 2~5回:47% 5~10回:20% 11回以上:26%

(2) サポートスタッフとして活動して

よかった:93% 期待したほどでもなかった:4% 思っていた内容と違ったのであまり活動しなかった:2% 予定が合わず活動できなかった:2%

(3) 感想(抜粋)

(サポートスタッフとしての活動について)

- ・多くのアウトリーチプログラムの企画と実践が、本芸術祭のコンセプトを表象する優れた回答でもあり、京都に立地した現代芸術祭というプラットフォームの創出という意図に恥じないすばらしい成果を提出できたと思う。そのプロセスを体験し、ごく微細な一助を担えたことが大きな幸せである。
- ・シェルパツアーにリピートして参加頂けた方がおられたことが印象に残っている。1日券を買って入ったが、映像をじっくり見ようとパスポートを買われて、6時間のダグラスとキャルタンソン以外はほとんど全部見たという方がおられた。
- ・作品についての、少しの説明だけでも来場者に伝えるか否かで、その作品を鑑賞される時間や見方が変わることが、とても印象に残っている。
- ・国際現代芸術祭ということで留学生などのサポートスタッフと活動できたことがよかった。
- ・サポートスタッフとして活動することで、作品をいろいろな角度から見る事ができたこと、作家の方の背景や意図など知ることが出来たので、今までよりも深く作品を読みとることができて楽しかった。
- ・色々な年齢層の方々とアートをテーマに話すことができ、アート仲間ができたことがよかった。
- ・それぞれの特技、体力、好みなど様々なので、スポット的に活動できるプロボノ的なサポート体制があってもよかったと思う。
- ・勉強会や研修会の開催など、その場限りではないボランティアのためにという取組みが非常に良かったと思う。逆に何をどう活動するのかということが、特に事前には不明瞭であり、戸惑いもあったように思われる。
- ・ガイドツアーについて、対話型ツアーというまでには至らなかった。日本では対話型ツアーがあまりないので、メディアーター側もお客様側もほとんど経験がなかったこともあるのかも知れないが、このためには、PARASOPHIA だけでなく、普段の美術館やその他のアートイベント等の中で、もっとこの対話型を取り入れてゆくことによって、アーティストだけでなく、特に地域のその他の人々も重要な主演者であることの認識が高まるものと考えている。
- ・「一緒に楽しむボランティアスタッフであり、気軽にはなしかけてOKですよ」とわかるような工夫がもう少し欲しかった。



(PARASOPHIA 全体について)

- ・大学生がスタッフとして参加できる場を作っていた。ボランティアであるからこそ損益を期待せずにこの芸術祭を楽しむことができ、学びの場として大学の授業だけでは得られない経験をして、現代芸術を実社会に創出することの意義を考えることができた。
- ・数よりも質(自力で鑑賞しようという覚悟を持ってきてくださいねといったような)を求めているような姿勢を感じた。誰にでもわかりやすくするのが当然のようなご世に、新鮮で、ある意味潔いことだ。
- ・よい意見も厳しい批評もすべて糧として、さらに独自の路線を貫く京都現代芸術祭であり続けたい。むしろ、厳しい批判があるとしてもそちらの方が大いに参考になるので、積極的に現状分析を行い、是非次もさらに「あっと驚く京都市」芸術祭を実現したいです。助力は惜しみませんから!
- ・PARASOPHIA は、他の現代芸術祭との徹底した違いを際立たせることができたと思う。今回特に PARASOPHIA ルームの存在は重要だ。作品を見るだけでなく、作品を読み解くためのレクチャー等のイベントは特に現代アートの場合重要で、作品や作者の資料室(コーナー)のような場所が設けられるともっと魅力的になる。
- ・分野・種類と共に「なんでもあり」で、取り組み方や発想がこれでもかというくらいに違うものが、いい形で融合していたと思う。先入観だけで毛嫌いしたりせず、一度は近づいてみればいい、好き嫌いを言うのはその後で!というような催事でした。
- ・交通機関との連携がなかったのが残念。各会場をまわるシャトルバスを運行してほしかった。全体的に案内が足りない。
- ・作品だけでなく各会場の巡り方にも、少し難解でとつきにくい『京都らしさ』のようなものも感じて、ニヤリとさせられた。「難しかったけれどもう一回行ってみよう」と思わせる要素があったように思う。
- ・無料スペースを設けたのはとてもよかったが、美術館の外からだど、どんな展示をしているのかよくわからないのももったいなかった。PARASOPHIA というものが一体なんなのか、京都の市民のみならず、もっとわかりやすい言葉で伝えるもの、機会があればよかったと感じた。
- ・シェルパツアーという新しい概念を提案してくださったことで、作品にかかわる原作本や映画を見て理解を深めたり、感想を共有するための工夫をするなど、現代アートのかかわり方が根本的に変わった。



会場別来場者数

会場名	来場者数
京都市美術館	123,783名
京都府京都文化博物館	21,432名
京都芸術センター	9,421名
堀川団地	8,567名
鴨川デルタ	85,779名
河原町塩小路周辺	15,236名
合計	264,218名

※京都市美術館の来場者数には、無料エリアの来場者を含む。

※京都府京都文化博物館の来場者数には、シネマプログラムの来場者数を含む。

※鴨川デルタの来場者数は、10時から18時までの00分と30分の音声が行われている間に、鴨川デルタ及び両側の河川敷に目視で確認できる人数を集計。

※大垣書店鳥丸三条店、京都BAL会場は、通行人との判別が困難なため集計せず。

主催・共催イベント来場者数

年度	項目	開催回数等	人数	
2013年度	オープンリサーチプログラム(01～06)	6回	1,011名	7,681名
	プレイベント【作品展示】			
	ウィリアム・ケントリッジ《時間の抵抗》	2/8 - 3/16	5,848名	
	ウィリアム・ケントリッジ関連イベント	2回	680名	
	アクセスプログラム	4回	142名	
2014年度 (会期前)	オープンリサーチプログラム(07～13)	10回	898名	2,328名
	アクセスプログラム	5回	282名	
	コミュニティプログラム	1回	106名	
	Parasophia Conversations	2回	187名	
	子どもダ・ヴィンチプロジェクト (ワークショップ)	12回	201名	
	その他	7回	654名	
	内覧会	1回	851名	
2014年度 - 2015年度 会期中	レセプション	1回	810名	1,661名
	アクセスプログラム	4回	128名	
2015年度 会期中	Parasophia Conversations	4回	239名	6,765名
	子どもダ・ヴィンチプロジェクト(ワー クショップ)	18回	434名	
	その他	68回	5,964名	
2015年度 会期後	オープンリサーチプログラム	1回	131名	212名
	Parasophia Conversations	1回	81名	
合計			18,647名	

経済波及効果

39億3,100万円(経済波及効果推計値)

※ 展覧会チケット販売収入及びカタログ等物販収入 直接効果額 54,823,749円

※ 観光消費額(市内交通費、宿泊代、土産品代、食事代、その他)一人当たり13,706円

間接効果額 13,706円×282,865人(264,218+18,647) = 3,876,947,690円

(観光消費額は「2014年京都観光総合調査」に基づき算定)

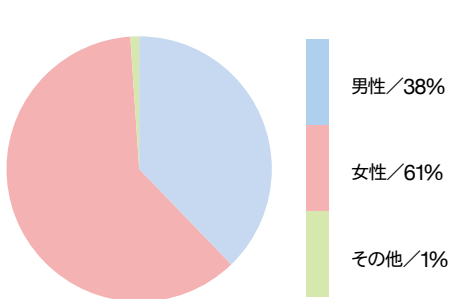
アンケート調査結果

実施期間：3月7日(土)～5月10日(日)

調査方法：会場でのアンケートへの回答(日本語のみ)

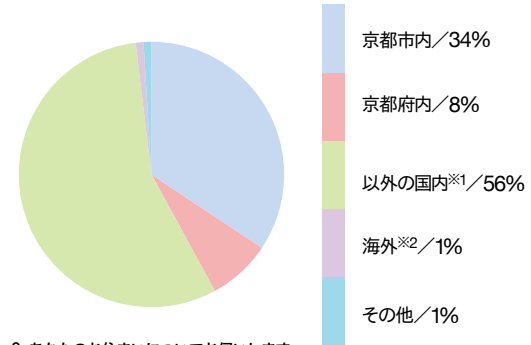
実施場所：京都市美術館、京都府京都文化博物館、堀川団地会場

有効回答数：1,681件



1. あなたの性別についてお伺いします。

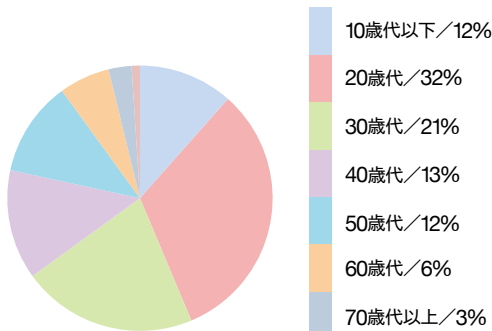
性別	人数	割合
男性	635	37.8%
女性	1,028	61.2%
その他	18	1.1%
計	1,681	100.0%



3. あなたのお住まいについてお伺いします。

住所	人数	割合	性別		
			男性	女性	その他
京都市内	577	34.3%	190	386	1
京都府内	130	7.7%	49	80	1
以外の国内※1	942	56.0%	391	548	3
海外※2	16	1.0%	4	11	1
その他	16	1.0%	1	3	12
計	1,681	100.0%	635	1,028	18

※1：「京都府以外内訳」参照 ※2：「海外内訳」参照



2. あなたの年齢についてお伺いします。

年齢	人数	割合	性別		
			男性	女性	その他
10歳代以下	194	11.6%	52	141	1
20歳代	540	32.1%	166	372	2
30歳代	359	21.4%	140	217	2
40歳代	225	13.4%	93	132	0
50歳代	195	11.6%	98	97	0
60歳代	104	6.2%	52	52	0
70歳代以上	47	2.8%	34	13	0
不明	17	1.0%	0	4	13
計	1,681	100.0%	635	1,028	18

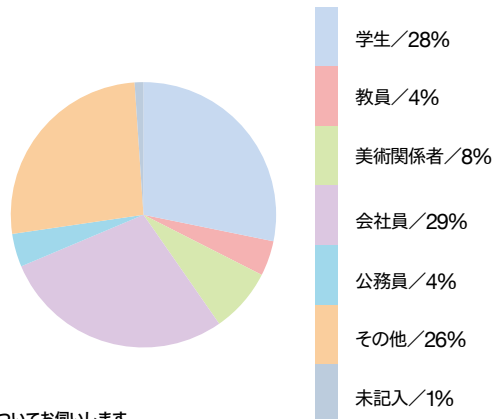
※1 京都府以外内訳

都道府県名	人数	男性	女性	その他
大阪府	279	135	144	
東京都	129	50	79	
兵庫県	92	30	62	
滋賀県	75	25	49	1
愛知県	54	22	32	
奈良県	49	19	30	
神奈川県	32	16	15	1
三重県	15	6	9	
広島県	14	6	8	
岐阜県	12	7	5	
埼玉県	9	3	6	
和歌山県	8	6	2	
岡山県	8	2	6	
山口県	6	2	4	
静岡県	6	2	4	
富山県	6	1	5	
新潟県	6	2	4	
茨城県	6	0	6	
福岡県	5	1	4	
群馬県	4	1	3	
福井県	4	3	1	
熊本県	4	3	1	
千葉県	3	2	1	
長野県	3	2	1	
香川県	4	1	3	
大分県	3	1	2	
徳島県	2	2	0	
愛媛県	2	1	0	1
石川県	3	1	2	
宮崎県	2	1	1	
鹿児島県	2	1	1	
山梨県	1	1	0	
宮城県	1	1	0	
山形県	1	1	0	
北海道	1	2	0	
未記入	90	32	55	0
合計	941	391	545	3

※2 海外内訳

国名	人数	男性	女性
フランス	2	2	
イギリス	3	1	2
中国	1	1	
韓国	1		1
カナダ	1	1	
フィンランド	1		1
アルゼンチン	1		1
オーストラリア	1		1
未記入	4		4
合計	15	4	11

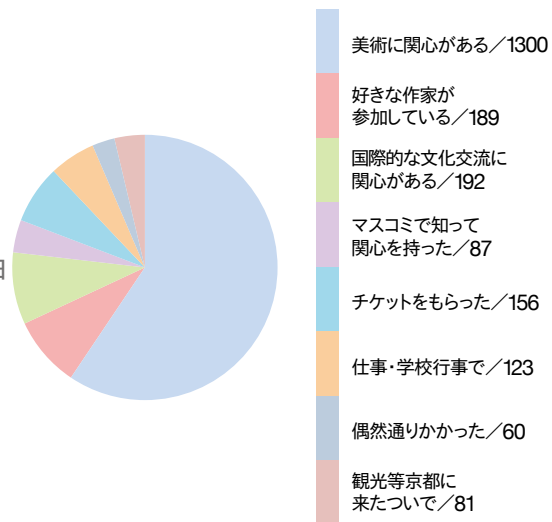
職業



4. あなたの職業についてお伺いします。

職業	人数	割合	男性	女性	その他
学生	474	28.2%	144	327	3
教員	72	4.3%	33	38	1
美術関係者	132	7.9%	49	83	0
会社員	476	28.3%	221	255	0
公務員	68	4.0%	39	29	0
その他	441	26.2%	148	291	2
未記入	18	1.1%	1	5	12
計	1,681	100.0%	635	1,028	18

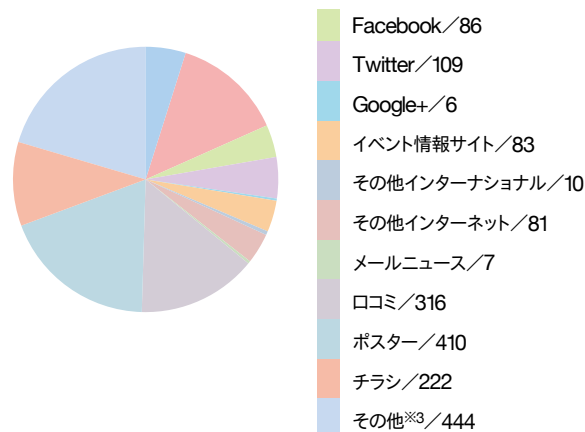
来場理由



6. 来場された理由についてお伺いします。(複数回答有り)

理由	計	割合	男性	女性	その他
美術に関心がある	1,300	59.4%	477	818	5
好きな作家が参加している	189	8.6%	54	134	1
国際的な文化交流に関心がある	192	8.8%	62	129	1
マスコミで知って関心を持った	87	4.0%	38	49	0
チケットをもらった	156	7.1%	45	110	1
仕事・学校行事で	123	5.6%	49	73	1
偶然通りかかった	60	2.7%	30	30	0
観光等京都に来たついで	81	3.7%	31	49	1
計	2,188	100.0%	786	1,392	10

情報源

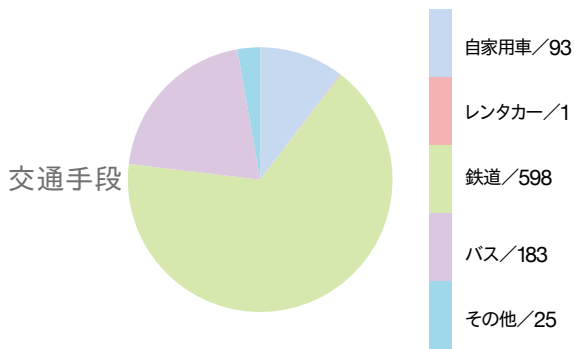


5. この芸術祭について、何でお知りになりましたか。【複数回答有り】

情報源	計	割合	男性	女性	その他
新聞	106	4.9%	52	54	0
公式ウェブサイト	292	13.5%	147	145	0
Facebook	86	4.0%	40	46	0
Twitter	109	5.0%	36	73	0
Google+	6	0.3%	3	3	0
イベント情報サイト	83	3.8%	43	40	0
その他国際的	10	0.5%	4	6	0
その他インターネット	81	3.7%	37	44	0
メールニュース	7	0.3%	3	4	0
口コミ	316	14.5%	111	204	1
ポスター	410	18.9%	143	265	2
チラシ	222	10.2%	79	141	2
その他 ※ 3	444	20.4%	155	287	2
計	2,172	100.0%	853	1,312	7

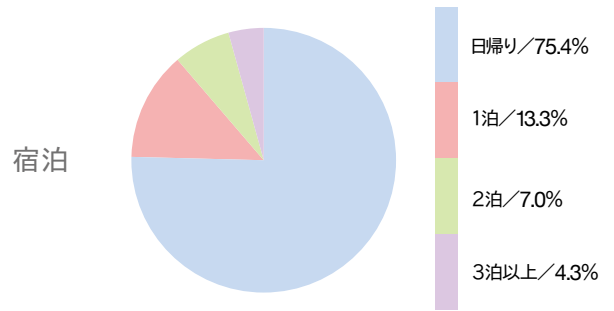
※3 その他内訳

項目	男性	女性	その他
学校	117	28	89
知人・家族	106	34	71
その他 SNS	14	0	14
テレビ	14	6	8
ラジオ	12	9	3
Instagram	8	6	2
友の会	7	4	3
京都市・京都府広報	4	1	3
雑誌	7	4	3
ギャラリー	2	2	0
京都芸術センター	2	0	2
招待状	2	0	2
スポンサー	2	1	1
店舗	2	0	2
プレイベント	2	0	2
ART GRID KYOTO	1	1	0
DEAN & DELUCA	1	0	1
Guide du Routart	1	1	0
traveling coffee	1	0	1
駅	1	0	1
関係者等	1	1	0
観光情報	1	0	1
喫茶 あし島	1	0	1
京都ビジターセンター	1	0	1
経済同友会会員	1	1	0
市バス	1	1	0
ドイツ会館	1	0	1
パラ人	1	0	1
原美術館	1	1	0
フィールドワーク	1	1	0
フォルジュルネ 白夜祭	1	1	0
文博	1	0	1
ボランティア	1	0	1
ヨコハマトリエンナーレ	1	0	1
るるぶ	1	0	1
その他	25	13	11
未記入	98	39	59
合計	444	155	287



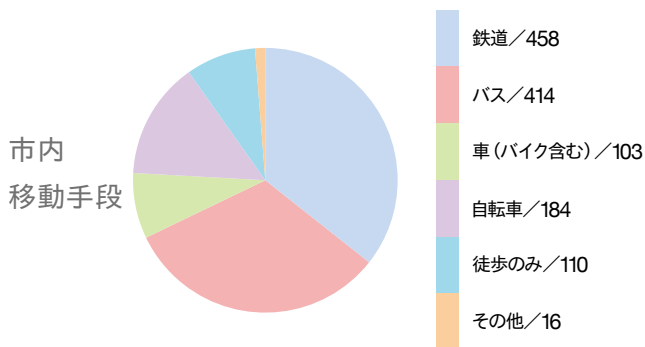
7. 京都にはどのような交通手段で来られましたか。(複数回答有り)

	計	割合	男性	女性	その他
自家用車	93	10.3%	38	54	1
レンタカー	1	0.1%	1	0	0
鉄道	598	66.4%	209	383	6
バス	183	20.3%	51	132	0
その他	25	2.8%	6	19	0
計	900	100.0%	305	588	7



9. 市内で宿泊されましたか。

	計	割合	男性	女性	その他
日帰り	561	75.4%	200	355	6
1泊	99	13.3%	40	58	1
2泊	52	7.0%	17	35	0
3泊以上	32	4.3%	16	16	0
計	744	100.0%	273	464	7



8. 京都市内での主な移動手段についてお伺いします。(複数回答有り)

	計	割合	男性	女性	その他
鉄道	458	35.6%	151	303	4
バス	414	32.2%	128	280	6
車(バイク含む)	103	8.0%	40	63	0
自転車	184	14.3%	56	126	2
徒歩のみ	110	8.6%	58	51	1
その他	16	1.2%	10	5	1
計	1,285	100.0%	443	828	14

関連事業

琳派 400 年記念祭プレフォーラム in 京都
～琳派の美意識。未来へ～

日時 2013年10月6日(日) 13:00～17:00
 場所 龍谷大学アバンティ響都ホール
 参加者数 400名
 内容
 第1部 基調講演 高階秀爾
 第2部 パネルディスカッション 司会 山本容子
 河野元昭 河本信治 コシノジュンコ 佐々木丞平 高階秀爾
 辻惟雄 芳賀徹(ビデオ出演) 細見良行 森口邦彦
 第3部 交流会

高階秀爾・大原美術館長の基調講演の後、パネルディスカッションが行われ、河本信治アーティストックディレクターのほか、河野元昭・秋田近代美術館長、ファッションデザイナーのコシノジュンコさんら9人が登壇。伝統を受け継ぎながら新しい表現を生み続ける琳派の創造性や、生活の隅々に行き渡る琳派の魅力を語り合っていた。なお、定員400名に対し、一般の方からの申し込みが1,400人となり、関心の高さが実感された。



琳派 400 年記念 新鋭選抜展
～琳派の伝統から、RIMPA の創造へ～

京都を中心に活動する、新進若手作家を紹介し、作家が創造するみずみずしい作品を京都から積極的に発信。2015年は「琳派400年記念祭」の開催の年にあたることから、京都が生んだ「琳派」の美意識や精神を作家が現代の感性で解釈し、新しい表現をめざした。会期：2015年1月24日(土)～2月8日(日)
 会場：京都府京都文化博物館 4階特別展示室及び別館ホール
 主催：京都府、京都文化博物館、京都国際現代芸術祭組織委員会
 後援：京都新聞、朝日新聞京都総局、毎日新聞京都支局、読売新聞京都総局、産経新聞社京都総局、日本経済新聞社京都支社、NHK 京都放送局、KBS 京都、エフエム京都、京都商工会議所、京都日本画家協会、京都工芸美術作家協会、京都彫刻家協会

入場者数：30,400人
 本展(4階、有料スペース) 9,997人(1日平均714人)
 特別出品(別館、無料スペース) 20,403人(1日平均1,457人)
 出品作家：
 秋山はるか、井浦崇 × 大島幸代*、石塚源太*、植葉香澄、瓜生祐子*、小川直樹、賀門利誓、川本明香、菅かおる、酒井雅恵、塩見友梨奈、鄭炳蜜、勢藤明紗子、高石麻代、高木智子、谷澤紗和子、ツツミアスカ、唐仁原希、富倉崇嗣、外山寛子、中村牧子、檜木野淑子、二階武宏、野嶋革、羽田田優子、服部しほり、馬場晋作、人長果月*、メリンダ・ヒール、福山竜助*、松村綾香、松本圭祐、宮田彩加、宮永亮、村田彩、森絵実子、山下萌、山下裕美子、山地咲希、山本雄教、吉岡千尋*、吉田翔、吉田美希子、渡邊操
 (*印は平成25年度京都府美術工芸新鋭展受賞者)
 特別出品作家：
 椿昇(つばき・のぼる) コンテンポラリー・アーティスト

- 関連イベント：
- 1 椿昇氏(特別出品作家)によるアーティストトークと音楽会
日時：1月25日(日)
 - 2 出品作家によるギャラリートーク
日時：1月31日(土)、2月7日(土)
 - 3 別館二階から特別出品作品を見よう! ツアー
日時：2月1日(日)、8日(日)



ART GRID KYOTO ～交錯する文化～

「PARASOPHIA：京都国際現代芸術祭 2015」の開催期間に合わせ、京都のまち全体が文化芸術で盛り上がるよう、京都文化芸術コア・ネットワークの若手メンバーが中心となって、京都の文化芸術に関する様々な事業を一体的に発信し、国内外から訪れる多くの方々に、現代芸術祭と併せて、伝統芸能、音楽、美術、舞台芸術など、幅広い京都の文化芸術に触れていただくためのプロジェクトとして実施。

プロジェクト名の GRID とは、格子状を意味する。基盤の目状の街区と、多種多様な文化芸術が相互に影響し、交錯しながら交流や創造を行ってきた京都の特徴と、情報の集積と発信を行っていく本プロジェクトの趣旨を表現している。

内容

(1) 広報誌「ART GRID KYOTO ～上ル、下ル、結ブ～」

普段、文化芸術に触れる機会の少ない方々にも関心を持っていただけるよう、情報収集を行い、伝統芸能、音楽、美術、舞台芸術など様々なジャンルの文化芸術事業を紹介した。
(主な掲載事業(全 19 事業))

- ・ PARASOPHIA：京都国際現代芸術祭 2015 (現代芸術)
- ・ KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2015 (写真)
- ・ Sound Exhibition 2015 ～音の展覧会～ (音楽)
- ・ 劇場的春、京都 (演劇)
- ・ 第 143 回都をどり (伝統文化) ほか 14 事業
(有名アーティスト等による京都案内)
- ・ アート・リンゼイ 私の京都幻想
- ・ 高谷史郎がしゃべる！京都今昔物語
- ・ 宮永愛子のおふる日和 など

発行部数：30,000 部

発行時期：2015 年 2 月、4 月

型式：A5 版 48 ページ

対応言語：日英

配布場所：京都府内および関西圏、首都圏の情報発信可能な施設に配布

(2) MAP の発行

現代芸術祭の会場を軸に、同時期開催のイベント会場や、様々な文化芸術に関する拠点、カフェ、レストラン、宿泊施設など多彩な京都の魅力にアクセスできる MAP を発行した。

発行部数：100,000 部

発行時期：2015 年 2 月、4 月

型式：A2 版 オモテ 3 色ウラ 4 色

設置方法：PARASOPHIA ガイドブックに挟み込み

広報誌とのセット配布、単独配布。

(3) ホームページの開設

京都市内の文化芸術拠点を中心に、ホテル、飲食、物販など、プロジェクトメンバーが独自の視点で収集した、京都のスポットや文化芸術拠点を巡るツアーやレクチャーなどの情報を掲載。

○主なコンテンツ

ウェブ版マップ

厳選ツアー (特設ページ)

ニュース

○メディア連携

ウェブ上において地元メディアを中心としたメディア連携を実施

(KANSAI ART BEAT、Real Kyoto、音読、RAD、SHAKE ART!)



(4) ビジターセンターの開設

京都を拠点に活動する若手アーティスト「Antenna」の作品を使用したアート感覚あふれるビジターセンターを中京区木屋町の元立誠小学校内に開設し、実施期間中のイベント情報などの案内所とした。

(5) ツアー、レクチャーの開催

ウェブサイトなどで発信するだけでなく、同時期に開催する様々な文化事業や拠点を結ぶツアーや、レクチャーを市内各所で随時開催。

参加者数

(1) 自主事業 (総動員数 10,676 名)

イベント事業	計 8 回 / 延動員数	573 名
ツアー事業	計 5 回 / 延動員数	84 名
ビジターセンター	動員数	10,019 名
合計		10,676 名

(2) ART GRID KYOTO 実施期間中の同時期開催事業 (総動員数 194,057 名)

事業名	
KYOTOGRAPHIE	
KG +	
劇場的春、京都	
第 0 回全国学生演劇祭	
KYOTO OFF 2015	
超京都 artkyoto2015	
京都アートマップ	
Sound Exhibition 2015 ～音の展覧会	
京都銭湯芸術祭二〇一五	
いつまでも世界は	
第 143 回都をどり「花都琳派染模様	
京都観世会例会	
先斗町思い出ヒアリングパネル展	
第 2 回京都ふるどうぐ市	
第 20 回京都国際ダンスワークショップフェスティバル	
合計	



*重複事業を省く

227,833

連携事業

PARASOPHIA はさまざまな組織と連携し、京都ならではの魅力を発信するため、広く展開した。

特別連携事業

来場者数

■京都市立芸術大学 「still moving」

2015年3月7日(土)～5月10日(日)

①元・崇仁小学校会場：

12:00～18:00(会期中の金・土・日・祝・4/30(木)のみ開場)

②京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 会場：

11:00～19:00(月曜日休館、5/4開館、5/7休館)

主催：京都市立芸術大学

京都市立芸術大学の「移動」を契機として、国内外のアーティストが集い、この地域に入っていき「第一歩」としてのプロジェクト。多面的に社会が国際化し、個々の文化への意識はますます高まりを見せる中で、日常の様々な場面で越境・移動を実感せざるを得ない現代。優れた伝統を継承しながら常に新しい芸術文化を生き育んできた京都で、国際的な芸術文化都市とは何か、また大学と地域のあり方を探った。

①元・崇仁小学校 4,016人
②ウィークエンドカフェ 2,600人
③ギャラリー@KCUA 3,760人



10,376

■京都芸術センター

展覧会ドラフト 2015 川村麻純「鳥の歌」

2015年3月7日(土)～5月10日(日) 10:00～20:00

会場：京都芸術センター

主催：京都芸術センター

「いま求められる展覧会とは？」という命題をもとに展覧会企画を公募する「展覧会ドラフト」を実施し、PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭アーティストディレクター河本信治により選定された写真家・川村麻純が展覧会を実施。



9,921

■京都造形芸術大学

①ARTOTHÈQUE

2015年2月20日(金)～5月17日(日)

②環境デザイン学科プロジェクト

2015年3月7日(土)～5月10日(日)

会場：堀川団地上長者町棟

主催：京都造形芸術大学

PARASOPHIA 京都国際現代芸術祭 2015 のアウトリーチ会場として、3月7日～5月10日の間「京都市芸術廉価中心-KYOTO OUTLET ART CENTER」がオープン。その2階の1部屋を Artothèque Gallery として、これからの活躍が期待される若手作家たちによる毎週個展を週替わりで開催した。



2,387

■ヴィラ九条山

[セミナー]「継承と伝達：生成的未來知にむけて」

2015年4月22日(水)

9:30-12:30 会場：ヴィラ九条山

15:00-18:00 会場：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

4月23日(木)

14:00-16:00 会場：PARASOPHIA ルーム

主催：ヴィラ九条山

共催：京都市立芸術大学

いかなる芸術作品も継承された伝統や遺産なくしては語れない。フランスと日本の作家、大学関係者らによる3回のセミナーを通し、様々な継承の形を歴史的な観点から検証し、現代におけるその意義の広がりを探る。



116

■京都国立近代美術館

Curatorial Studies 08

フロリアン・ブムヘル x MoMAK

日本のダダ雑誌『マヴォ』研究：その翻訳の可能性

2015年3月8日(日) 13:00-14:30

会場：京都国立近代美術館 講堂

主催：京都国立近代美術館

美術家・フロリアン・ブムヘルとの協働により、村山知義(1901-1977)らを中心に結成された近代日本ダダ運動のグループの機関誌『マヴォ』(1924-25)の研究プロジェクトを立ち上げた。今回はプロジェクトの第一弾として、PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015 での新作のために、ブムヘルが行った近代日本前衛運動に関する調査の報告を行い、彼が目する『マヴォ』の特質を浮かび上がらせたうえで、その翻訳の可能性と不可能性について検証した。



26

合計

22,826

特別連携事業+その他の連携事業 合計

その他の連携事業

来場者数

<p>〈展覧会〉 ■フジフィルム・フォトコレクション「私の1枚」日本の写真史を飾った巨匠101人 3月5日(木)～5月17日(日)10:00-18:00 会場：細見美術館 主催：細見美術館</p>	8,563
<p>■横山裕一(これをネオ壁面と呼ぶ) 集合する名士とけもの 壁面(映像上映)3月6日(金)～5月31日(日)18:00-21:00 展示 3月7日(土)～5月31日(日)10:00-18:00 会場：京都国際マンガミュージアム 主催：京都国際マンガミュージアム</p>	68,795
<p>■榎本耕一個展「超能力日本」 3月6日(金)～5月11日(月)24時間鑑賞可能 会場：HAPS オフィス1F 主催：東山アーティスト・プレイズメント・サービス実行委員会(HAPS)</p>	—
<p>■観光 KANHIKARI ART EXPO 2015 ～日本の美とこころ～ 高台寺：3月6日(金)～5月6日(水)9:00-22:00 御寺泉涌寺・東本願寺涉成園(釈穀邸)：4月27日(月)～5月6日(水)9:00-16:30 主催：観光実行委員会</p>	175,000
<p>■KYOTO 駅ナカアートプロジェクト(地下鉄駅構内に9大学の作品展示) 3月7日(土)～5月31日(日) 会場：国際会館、松ヶ崎、北大路、五条、くいな橋、柳辻、東山、京都市役所前、二条城前、太秦天神川 各駅構内 主催：KYOTO 駅ナカアートプロジェクト実行委員会(構成団体/参加9大学、京都市(交通局、文化市民局))</p>	—
<p>■“馨(かおり)の都”京とパリが創る5つの香りアート「日仏学生交流」「山本直樹WS」 3月7日(土)～5月10日(日) 会場：堀川出水団地第3棟 未来と記憶のプロジェクト 5月1日(金)～5月10日(日)12:00-18:00 会場：堀川出水団地第3棟318号 主催：京都嵯峨芸術大学 味と匂い研究会</p>	700
<p>■現代京都藝苑2015 「悲とアニマー—モノ学・感覚価値研究会」展 会場：北野天満宮 3月7日(土)～3月14日(土)9:00-17:00(3月12日(木)のみ12:00-17:00) 「素材と知覚—「もの派」の根源を求めて」展 会場：虚白院、遊狐草舎 3月7日(土)～3月22日(日)10:00-17:00 「連続の縫れ—conti/nuit/é」展 会場：The Terminal KYOTO 3月7日(土)～3月22日(日)11:00-18:00 「記憶の焼結—conti/nuit/é」展 会場：五条坂京焼登り窯(旧藤平) 3月7日(土)～4月12日(日)12:00-18:00 主催：現代京都藝苑実行委員会</p>	1,319
<p>■ULTRA x ANTEROOM exhibition 2015 3月7日(土)～5月10日(日)12:00-19:00 会場：ホテル アンテルーム 京都 主催：ホテルアンテルーム京都</p>	4,893
<p>■白川野外美術展 2015 3月8日(日)～3月22日(日)9:00-17:00 岡崎～三条～知恩院 を流れる白川の川の中に作品展示 主催：京都彫刻家協会</p>	21,000
<p>■真下武久 para-motion 3月30日(月)～5月9日(土)12:00-18:00 会場：成安造形大学【キャンパスが美術館】 主催：成安造形大学【キャンパスが美術館】</p>	1,108
<p>■超京都 artkyoto2015 4月24日(金)17:00-20:00、4月25日(土)10:00-19:00、4月26日(日)10:00-17:00 会場：京都文化博物館5階全室、ちおん舎 主催：超京都 art kyoto 2015 実行委員会</p>	3,500
<p>■NPO 法人障害者芸術推進研究機構「天才アートミュージアム展 2015」 4月2日(木)～4月14日(火)11:00-18:00 会場：堀川御池ギャラリー ＊シンポジウム：4月12日 会場：堀川音楽高校音楽ホール 主催：特定非営利活動法人障害者芸術推進研究機構</p>	1,077
<p>■桑原櫻子 x 近藤高弘「水生華」 5月9日(土)～5月10日(日)11:00-17:00 会場：富春軒(桑原専慶流家元) 主催：桑原専慶流</p>	450
<p>■三瀬夏之介 「日本の絵～執拗低音～展」 4月7日(火)～4月26日(日) 会場：京都市美術館別館 主催：京都市美術館</p>	1,627
<p>■KYOTO ART MAP「街をめぐる、アートに出会う」ギャラリー周遊型アートイベント 会期中に21ギャラリーが展覧会を開催 主催：KYOTO ART MAP</p>	4,200
合計	292,232

315,058

収支報告

収入の部

単位：千円

科目	25年度	26年度	27年度	合計
前年度繰越金	0	5,260	0	-
寄付金・協賛金	23,500	101,510	85,727	210,737
府市支出金(国庫含む)	33,000	209,208	9,000	251,208
事業収入・助成金	4,291	21,078	42,080	67,449
合計	60,791	337,056	136,807	529,394

支出の部

単位：千円

科目	25年度	26年度	27年度	合計
事業費	27,173	283,941	112,517	423,631
展示会作品製作費	15,924	155,936	47,385	219,245
展示会場経費	0	14,589	16,375	30,964
展示会場運営費	0	24,855	24,513	49,368
レクチャー・イベント経費	3,757	8,247	2,976	14,980
広報宣伝・印刷製本費	5,524	54,045	12,665	72,234
関連事業費	1,968	26,269	8,603	36,840
事務局経費	28,358	53,115	24,290	105,763
合計	55,531	337,056	136,807	529,394
次年度繰越金	5,260	0	0	0

※平成27年度は8月31日における予想収支を記載

運営組織

[京都国際現代芸術祭組織委員会]

名誉総裁

三笠宮彬子女王 (就任期間：平成 27 年 3 月 6 日～5 月 10 日まで)

会長

長谷幹雄 (京都経済同友会特別幹事)

副会長

門川大作 (京都市長)

山田啓二 (京都府知事)

評議員

荒巻禎一 (京都文化財団理事長)

斎木宣隆 (国際交流基金京都支部長)

佐々木雅幸 (文化庁文化芸術創造都市振興室長)

白石方一 (京都新聞ホールディングス代表取締役社長)

建畠哲 (京都市芸術文化協会業務執行理事)

寺井友秀 (日本放送協会京都放送局長)

増田寿幸 (京都経済同友会代表幹事)

幹事

在田正秀 (京都市教育委員会教育長)

岡田秀人 (京都市観光協会専務理事)

小田垣勉 (京都府教育委員会教育長)

門道夫 (京都府観光連盟専務理事)

金谷宗子 (京都府文化スポーツ部副部長)

神山俊昭 (京都府京都文化博物館副館長)

潮江宏三 (京都市美術館館長)

下田元美 (京都府立文化芸術会館館長)

納屋嘉人 (京都経済同友会常任幹事)

平竹耕三 (京都市文化芸術政策監)

細尾真生 (京都経済同友会副代表幹事)

八木茂 (京都経済同友会常任幹事)

山内秀顯 (京都文化交流コンベンションビューロー専務理事)

若林卯兵衛 (京都経済同友会監事)

顧問

秋山喜久 (関西広域連合協議会会長)

有馬頼底 (京都仏教会理事長)

安藤孝夫 (京都経営者協会会長)

池坊由紀 (池坊華道会副理事長)

稲盛和夫 (稲盛財団理事長)

マルクス・ヴェルンハルト (ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川館長)

柏原康夫 (京都府観光連盟会長、京都市観光協会会長)

千玄室 (裏千家大宗匠)

高階秀爾 (大原美術館館長)

立石義雄 (京都商工会議所会頭)

服部重彦 (京都工業会会長)

シャルランリ・プロソー (在京フランス総領事、アンスティチュ・フランセ関西館長)

村田純一 (京都文化交流コンベンションビューロー理事)

監事

藤井龍美 (京都銀行協会専務理事)

松永幸廣 (京都監査法人マネージングパートナー)

2015 年 6 月現在

[アーティストックディレクター選考委員会]

委員長

長谷幹雄 (京都経済同友会代表幹事)

委員

大野木啓人 (京都造形芸術大学副学長)

岸和郎 (京大工学部教授)

潮江宏三 (京都市美術館館長)

篠原資明 (京大総合人間学部教授)

島本浣 (京都精華大学芸術学部長)

高橋信也 (森ビル株式会社執行役員、森美術館館長付アドバイザー)

建畠哲 (京都市立芸術大学学長)

水沢勉 (神奈川県立近代美術館館長)

*役職は 2013 年 1 月選考時点

[プロフェッショナルアドバイザーボード]

メンバー

石原友明 (京都市立芸術大学美術学部教授)

伊東正伸 (国際交流基金文化事業部企画役)

越前俊也 (同志社大学文学部教授)

大野木啓人 (京都造形芸術大学副学長)

神谷幸江 (広島市現代美術館学芸担当課長)

北野圭介 (立命館大学映像学部教授)

リン・クック (ナショナル・ギャラリー・オブ・アート [ワシントン D.C.] 近代美術特別プロジェクト主任キュレーター)

ワシフ・コルトウン (SALT オンライン [イスタンブール] リサーチ & プログラムディレクター)

佐藤守弘 (京都精華大学デザイン学部長)

島本浣 (京都精華大学芸術学部長)

杉浦幸子 (武蔵野美術大学芸術文化学科学科准教授)

高橋信也 (森ビル株式会社顧問)

椿昇 (京都造形芸術大学芸術学部美術工芸学科学科長)

クリス・テルコン (テート・モダン [ロンドン] 館長)

並木誠士 (京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長)

ウテ・メタ・パウアー (南洋理工大学生センター・フォー・コンテンポラリー・アート [シンガポール] 館長)

ロジャー M. ビュルゲル (ヨハン・ヤコブ博物館 [チューリヒ] 館長)

平芳幸浩 (京都工芸繊維大学美術工芸資料館准教授)

牧口千夏 (京都国立近代美術館主任研究員)

松尾恵 (MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w [京都] 代表)

森口邦彦 (染織家・人間国宝 [京都])

森脇清隆 (京都府京都文化博物館学芸課映像・情報室長)

山本麻友美 (京都芸術センター プログラムディレクター)

吉岡洋 (京都大学大学院文学研究科美学美術史学教授)

芳野明 (京都嵯峨芸術大学芸術学部教授)

リゼッチ・ラニヤード (美術批評家 [サンパウロ])

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015

アーティスティックディレクター

河本信治

事務局長

尾崎宣之

次長

今岡久登 (一般社団法人京都経済同友会)

西田宏幸 (京都府)

舟瀬伴子 (京都市)

会計

瀧山統 (株式会社長谷本社)

広報

大西晶子

平昌子

インターナショナルリレーションズ

一色與志子

キュレーター

中谷至宏 (京都市)

アシスタントキュレーター

池澤茉莉

越智正洋

多胡真佐子

永田絵里

宮田有香

パブリックプログラムマネージャー

川角礼子

テクニカルスタッフ

田中健司

スタッフ

平間淳世 (株式会社長谷本社)

永田千尋 (株式会社長谷本社)

企画運営: 京都国際現代芸術祭組織委員会

会期: 2015年3月7日~5月10日

会場: 京都市美術館、京都府京都文化博物館、京都芸術センター、堀川団地上長者町棟、鴨川デルタ(出町柳)、河原町塩小路周辺、大垣書店烏丸三条店、京都 BAL (市内8か所)

会場運営: 株式会社コングレ

会場施工: 株式会社伏見工芸

輸送展示作業: ヤマトロジスティクス株式会社

デザイン、デザインコントロール: 西岡勉

ウェブサイト制作: 合同会社バンクトウ (編集)、pri graphics inc. (デザイン)、

株式会社シーズ (コーディング・システム)

SOPHIA BOOKSTORE 運営: 株式会社大垣書店

PARA CAFÉ 運営: % Arabica Kyoto、ROKUSISUI

PARASOPHIA サポートスタッフセンター運営: 京都芸術センター

カタログ・ガイドブック印刷: 日本写真印刷株式会社

テクニカルサポート: ULTRA FACTORY、SANDWICH

記録写真撮影: 岡崎麻衣、岡本成生、小野なつ季、片山達貴、川崎梨子、顧剣亨、竹浦曾爾、館かほる、西浦綾桂、野々下禄斗、村治瑞穂、柳瀬安里、米田有希、王紹瑄

蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」制作助手: 尾角朋子、岡本秀、片倉康輔、川久保美桜、木津寛子、合志信之介、児玉彩、藤田沙織、金剛地彩子、佐藤愛、皿谷明日香、銭超凡、瀧瀬麻衣、田中恵美、谷本慶一、崔多情、寺島千絵、中井友路、仁方越洪輝、西山雄大、林加奈子、日岡美穂、ベサンスン、松尾加奈、矢谷和基、山田真緒、楊丹妮、吉村安代

キュレトリアルサポート: 浅見旬、岡部るい、片山達貴、顧剣亨、小泉智子、島田桃子、周思敏、田附那菜、田中祥子、中谷可惟、朴星恒、橋本柚香、花田康史、福元崇志、三原聡一郎、尹志慧、好光義也

広報サポート: 浅田実季 (インターン / 同志社大学)、為村瑠美、野田菜奈美、PPP 参加者の方々

事務局アルバイト: 大江直樹、木津寛子

『パラ人』: 吉岡洋、浅見旬、榎本悠人、上村優、近江ひかり、倉部一星、古俣皓隆、佐藤健太郎、清水明日香、角千波、高橋奈々、根津歩、野海智子、朴星恒、橋本柚香、橋本よしの、蓮田真優美、真壁悠、元行まみ、山羊昇、安田七海、尹志慧、好光義也、渡邊拓也

掲載写真撮影者

[会場・作品]

飯川雄大、表恒匡、河田憲政、岸本康、株式会社コングレ、四方邦熙

[プログラム・イベント]

小野なつ季、片山達貴、顧剣亨、館かほる、野々下禄斗、蓮田真優美、林直、光川貴浩、村治瑞穂、柳瀬安里、王紹瑄

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015

開催報告書

2015年8月発行

監修 京都国際現代芸術祭組織委員会

編集 舟瀬伴子、中谷至宏

デザイン・印刷 日本写真印刷株式会社

発行 京都国際現代芸術祭組織委員会

〒604-8152 京都市中京区烏丸蛸薬師下ル手洗水町 645

flowing KARASUMA 2 階

